

# 會 報

第 13 号

平成6年度



贈

結成十周年記念

平成三年十月吉日

滋賀県老人大学校同窓会

滋賀県レイカディア大学同窓会

目次

1. 挨拶	1
2. 支部だより（支部活動状況）	1
3. 会員だより（文集）	24
4. 会員名簿	138
5. 平成七年度定期総会次第	193
6. 平成六年度事業報告及び収支決算報告	194
7. 平成七年度事業計画及び収支予算（案）	196
8. 滋賀県レイカディア大学同窓会会則	198
9. 同窓会役員名簿	202
10. 同窓会表彰規程	203
11. あとがき	204

## 備えあれば憂なし

同窓会長 安倍 勉

この教訓はことある毎に申されているが実行が不充分である。

このたびの阪神地区の大激震によりこの教訓の重要性を痛切に感じたものです。

去る一月十七日早朝に襲いました阪神地区の激震は、一瞬の中に五千四百数十名の命を奪い、家屋は倒壊し或は焼失し、罹災者は三十万人以上という予想を超える大被害を受け今日に至るも、紙上でTVでその後の情勢を詳細に報道して傷跡の甚大なること思い、長期に亘る避難生活を余儀なくされている方々は、春の遠のくと存じて痛限の極みであります。いろいろの援護の手があらゆる方面より差し伸べられ、特にボランティアの活動は頼もしく、感謝の外ありません心から復興の早からんことをお祈りする次第である。

防災計画の不備や管理体制のまずさを指摘されているが、あの予想だにしない大震災の大被害の最中に連絡及び対策が不充分で出来なかったことは、行政の限られた人数であり被害の甚大で動転し手のつけられなかったことを承知するのであるが、自然の暴挙は予知も不可能で防ぎようもなく、被害の甚大を招いたので誰か阪神地区の大震災を齎らしたことは神のみぞ知る試練であろうか「災害は忘れた頃に来る」と先人は言う、常日頃から心の構が必要である。

幸かな各府県市は激震に堪え得る防災計画を見直し、援護物資の備蓄の予算措置がなされたと聞く、併せて防災訓練の実施を計画中心と心強い思いである。各々の各家庭に於ても非常災害に対応する準備や心構えの必要を誓って止まない。

十三号の会報の発刊に対し防災の心構えを誓って自ら災害から守りたいものである。

# 支部だより

## 大津市部活動状況

支部長 下司 清

昭和五十九年十一月三十日、滋賀県老人大学同窓会大津支部が誕生して、早くも十年を迎えたのを記念して、平成六年十月十八日大津市老人福祉センターに於て、県より鎌田副校長、大津市より福祉保健部高齢福祉小野課長（県同窓会長欠席）を迎え、支部会員百十五名参加して午前十時より午後三時まで盛大に挙行した。

詳細については、平田副支部長記述の通り。

### 平成六年度の事業

#### 一、本部事業

##### 1. 定期総会 於長浜

出席者 二十一名

##### 2. 三重まつり博九四

参加者 十五名

##### 3. 成果展 於草津校

出品者 十六名

##### 4. 中国研修旅行

参加者 六名

#### 二、支部事業

##### 1. 支部定期総会

出席者 八十五名

##### 2. 親善ゲートボール大会

参加者 二十五名

##### 3. 支部十周年記念大会

出席者 百十五名

##### 4. 支部研修旅行 於湖北

参加者 四十九名

#### 平成七年度の行事予定

##### ○ 支部総会 四月八日

##### ○ 親善ゲートボール大会

##### ○ 支部研修旅行

平成七年度支部役員は次の通り

支部長 下司 清

副支部長 吉田 歳末（兼理事）

平田 正善（ ）

副支部長 高野 喜六

理事

藤田 直喜(堅田)

門馬 三郎(皇子山)

平井 重一(打出)

清水 定意(打出)

小野 次夫(粟津)

奥 正義(北大路)

島田 岩治(南郷)

高野 喜六(瀬田北)

西川 秀雄(瀬田)

幹事

辻 重男(日吉)

中川 文弥(日吉)

森田 末雄(唐崎)

吉田可津子(皇子山)

小笹 英男(皇子山)

桑田 二郎(皇子山)

伊藤 鉄雄(打出)

間宮 たか(打出)

久保 秀一(粟津)

林 忠勝(北大路)

春山ミサヲ(南郷)

古江 喜広(南郷)

西田千代子(石山)

堀井 円城(石山)

下村 俊夫(瀬田北)

高野 節子(瀬田北)

本郷 武子(瀬田北)

中川 タカ(瀬田)

坂下 重雄(瀬田)

會計 伊藤 実三

監査 堀井与士春・齊藤 重雄

顧問 高野 惣平

県老大同窓会大津支部結成十周年記念式典盛大に挙行される

大津支部副支部長

実行委員長 平田 正善

滋賀県老人大学同窓会大津支部結成十周年記念式典が、平成六年十月八日、大津市打出浜大津市老人福祉センターにおいて開催され、会員出席者一一三名、御来賓として、滋賀県老人大学校長代理副校長鎌田昭三郎氏、大津市長代理高齡福祉課長小野壽夫氏のご臨席を賜り盛大に開催されました。

当日は幸い好天に恵まれ、記念式典は定刻実行委員長の司会で始まり下司支部長の式辞、来賓の祝辞は県老人大学校長代理とし副校長を始め大津市長代理より心温まる力強い励ましの言葉があり出席者一同深い感銘をうけました、県老大同窓会長安倍勉氏は所用の為欠席されましたが、同窓会支部発展と十周年記念の盛会を祝す祝電をいただきました。

第二部の記念講演は、滋賀県民生委員協議会事務局長の深田弥行氏から演題「待たれる日々を、かたりべこそいのさ」と題し約四十分に亘り、先生の永年の教職時代の体験に基づく子供世界の実情と現代社会、特に老人の将来に向っての心構えに就いて豊富な知識のもとに有益なるご講演をいただき、出席者全員深い感銘を受けました。

第三部の記念祝賀行事として大津市在住の滋賀県芸術祭に毎年参加出演をして其の深さに好評を博しておられる、滋賀県吟剣詩振興会会員に依る詩吟「宝船」を木村秋城氏「九月十三夜陣中作」を橋本幹城氏、詩舞「名槍日本号」を小林鯉爽風氏「親を思う」平田鯉水伯氏、民謡「さんさ時雨」を浜頭正男氏に熱演をしていただきました。

此の後大津なつメロコーラス（代表者伊藤幸雄氏）による「なつメロコンサート」により、私達の青春時代に毎日唱った思い出の歌「春の小川」「鯉のぼり」「茶つみ」「ふるさと」「われは海の子」又思い出の戦時歌謡「露宮の歌」「愛馬行進曲」「暁に祈る」「ラバウル小唄」思い出の流行歌「支那の夜」「旅の夜風」「めない千鳥」「月がとっても青いから」フィナーレに琵琶湖就航の歌、以上の演目を司会者実行委員西川秀雄氏の上手な演出により、祝賀行事を約一時間に亘り観賞し、出席者一同楽しい時を過ごしました。

第四部懇親会は大広間において開催、支部長の開宴の挨拶に続いて支部最高齢者堀井与士春氏の発声で乾杯した後、懇親会に入り世間話に花が咲き、終始和やかな雰囲気包まれ十周年記念式典の総てが盛会裡に終了しましたことを心から喜ぶものであります。

## 湖南支部活動報告

支部長 藤本 龍三

支部をお預りして早くも二年が過ぎようとしております。

ご承知のとおり、当支部は二市四町にまたがり（草津市、守山市、栗東町、野洲町、中主町、志賀町）びわこ大橋を湖南湖西にと広域になっているため、各種の会合等に困難な現状であります。

これでも少しでも解消するべく、理事会等で検討協議を致しております。皆さんの中で良い案がありましたら、ご教示賜われれば幸いに存じます。

### 一、組織の状況

#### 現在の会員数

草津市六十四名、守山市四十九名、栗東町十五名、  
野洲町三十一名、中主町十三名、志賀町十六名、  
合計 百八十八名

### 二、事業実施状況

平成六年四月一日 会計監査

“ 四月十八日 支部総会を守山市つがやま荘で開催、

出席者五十名で次の事項を審議し、万場一致で可決、盛会に終了する。

イ、平成五年度事業経過報告及び収支決算報告

ロ、平成六年度事業計画(案)並びに収支予算(案)、原案通り可決

ハ、役員改選

現役員いづれも再任

ニ、支部規約(会則)の一部改正(案)、原案通り可決

三、支部役員会

平成六年五月二十三日

三役会 会長宅

支部会員親睦旅行細部打合せ

平成七年二月十三日

支部理事会 草津第二公民館

イ、本部広報部会の報告

。会報十三号の原稿依頼

ロ、本部研修部会の報告

。成果展について

。平成七年度研修旅行

ハ、その他

平成七年三月三十日

平成七年度総会議案書審議

四、支部会員親睦旅行

平成六年七月四日～五日

和歌山県有田方面

五、十五期卒業生との懇談会

平成六年十月二十日

草津市勤労福祉センター

出席者 十五期生 十一名

理事 十一名

計 二十二名

。支部事業及び支部会則等の説明、その後、懇談会を開催、新会員と理事との意見交換等があり、有意義に会を終ることができた。

六、本部事業への参加

○平成六年七月十一日 総会 長浜市 浜湖月

○平成六年八月二十八日

三重まつり博九四

○成果展

平成六年九月十四日～十九日

支部役員名簿

○支部長 藤本龍三 (本部理事)

○副支部長 中村勝一 (本部理事)

○会計 田中貢

○理事 草津市

○支 福井しげの

○支 山本隆三

○支 守山市

○支 井上一男

○支 志賀町

○支 中井良知

○支 栗東町

○支 甲林愛子

○支 野洲町

○支 谷富田もとよ

○支 中主町

○支 山中一男

○支 監事 嶋鐵男

○支 顧問 伊藤博祐

### 甲賀支部活動状況

調査報告 奉還部 役員名簿

支部長 島田寅治郎

副支部長 真鍋光徳

庶務会計 大林源太郎

会計監査 千代倉太郎

はじめに 支部員の数も百名を越し、今年卒業生(十五期生)十一名が同窓会に入会戴き、総数百十三名に成り嬉ばしい限りであります。県レイカディア大学の建学の精神に則り、同窓会支部員も又母校の発展に寄与すると共に、本会や支部の事業に、積極的

に取組んで参りました。其の活動状況を纏めて、御披露申し上げます。

○ 甲賀支部別会員数 石部町十四、甲賀町十五、甲西町三十五、甲南町十三、水口町二十二、信楽町十一、土山町三、計 百十三名

○ 甲賀支部役員 支部長 島田寅治郎 (因内務局長)

副支部長 真鍋光徳

庶務会計 大林源太郎

会計監査 千代倉太郎

顧問 伊藤博祐

支 中井良知

支 山本隆三

支 守山市

支 井上一男

支 志賀町

支 中井良知

支 栗東町

支 甲林愛子



理事(各町担当)

井上 重治・北村 政男・大北 忠一・福島清太郎・

山本 有行・坂上 八重・村田とし枝・藤川一二三・

福島 安男・片淵 保雄・奥村 義雄・今井 博・

谷口 正夫

顧問 丸市 喜好

○ 弔

支部物故者は、同窓会発足以来平成七年二月末現在で十九名に成りました。安らかな御冥福をお祈り申し上げます。

合掌

○ 退会者

現在迄に三名であります。誠に遺憾であり、のこりおしく、残念でございます。

○ 支部役員会

。平成六年四月十五日

○ 協議事項

(1) 支部役員改選について

(2) 平成五年度収支決算審議

(3) 平成六年度事業、予算等の審議

。平成六年六月二十二日

支部三役会、役員引継事務、その他

。平成六年六月三十日

○ 協議事項

(1) 本会の総会出席対処

(2) 県成果展・県研修旅行(国内、海外研修)

(3) 支部研修、その他

。平成六年九月五日

○ 協議事項

(1) 支部研修会の開催

(2) その他

。平成七年二月十四日

○ 協議事項

(1) 県広報部会、研修部会に基く支部の取組徹底

(2) その他

○ 甲賀支部総会

。平成六年六月七日 場所 滋賀県立老人福祉センター碧水荘(水口スポーツの森隣)

(1) 総会次第

。平成五年度事業報告・同年度決算報告

監査報告 承認。役員改選。平成六年度事業計画

同予算審議承認。その他

○ 甲賀支部研修会

平成六年十月三十一日

- (2) 昼食並に懇親会等を通じ会員相互の親睦を深め、地域老人の視野を深める。 当日三十名参加
- (1) 場所 社団法人日本アイソトープ協会甲賀研究所見学。

科学と生活のパイプであり、アイソトープが私達の知識と利用技術の普及、進歩と産業経済の振興に寄与するものである事に、わが国原子物理学の先駆者である一面を見せ付けられた思いであった。その昔アイソトープとは同位元素の意である語源の学生時代を思い出しています。

- (2) 近江国、櫛野寺（通称いちいの観音）に、タイムトンネル（桓武天皇延暦十一年の昔）を出て、日本最大坐仏十一面観音（国宝）湖東の正倉院とも言う、らくやじに行く。平安時代の仏像群の宝庫である此らくや寺は、国宝坐仏は勿論の事、田村毘沙門天、薬師如来、聖観世音、地藏菩薩、吉祥天、弥勒菩薩、釈迦如来、仁王尊、白象、庭に出ると古木の櫛（いちい）の木・榎の木（伝教大師お手植の木）・經典、県指定、明德

○ 同窓会県本部への対応

版法華経、等何を見ても心静まるものばかり、その雰囲気の中で、参加者三十余名の昼食と懇親を計り、親睦を深める事が出来て心安まる一日の研修を終る事が出来ました。此の研修に関し当甲賀町教育委員会や当町理事関係者に変な御苦労をおかけ致しました事を付記して、お礼を申し上げます。

- (1) 総会は、長浜市浜湖月で七月十一日もたれ、湖北支部の方々にお世話に成り、会長表彰二名の栄に浴しお目出度い事でありました。又多数の支部員の参加を頂き有難い事でありました。
- (2) 本部研修旅行は。国内旅行、三重祭博日帰りプラン、海外中華人民共和国桂林・広洲・香港五日の、悠久の歴史。壮大な自然に触れる旅、共に参加者が有り有意義に終る事が出来ました。
- (3) 成果展。搬入九月十四日、搬出九月十九日、出品数陶芸七、絵画三、書一、工芸二の多くの出品点数を頂き感謝申し上げます。
- (4) 本部会議。基の都度求めに応じ所属の責任を果しました。

# Japan Radioisotope Association

## 甲賀研究所

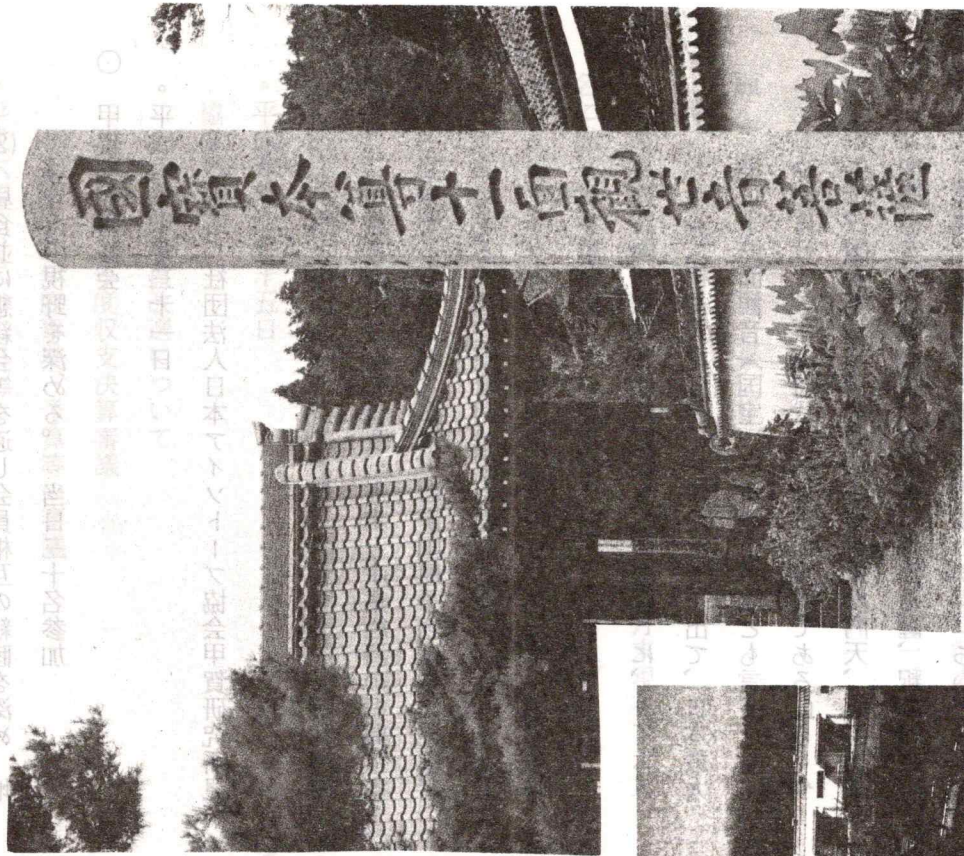
甲賀研究所は、コバルト60によるガンマ線照射利用の開発と普及のため、昭和56年に建設されました。

手術用手袋、注射器、人工透析用血液ろ過器などディスポーザブル医療用具の放射線滅菌、高分子物質の放射線改質、低線量実用照射研究の受託や技術者の養成などを行っています。

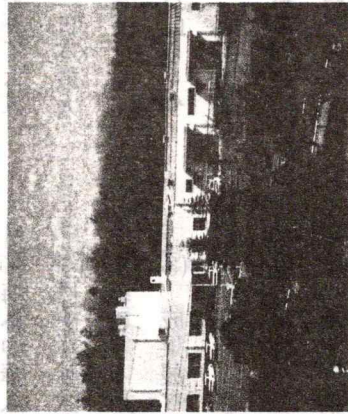
財団法人  
日本アイソトープ協会

甲賀研究所

(甲賀支部研修地)



(甲賀郡甲賀町様野 様野寺正面)



(甲賀郡甲賀町島居野)

○ おわりに  
 字数の関係に支配されて、行って参りました事を羅列して  
 挙げました。舌足らずで分り難い事も多いと思いますが、お  
 許し下さいませ。

二、役員会の開幹状況  
 三、役員会の開幹状況  
 四、婦人部の活動  
 五、平知六平四の交遊生活  
 六、平知六平四の交遊生活  
 七、平知六平四の交遊生活

- 一、平知六平四の交遊生活
- 二、平知六平四の交遊生活
- 三、平知六平四の交遊生活
- 四、平知六平四の交遊生活
- 五、平知六平四の交遊生活
- 六、平知六平四の交遊生活
- 七、平知六平四の交遊生活
- 八、平知六平四の交遊生活
- 九、平知六平四の交遊生活
- 十、平知六平四の交遊生活
- 十一、平知六平四の交遊生活
- 十二、平知六平四の交遊生活
- 十三、平知六平四の交遊生活
- 十四、平知六平四の交遊生活
- 十五、平知六平四の交遊生活
- 十六、平知六平四の交遊生活
- 十七、平知六平四の交遊生活
- 十八、平知六平四の交遊生活
- 十九、平知六平四の交遊生活
- 二十、平知六平四の交遊生活
- 二十一、平知六平四の交遊生活
- 二十二、平知六平四の交遊生活
- 二十三、平知六平四の交遊生活
- 二十四、平知六平四の交遊生活
- 二十五、平知六平四の交遊生活
- 二十六、平知六平四の交遊生活
- 二十七、平知六平四の交遊生活
- 二十八、平知六平四の交遊生活
- 二十九、平知六平四の交遊生活
- 三十、平知六平四の交遊生活
- 三十一、平知六平四の交遊生活
- 三十二、平知六平四の交遊生活
- 三十三、平知六平四の交遊生活
- 三十四、平知六平四の交遊生活
- 三十五、平知六平四の交遊生活
- 三十六、平知六平四の交遊生活
- 三十七、平知六平四の交遊生活
- 三十八、平知六平四の交遊生活
- 三十九、平知六平四の交遊生活
- 四十、平知六平四の交遊生活
- 四十一、平知六平四の交遊生活
- 四十二、平知六平四の交遊生活
- 四十三、平知六平四の交遊生活
- 四十四、平知六平四の交遊生活
- 四十五、平知六平四の交遊生活
- 四十六、平知六平四の交遊生活
- 四十七、平知六平四の交遊生活
- 四十八、平知六平四の交遊生活
- 四十九、平知六平四の交遊生活
- 五十、平知六平四の交遊生活

改訂八潮支店寄贈券

規模 B5版四十六ページ、広告協賛三十二店。  
 〇 第五回役員会 一月二十三日 田中堅  
 〇 第六回役員会 二月二十三日 田中堅  
 〇 第七回役員会 三月二十三日 田中堅  
 〇 第八回役員会 四月二十三日 田中堅  
 〇 第九回役員会 五月二十三日 田中堅  
 〇 第十回役員会 六月二十三日 田中堅  
 〇 第十一回役員会 七月二十三日 田中堅  
 〇 第十二回役員会 八月二十三日 田中堅  
 〇 第十三回役員会 九月二十三日 田中堅  
 〇 第十四回役員会 十月二十三日 田中堅  
 〇 第十五回役員会 十一月二十三日 田中堅  
 〇 第十六回役員会 十二月二十三日 田中堅



# 近江八幡支部活動状況

支部長 安倍 勉

## 一、組織の状況

平成六年四月以降今日までに四名の会員が死亡。現在十支区百七十三名(男九十九・女七十四)役員幹事二十八名。

## 二、定期総会

平成六年四月八日 支部定期総会を開催。出席会員六十三名、来賓としてのご臨席を賜り、次の議題を満場一致可決し盛大に終わる。

## 議事

1. 平成五年度事業及び同会計の報告
2. 平成六年度事業計画及び同予算
3. 学区幹事の交替連絡

## 三、役員会の開催状況

◎ 第一回役員会 五月九日 八幡公民館

## 議事

- イ 本部総会(長浜)の対策  
出席者、見学コース、交通など
- ロ 作品展の予定、支部としての実行計画(リスト)

## 作成)

ハ 研修旅行 a 本部の計画

b 支部 七月：安土城、資料館

春：別途検討

## ニ 講演会の計画

a 六月 近江の歴史

◎ 第二回役員会 六月二十三日 八幡公民館

## 議事

- イ 本部同窓会準備 出席人員 二十五名  
見学 大通寺など
- ロ 婦人部活動、支部研修会、講演会、支部機関紙発行計画、研修旅行対策、その他

◎ 第三回役員会 七月二十六日 八幡公民館

## 議事

- イ 本部同窓会後対策
- ロ 会報原稿募集 八月十日 広告依頼
- ハ 本部の中国研修旅行、三重博参加募集

◎ 第四回役員会 十月五日 白雲館

## 議事

- イ 十三号支部会報配布
- ロ 秋の研修計画(延暦寺史跡探訪)
- ハ 十五期生十二名受け入れ、婦人部活動打ち合わせ

◎ 第五回役員会 一月二十三日 田中屋ビル

議事 イ 総会 (四月二十七日) 西 村 泰 雄

対策等支部の後期活動計画

ロ 会計概算報告

ハ 本部研修 (歌舞伎見学) 参加要領

ニ 会議終了後懇親会を行う

◎ 第六回役員会 三月二十七日 八幡公民館

議事 イ 総会議事、役員改選、来賓招待など

ロ 会費、バス手配

四、婦人部の活動

イ 手芸教室 第一回七月六日 バックの手編み

支 部 員 木 野 計 一 (支十回) 第二回七月二十日 バックの仕上げ 二十名

ロ 研修、料理教室活動は延期 木 野 計 一

五、研修活動

第一回 七月八日 ふるさと歴史ウォーク 参加者三十名

(安土城―考古博物館―文芸の里―沙々貴神社)

第二回 十二月二日 比叡山史跡探訪は参加者少数のため中止

六、会報の発刊

日程 原稿募集八月十日：校正九月十日：発刊十月五日

規模 B5版四十六ページ、広告協賛三十二店。

印刷部数 二百五十部

七、成果展

出展者 十四名 会場 (レイカディア大学)

八、役員名簿

支部長 (本部部长) 安倍 勉

副支部長 (本部理事) 小川 常三

会 計 佐々木尚一 庶 務 岡村金治郎

婦人部長 富田 政尾 会計監査 岡田富治郎

相談役 中島庄右衛門、吉川保三郎

本部理事 村井 繁一

学区幹事 八幡東 井上 源一 奥野 啓子

八幡西 中島 英三 村西 会員好

八幡南 洞 忠郎 高柳 治子

島 川田 稔

金田北 村井 繁一 (兼)

金田南 筒井 好枝

岡 山 深尾 源次 岡田 茂子

北 里 二木 啓三 安田 文子

武 佐 小川 常三 (兼) 小西 房子

馬 淵 志賀 一郎 坂本 芳子

## 湖東支部活動状況

### 一、支部役員紹介

支部長 木俣 信一(安土町)

副支部長 中田 芳雄(能登川)

監事 溝井 常夫(安土町)

庶務会計 大沢 行雄(安土町)

一、会員数 一四五名

桐原東 大黒 亮蔵

桐原西 生田 薫

桐原南 伏西千代子

支部長 木俣 信一

高木 新蔵(八日市)  
大沢幾之助(日野)

市町名	男	女	計	各市町理事
八日市	九	八	一七	武久四郎
安土	一二	五	一七	善住喜録
蒲生	七	一	八	板岡久右エ門
日野	一七	四	二一	田口敏之
竜王	一三	一〇	二三	西村泰蔵

永源寺	五	〇	五	松吉良清
五個荘	一六	四	二〇	塚本次郎
能登川	二一	一三	三四	矢嶋昇治
計	一四五	一四五	一四五	

本部での役員のみのは行事は省略致します。が支部独自の事業としては、最近これと云った事も無く、年二回の役員会を行う程度で色々と御意見やご希望をお聞きし乍らもなかなか実行に及ばず力のなさを痛感致しおる様な現状ですが、会員も年々増加し年齢的にも若い方が多くなって参りましたので、今各町に於ての連絡を密にして、それぞれの計画を実行されてその集りが支部の活動として結集されればと思いますが、現実、大学へ入学される方々の共通するものを纏む事がむづかしく、昔はゲートボール大会も行はれましたが、これも一部の限られた方になり(地域の差はあるが)卒業生でのチーム編成もむづかしい町もあり、之も共通する事とも云いがたく、私の町の事で申訳けありませんが、十七名の会員中三名のみと云う現状で只今の在校生を入れて一チーム何んとかと云う事でその節はと楽しみにしております。と云って何もしない訳にもゆかず本年は早やい所で日帰り旅行か出来れば一泊でもと考えております。前回

本部の計画された三重博も五名の参加、支部で計画すればより多くの参加があらうかと思っております。

今年は県の総会を湖東支部の当番です。支部会員の皆様には特別御世話になる事と存じますが、一つの大きな行事を終える事によってより親しみも又共同意識の生じて来る事を楽しみにしております。よろしくお願い致します。

会場は当番町として、歴史と文化の町安土でと考えております。この機会に是非共多数の御来町お待ちしております。

取りとめのない報告ですが皆様様のよき御指導御鞭撻を御願ひ致します。

### 彦根愛犬支部活動状況

副支部長 辻 幸夫

天災はさげられない

災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともにご遺族の方々 お悔み申し上げ家屋の倒壊や火災で住宅を失われた

方々に心からお見舞い申し上げます。

彦根愛犬支部も米原校開校十年余となり現在会員数も毎年増加し心強い限りです。去る二月六日の役員会でも社会参加奉仕の有方が話題になり、毎年の総会の有方についても力強い話し合いがもたれた。次回の役員会で検討することになった。よき芽の出ることを願っている。

本年度支部役員は次の通りです。

支部長 野中 正

副支部長 辻 幸夫

会計係 西田 吉夫

事務局 中島 藤五郎

理事は次の通り

愛知郡 北川弥一郎 辰巳佐一郎

西堀 嘉一 (県理事)

犬上郡 西山弥一郎 西沢 正之 (県監事)

彦 根 杉本文治郎 磯貝 澄雄 (県監事)

小堀 吉夫 寺村 真三

福川 隆三

犬上郡 枝村 和次



## 湖北支部活動状況

支部長 森 量海

はじめに

私達の支部が、県本部総会の会場を、お引受けして以来、支部活動をやりつゝこれらの準備も、支部役員の方々の絶大な御協力のお蔭であり紙上を持って厚くお礼申し上げます。

又伊香郡の会員さん、見事な花まで、副えて下さってまことに有難うございました。

十五期生を迎えて、二二二名と大勢の会員、喜ばしい次第です。県老大建学の精神、会員の親睦及び母校の発展に取組んでまいりました。その活動状況を要約して申し上げます。

### 一、(市、郡、別会員)

長浜市	五四名	坂田郡	七四名
東浅井郡	二九名	伊香郡	五五名
計	二二二名		

甲、支部物故者、同窓会発足以来、二六名(本年度二名)

御冥福を御祈り申し上げます。

合掌

役員名簿は「別表」のとおりです。

二、五月十七日 支部役員会議

### 1. 支部総会の件

平成五年度決算、同監査、平成六年度事業並びに予算案、総会日時、会場決定

### 2. 本部総会、会場等準備の件

会場||浜湖月 講演・講師の依頼、その他、被表彰者推せん

三、五月二十五日 支部総会、案内状(来賓・支部会員)発送

四、六月二十一日 支部総会

### 1. 会場||浜湖月、四九名参加

2. 来賓||同窓会本部安倍 勉会長、同前会長中川 長三氏の臨席、祝辞を受ける。

3. 議事||平成五年度事業並びに決算承認、平成六年度事業並びに予算案、審議の結果、原案通可決す。その他、例年どおり支部会員名簿交付

4. 懇親会を行い、大いに気炎を上げる。(会費二千元)

五、六月三十日 本部総会準備の最終打合せ、支部役員

六、七月十一日 本部同窓会総会

会場||浜湖月

参加人員||一六〇名(支部参加人員四七名)

議事は平成五年度事業報告と決算承認、平成六年度事業計画と予算審議の結果原案通過可決す。

さらに当支部より次の提案事項が可決す。

1. 米原校に「陶芸」学科をつくり窯を新設してほしい。
2. 米原校園芸学科に対し「二百坪位の」不休の農地を借りうけ実地研修の出来るように創設してほしい。
3. 来賓、レイカディア大学副校長、老人クラブ連合会代表長浜市長（代）それぞれの祝辞を受け、講演は講師として三原英一氏（長浜市民交流センター所長）講演を拝聴
4. 昼食、懇親会で終始和やかな雰囲気の中で親睦と交流を深めつゝあった。

#### 七、八月三日 支部役員会議

1. 本部、三重まつり博研修旅行、支部参加の取りまとめ
2. 支部、研修旅行先の決定
3. 会費の納入状況と検討
4. 本部成果展への出展
5. 九月三日の公開講座の参加再度、会員への呼びかけ。
- 八、八月二十六日 本部県外日帰り研修旅行、三重まつり博支部十七名参加のところ、病気その他で十三名の参加

#### 九、九月十三日 第十一回本部成果展、本日搬入、八点

九月十七日搬出、各出展者へ。

十、九月二十七日 例年どおり、十五期、老卒業生、支部関係会員、三十三名に支部会員名簿を手渡し歓迎した。

十一、十一月二十一日 支部県外日帰り研修旅行



三州足助屋敷、三十三名参加、三七名のところ病気、その他で四名欠、でも十五期卒業の会員さん数人ご参加下さって何よりです。この研修旅行は、支部結成以来二回目です。参加者の方から、次は一泊の希望も出ています。

十二、十二月十日 支部役員会議 本日前入、八時

1. 十三号会報の寄稿割当 渡辺子の册十三号の巻頭

2. その他、支部独自の会報発刊について検討 三重まで印刷

十三、三月四日 公開講座 冬田由史、会員への呼びかけ

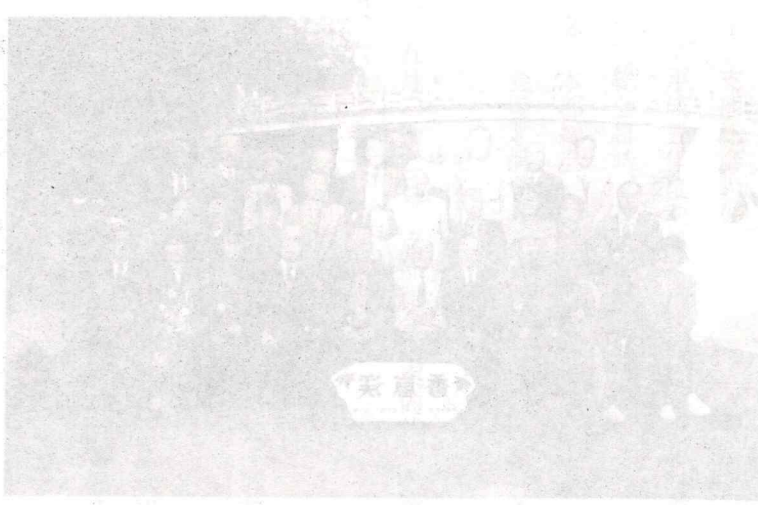
米原文化産業交流会館

講師 東大教授 木村 武二氏 多数参加

十四、三月十日 原稿取りまとめ

三月二十日 本部へ提出

三月二十日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ  
三月二十日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ  
三月二十日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ



米原対「一課去」字林さくくり案を審議して終了  
米原対「一課去」字林さくくり案を審議して終了  
米原対「一課去」字林さくくり案を審議して終了

三月二十一日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ  
三月二十一日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ  
三月二十一日、支部役員会議 支部委員の呼びかけ

滋賀県レイカディア大学同窓会湖北支部役員名簿

平成6年度

役職名	氏名	住所	〒	電話	備考
支部長	森 量海	長浜市常	526	(0749) 62-3910	(期・学) 3. 文
副支部長	松下保清	坂田郡米	521	54"-2395	8. 陶
	秋野昇	東浅井郡	529-01	73"-2644	6. 園
	林 憲雄	伊香郡木	529-04	82"-3640	11. 文
幹事	広部庄太郎	長浜市口	526	62"-6601	6. "
	清水満子	" 朝	"	62"-1650	9. 生
	正福寺孫太夫	" 堀	"	62"-2762	11スポーツ
	川崎重兵衛	" 祁	"	62"-4882	12. 園
	中川志げ子	" 朝	"	62"-8496	13.スポーツ
	北澤清太郎	" 石	"	62"-0047	13. 文
	音居三郎	坂田郡近	521	54"-1173	3. 陶
	中川寿美子	" 近	"	52"-1365	6. "
	林 春三	" 伊	521-03	55"-1377	11. 文
	松本芳雄	" 米	521	52"-3508	11. 園
	馬洵尚之	" 山	521-02	55"-1711	11. 文
	藤井峯子	東浅井郡	529-01	73"-4104	6. "
	辰己外弥	"	529-01	73"-3806	7. 園
	中村重之	"	529-03	78"-0762	" "
	大濱寛一郎	"	526-01	72"-3241	11. 陶
	大比叡留次	伊香郡高	529-02	85"-2907	11. 園
	田辺一	" 才	529-04	82"-4160	" "
	平塚志保	" 西	529-07	88"-0003	11. 生
	小山巖	" 糸	529-05	86"-2773	12.スポーツ
	河路寛	" 高	529-02	85"-3952	13. 文
監事	西 巖 スミエ	" 高	"	85"-2112	7. 生
	横田定雄	東浅井郡	529-01	73"-2857	11. 文
県本部役員		森 量海 松下保清 秋野昇	(湖北支部事務局 庶会担当兼)		

# 高島支部活動状況

支部長 横田 三千太郎

1. 平成五年度諸行事の報告
2. 役員改選

改選に先立ち、支部規則の見直しを行う。

支部長	横田 三千太郎
副支部長	志 連 政 五 郎
庶務会計	清 水 豊

### 意見交換

- ・ 通学の便を図って戴けないだろうか、そうすれば卒業生も多くなるのに。
- ・ 支部内の会員交流会が出来にくい。
- ・ 交通の便悪く、いろいろの会合に出席しにくい。

### ○ 会員の活動状況

各町村にあっては、町の老人会の会長・副会長やコーディネーターとして活躍されています。又、老大において習得した実技を活かして、公民館における生涯学習の指導者として、あるいは、ボランティアとして福祉活動にも参加しております。

### ○ 平成六年度物故者

三矢博子（生活科学科 二期）  
生存中は、公民館活動のリーダーとして生涯学習の指導に

高島郡は、学校から遠く離れていて通学に不便なため、入学希望者も少なく、今後の会員増加もあまりのぞめません。しかし、会員の皆様はそれぞれの町村において、地域の人々の生涯学習の手助けに取り組んでおられます。

### ○ 町村別会員数

高島郡	一七名
安曇川町	一六名
新旭町	一七名
今津町	一三名
マキノ町	二名
朽木村	一名
合計	六六名

### ○ 支部総会

期 日	平成六年十一月十八日
会 場	安曇川町 丸三旅館
会議内容	

当って下さいました。

ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈りいたします。

## グループ活動

パスポート

大津支部

十一期生陶芸科 中川 圭子

パスポートも、何冊目か更新しましたが、今のがそろそろ、期限切れになります。

平成五年に、滋賀県老人大学校同窓会の方々と中国へ行きまして。

大阪空港を飛び立ち、二時間足らずで、上海に着き観光し、次の日は目的地「北京」へと日程をこなしていきました。万里の長城にたどり着き、聴きしに勝る強行軍で、一行の半分の人には頂上まで登らず、自分の体に合った所で休憩することにし、残りの元気な人だけで「煙となんとかは、高い所へ登る…」と

かも知れないと、お互に励まし合いながら頂上へと、挑戦しました。

日本の石段のように、段差が整然と並んでいるのではなく、自然石が置いてあるだけで、高さも十糧の処があるかと思うと五十糧の段差の処もあり、手摺りだけは着いていたので、手摺りにぶら下って登りました。

登頂に成功したのも、一団となった皆さんの勢いで登れたのだと思います。

雲の中に聳えたつ「万里の長城」の最高峰から見た其の景色は今も睨の裏に焼きついております。次の日の「故宫博物館」はもう一度ゆっくり見てみたいと思います。

次の年にも滋賀県レイカディア大学同窓会から「桂林・広洲」の旅行のパンフレットが廻ってきました。

早速前回の仲間に電話で呼び掛けた処、殆ど同じような顔ぶれが揃っていました。一行十九名、今度は新しく完成したばかりの関西空港からの出発で、京都から、はるかに乗り空港へと向きました。

かつての大阪空港のロビーには、スチワデスの人とか送迎の人がたくさんおられて、暖たか味がありました。真新しい関西空港は、銀色のパイプが林立し其の広さはすばらしいけれど

あまりにも最新色で冷めたく感じました。二週も来る片所の  
辺りを見廻す暇も無く、ガイドさんの持つ旗ばかりを見て、  
機上の人となりました。桂林」に着いて船で河下りをしましたが、河といっても琵琶  
湖の北湖が動いているという感じで、奇岩、奇峰、水墨画に見  
る景色そのままでした。

船上では、もう一団のドイツの旅行者と手振り、身振り、で  
話したり、写真をとりあったりして国際交流をし数時間の楽し  
い船旅をいたしました。

「広洲」の駅は人々々々、私達がバスから降りると、手に手に  
土産物を持って、買ってくださいと周囲を囲みます。言葉も解  
らず断るのが大変。

香港の夜景を満喫し帰路につきました。  
食べ物の違い、風習の違い、と歴史の俄か勉強も何の役にも  
立たず、異国の珍しい景色を見ながら、広大な土地と、エネル  
ギッシュな人たちに圧倒された四泊五日の旅でした。

今回の旅行も、レイカディア大学の在校生とOBで、年齢差  
も余り変らずお互いに体を労わり合い、助けあい昔からの友達  
のように気持ちの良い方ばかりだったから、楽しい旅が続けら  
れたのだと思います。

日本に着いて、はるかで京都へ帰る車中、来年も元気で皆揃  
って、また海外旅行をしようと約束しました。老境に入り、後何回使えるか解らないけれど、又皆さんと楽  
しい企画に参加できることを夢見て、私のパスポートを更新し  
ておこうと思います。

それから、今 大津支部  
滋賀県老人大学文芸学科を、平成四年の九月に卒業してから、  
二年と半年が過ぎ、人生の終着点を意識する昨今、同期の計  
報に接し、余計にその感慨を深くするこの頃であるが、こんな  
事ばかり言っておれない、卒業を記念して始めた「書道の同好  
会」月二回の集りではあるが、休みなく続いている元気で居ら  
ねば……それから大津市の南老人センターで開講中の書道の  
講座、この運営もこの二月で三年目を達成した。  
又百坪程借りて作っている農園での百姓の真似ごとこれは、  
十年以上のキャリア、アア、忙がしい、ボケている暇はない。

十三期文芸学科 奥田 進

その卒業記念の同好会は、今のところ、県庁滋賀会館近くの鍛冶屋町自治会館を、集合場所に、毎月第一第三水曜の午後一時から四時までを、稽古と雑談の時間として集まっている。老大十三期在学中、三原研田先生の教えを受けた者の集りで、気心の知れたものばかりだ。そんなことで、書道の練習は二の次で、「おしゃべり」は花ざかり、和氣藹々の雰囲気である、指導者らしき者が居ない同好の集まりの気楽さが、卒業後二年半、休みなく続いている原動力の様だ。

シルバー展とか、成果展とか、「文化祭」の作品製作、「創作」？の時は、何とか練習をするが、それも二ヶ月に六回位が緊張の限度かも知れない。

出品作品の製作中、現況が解らずに、迷っている同好の士から、良く受ける相談は、進んでいるのか、どうか「作品の出来具合」は？と、そんな時は、良い指導者が欲しいと思う。

今、小生の手元に、書の古典で、良い作品の出来る状況が、うまく題はした、本がある。

西暦六八七年、中国初唐垂拱三年（則天武后の三年）孫過庭撰の書譜である。日本では、壬申の乱（六七二年）の頃、万葉時代の事約一三〇〇年前の作品だ、この孫過庭は、この本で書聖と云われる、王羲之、王献之、張芝、鐘繇の四人の名人の

書から、書論を展開して、その中に、こんな一文章を残している。「書作は、乖と合があつて、（乖は、調子の悪い時、合は、調子の良い時）、合の五ツの条件が揃った時に良い作品が出来るとしている、原文は、五合交臻、神融筆暢と、なっており、その五合とは、

一の合 神怡務閑

精神が、のびやかに、和らぎ、雑用が無い事

二の合 感恵ニ徇知

感覚がとぎすまされて頭が冴えている時

三の合 時和氣潤

天候が温和で、大気が潤いあること

四の合 紙墨相発

紙と墨が、しっとり、馴染むとき

五の合 偶然欲ス書

興が湧いて、書きたい気持ちになった時

少々読みづらいが、要は、心の持ち方の様だ。先程の作品相

談の様な時は、この五合交臻神融等暢に似た様な事を話して、

一寸ひと休み………することを薦めることにしている。

「神融筆暢」 そんな、こんな、で「指導者は交通信号のよ

うなもの」………こんな事を三十年程前に習った、書道の先生が



言っておられたのを思い出した。本当に人を引張って行くのは、むづかしい、と痛感している処だ。

「少し現況のピーアール」を

在学中から行っていた、滋賀会館の看板を書くボランティア会館の改修の為、暫く休んでいたのを、今年一月末に「オープン」したのを期に、再開することにして、二月から始めている。卒業を記念して始めた書道同好会のメンバーによる、おしゃべりの続きの様な状態でも、結構よろこばれている様だが親切の押し売りに、ならねば良いが、と思っっている次第である。予定の紙数も尽きた様だ、卒業後のグループの現況をお知らせして筆を置くことにする。

## 「同窓会」湖東三山めぐり

当番 愛犬支部

昨年の晩秋の一日、私達陶芸学科の十二期生は、湖東支部の担当で企画し、湖東三山めぐりを案内しました。

能登川駅前に集合し、会員の車に分乗して、九時半ごろ第一

目的地、百済寺に向って出発しました。

○百済寺 湖東三山の中で一番の古刹であること、ルーツをたどると百済であるが、百済寺と読むことを知りました。仁王門の大わらじも印象的でした。

○金剛輪寺 天候にめぐまれて、ちょうどもみじが見ごろ、「血ぞめのもみじ」といわれている、もみじの美しさにたんのうしました。

○西明寺 こゝでも美しいもみじを見ることが出来ました。山門近くでは、不断桜が花をつけていて、もみじと桜を同時に見て、庭園美を満喫することが出来ました。

三つの大きいお寺の参拝を終り、西明寺門前の食堂で昼食会としました。

昨年他界された、浜野さんの御冥福を祈り黙禱を捧げてから食事に移りました。はじめのうちは、それぞれに健康状態などの近況報告でしたが、会が進み、杯を重ねるうちに「名工そっちのけ」の陶芸談義となつて行きました。

すでに、同窓会員から故人も出ました。健康状態の理由による、今日の欠席者もあります。お互いに年齢は充分とっているのだから、と、自分の身の健康管理を確認し合いました。

有名な湖東三山をめぐり、庭園の自然美にひたるとともに、

莊嚴な大寺院の偉大さに畏敬の念を深くすることが出来ました。  
来年は、一泊して「窯場めぐり」を、とよい話を決めて解散し  
ました。

日本より式高補正を以て、  
式並取付の神入新装は、  
即ち、  
即ち、  
即ち、

その重代働き日でござへ、  
非随此時、  
即ち、  
即ち、  
即ち、

員表 井会 輝

高崎きき音致(楽)ノ我が、  
高崎きき音致(楽)ノ我が、  
高崎きき音致(楽)ノ我が、



大率 支 船



長寿社会雑感

一期生福祉学科 吉田 貞雄

高齢者も若返り楽しく生きてゆける世の中を作り上げること  
は、老人だけではなく社会全体の問題といえるでしょう。

昭和二十年八月十五日、中国東北部（旧満州）東安省で終戦  
を迎え、ソ連軍の捕虜となってシベリアに送られ、今から五十  
年前には奥地ロシヤ大監獄で二年間抑留生活を送り、飢えと寒  
さの重労働を毎日つづけて、人生の最悪の生活でした。

明るい長寿社会をスローガンに西欧、北欧の国々では福祉の  
先進地といわれる様々な社会サービスを考え出しています。

日本より先に高齢社会になった国々の水準に比べると、かな  
り「新ゴールドプラン」を一刻も早く、超高齢社会に安心して  
年をとれる社会づくりへ、二十一世紀福祉ビジョンは「高齢者  
保健福祉推進十カ年戦略」に基づき進行中です。

大津市民憲章に「わたくしたち大津市民は健康で明るい生活  
につとめましょう」とあります。

皆様お体に充分気をつけられ、ますますご活躍下さるようお  
祈りいたします。

五期生文芸学科 高野 たみ

阪神大震災一月十七日早朝五時四十六分テレビ画面より

○西田 短歌

- 一、絶望の淵まのあたり怖えつつ崩れおつ家燃えさかる街。
- 一、遺体者に身をすり寄せて不安げに毛布にくるまる遺族悼ま  
し。
- 一、如何ともなす術なきか天災は罪なき人命さらいて過ぐる。
- 一、避難所の人等のなべて飢に耐え寒さに震えつ断水になく。
- 一、復興の目処なきかに見るガレキの山余震続くは見るに忍び  
ず。
- 一、対応の怠慢なるを歎きつつ情報待ちまつ被害者の声。
- 一、震災後三日目の朝次々に知らさるニュースにめりくる胸。

大震災あの発生瞬間に見た生々しい映像、街が火を噴き又夜  
空を焦して壊滅してゆく、崩れ落つ我が家の下敷きに、ガレキ

の中から叫びつつ死んで逝かれた人々の有様、本当に堪えられない地獄絵そのものでした。

廃墟と化した被災地、崩落したビル、家を失い家族をなくした皆様鎮魂の祈りを胸に心からお見舞申し上げます。 合掌

## 阪神大震災

五期生園芸学科 磯田 善通

突きあがる様な震動に続いて大きな横揺れが起きた。地震だと気付いた。家内は「どうしよう」と起き上がったが「寝て居る方がよい」と言った。其の後この辺でこれだけ揺れたのだから、とテレビをつけた。

時間がたつにつれて、次々と災害の映像が入ってくる。関西方面には此の様な地震はないものと信じて居たので、非常用の準備は日頃から何にもしていなかった。

だが、其れを持って出る間もなく家の下敷になり、脱出するのが精一はいの様だ。

自衛策として、懐中電灯、ラジオ、貴重品、これだけはリュックに入れて枕もとに置く様心がけて居る。

この災害に直面して日頃影をひそめて居た人々の道徳心が新に、よみがえったことは大変喜ばしい。特に若人の自発的ボ

ランティア活動に参加して居る行動、中学生がリーダーとなり、小学生も手伝って、水運び、ゴミ掃除、ミニ新聞を作り避難所内の人を励まして居る。人に言われなくても自分達で考えてやる姿をテレビで見た時、末頼しい限り、最大の不幸の中から立上った人の心に感激した。

阪神大震災で亡くなられた、皆様のご冥福を心より祈り同時に一日も早い復興を願うものである。

## 大津絵の美

八期生文芸学科 吉田 歳末

二人の良き師に恵まれて、大津絵同好会に入って二十余年。古さが取得で現在、会長をやって居る。恩師御一人は故人となられたが、御兩人共、所謂、商売画家でなく、學術畑の方で、大津絵の技術、特に大切な、歴史を克明に、教示を受けた。

同好会は昭和二十八年、旧大津市役所で、十人足らずで出発したが、現在常時五十名余、十年選手も多い。初歩講座は毎年

続いて居る。会運営用の色紙、カレンダー、大津夏祭大型行燈、六十枚余の制作、実演会、展示会、等々行事は目白押しだが、描く事即勉強と、皆楽しんでやって居るが、営利目的の作品は会としては作らない。

大津絵は、無名の画工が、世すぎの為に庶民の求めに応じて、同じ図柄を無心に、形紙を使って、数限りなく描いてきた安物の絵で、実用的（信仰、土産）なもので、鑑賞用ではない。誰もが拝し、楽しみ、愛した絵であり、祈り、笑い、愛玩、皮肉、郷愁、と庶民のあらゆる感情を秘めている有心即無心、民衆的美、伝統美、無心の美、平凡の美即非凡の美、それが大津絵の美である。

地域内での、老人家庭向けの、ふれあい弁当の表紙画描きも、五年目に入り、誕生会での色紙贈呈、等々、同好の方々と共に、楽しく、無心に、大津絵を描く、心豊かな日々である。

## 旅の思い出

八期生生活学科 若林 律

歴史の宝庫であるトルコ、エジプトの旅の思い出を、書き留

めたいと思います。

大阪から二十五時間かかってトルコの首都アンカラに着きました。広びろとした広野に奇石の多いのに驚かされました。幻想的で、神代の昔にかえた思いがいたしました。地平線に白くみえる所がありましたので伺いますと琵琶湖の三倍もある塩湖だと聞かされました。附近の砂丘は塩でザクザクしている様な感じでした。バスで三十分程でカツパドキヤに着きました。イスラム教徒の迫害を受けたキリスト教徒の洞窟が所々あり、地下へ潜って宗教生活をして居たそうです、当時の生活がしのべれます。

熱いといっても、バスやホテルの中は快的でした。

一泊してエジプトに向いました。ホテルの窓から靄につまされた何基かのピラミッドを見た時の感激は忘れる事が出来ません、「月の砂漠」の童謡を口ずさみながら見学に出かけました。生命のよみがえりを信じて、埋蔵品の数々、精巧なのに驚きました。

ロンドンに立ち寄って、北極廻りで流水を見て帰りました。教養大学で先生方のお話を聞きながら、少しでも教養を高めたいと願って居ります。

皆様のご身愛をお祈りいたします。

## 阪神大震災に思う

九期生陶芸学科 中野 よし

一月十七日の阪神大震災から一ヶ月がすぎました。関東大震災から七十二年目の悲劇が襲って来たのです。

偶然かそれはいずれも亥年であったとか。

天災は忘れた頃にやって来ると言われていますが、一瞬にして巨大な都市が破壊されてしまいその凄いエネルギーに私たちは震え上がりました。

五千五百余名の方々の尊い犠牲の上にいるんな事がわかってくるようです。そして全国からまた外国からのボランティアの人々が駆けつけての助け合いの姿。私たち人間の進むべき方向がこの大災害の中から自ら指し示されている様な気がしてなりません。

お気の毒な被災者の恐れと苦しみと不自由な中からの教訓を踏まえて、今一日も早い再建をと立ち上がっておられます。

生きているだけでも有難い事ですとけなげに言っておられる被災者の方々に心からのお見舞を申し上げますと共に、どうぞ頑張ってお祈り申し上げます。

## 師に学び

土に親しむ喜びを

つくる湯のみに

茶の香りたつ

## わが九文会

九期生文芸学科 西村 品造

早いものです、九期文芸科を卒業して六年余になります。

大学の友達、軍隊の戦友、職場の友人その他色々の交友関係があります。七十歳近くになって、老人大学校に入学させて頂き、良き師、良き友に恵まれ二年間ともに学んだことは、わが人生にとって有終の美を飾るに、ふさわしいものであったと思っている。

皆さんそれぞれ趣味も広く、一角のものを持っておられた。

九期文芸科であったので九文会と名付けて、現在も春と秋の良い時季をみて集り、話し合っている、皆お元気なものには驚く、色々の趣味をもち、ボランティア活動や地域の指導者として活躍されている精であろう。趣味を持つこと、外に向って出るこ

との大切さを在学中、先生方からよく聞かされたものであるが、それが実証されていることを知った。

句集は「楽老」と名付けて第四号まで刊行されている。このように良き友をもち、平和な社会生活を送っているが、最近心を痛めるものがある、平成七年は終戦五十周年を迎える節目の年であるが故である。

さきの大戦は、侵略戦争であったと不認識な発言をなし、外国へ出かけては、あれも、これも悪かったと謝罪し、金を出しますと約束してこられた、国籍不明の元首相や、いわゆる進歩的と言われる得体の知れない人々が、何を言い出すか解らない。現に侵略戦争の考えで我が国の「戦争責任」を明かにし、戦後処理問題を解決しようとしている、特に、諸外国に「反省と謝罪の国会決議」をなし、教科書に、あの戦争は侵略戦争であり、あくなき非道を行ったとの、記述を盛り込むことを検討していると仄聞している、このようなことがなされれば、国を憂し日本人である誇りもなくし、我が国と国民の将来に対し、重大な過根を残すことは明白である。

戦前、戦中、戦後を生き抜いてきた我々は、戦争の歴史的背景を知るものであり、真の平和を望むものであるが、日本の名誉をきづつけ、日本の将来を危くする誤った行動には、断固反

対して行かねばならない、皆さん頑張ってください。

内閣総理大臣は靖国神社に  
公式参拝すべきだと思ふ

十期生園芸学科 平田 正善

靖国神社の祭神は聖戦と信じ国を愛する道と思ひ、困苦欠乏に耐え戦い続け尊い生命を絶つた文字通り殉国の英霊であり、大東亜共栄圏建設のためのものです。又人々の心を交す関係

戦後アジア各国は皆植民地から独立国となりました。

日本の外交も諸国の顔色を見て行動する事無く、毅然たる態度で強い外交を展開していただきたい。

私の戦友も数多く祖国を愛し両親や妻と別れて、お国のためにと思ひ死をも恐れず砲煙弾雨や、兄弟姉妹の防波堤として参戦し不幸にして、敵弾に当たりあるいは病魔に侵され散華し護国の英霊となられているのであります。これらの祭神に対し首相として正式参拝をしないのはなぜなのか、靖国神社に祀られている約三百万人の人たちこそ、われら日本人の永久に範とすべきではないでしょうか。

靖国神社の祭神に対し侵略戦争を戦ったという言葉は、英霊を冒とくするものであり靖国神社と政治は無関係であります。村山首相は、今回のアメリカ訪問中に無名戦士の碑に参拝せられたことを、新聞やテレビニュースで知りました。日本人として外国の無名戦士の碑に参拝する前に、祖国の英霊が鎮座します靖国神社に参拝していただくことを、私は強く要望するものであります。

## 作ること・観ること

十期生陶芸学科 松尾 幸郎

粘土をひねっても、釉薬をかけても、やればやるほど良いモノが出来るといってやらなければいよいよ駄目である。近頃は陶芸展などを観ることが楽しくなってきた、そんな気持ちになるのである。つまり作ること・観ることはもともと同じなのだ、と、素人が生意気な理屈をつける。いままさら、すばらしいモノが出来ればよいが、あれやこ

れやと観ていると、ひよっとするとひよっとする・・・カモシレナイなどと、遅なことを思うこの頃である。

## 入院して考える

十一期生文芸学科 門馬 三郎

朝になれば太陽が上がる、目覚めれば健康な自分がそこに有る、何の不思議もない、極々普通の事と思って暮してきた。しかし、何の痛み、苦しみもない内に腫瘍が出来ており、外科で手術を為し後の内科治療に長期的に入院しなければならなかった。

全くあれよあれよと言う内に百日が夢の様に過ぎ去った。回復する事は疑わなかった、しかし色々学ばさせられた事が多かった。健康でこの世に生を受けている事を感謝しなければならぬ。学ぶ、出会い、今出来ること等明日に、来年にと安易に延ばしては駄目だと思った、例えば老犬関係の各種会合でも矢張り



多少の無理をしてでも参加すべきだ。

在学中に必須科目で人生について講義で学んだが、全く他人の様に思っていた、地球上に生物が共存しながら豊かな生命を展開するには世代交替が必要だ、それが自然の摂理で永久に健康では有り得ぬ、人生には限りがある事を悟る。

病院は今まであまり用のないところだったし、お見舞にも行く事も少なかった。しかし、今回私には沢山の方からご激励を受けて嬉しく、良薬の一つであった、神のお告げに「長寿にして栄光の老後」とあり信じている、健康を回復し継続的に社会福祉活動に参加して目立たず、人に尽くす存在で有る如き人と生きていたい。

## 「私の一週間」

十一期生陶芸学科 掛川 昭二

最初に阪神大震災で亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。

老を卒業してから早五年と成りました。同窓会の皆様の元気で活躍して居られるのを、色々な機会に見聞して、私もまだ

まだ元気で頑張るぞと気を引き締めております。

扱、同窓会、同期生会、クラス会等から種々のご案内を戴き、参加して旧友を暖めたく思っていますが、種々多忙で失礼をして居ります。

私は小学生の頃より謡いを習って居りました、芸は身を助けるとか言いますが、昭和三十五年に師範免状を戴き、在職中より能を舞、謡いを教えて居りましたが、定年後は此れを職として居ります。

私の或る週のスケジュールを述べ、近況報告の一旦とさせて戴きます。

日曜日 家元での定例会に十時から十七時まで出勤

月曜日 九時三十分より地域公民館で老大で習った陶芸を、

地域の方々に陶芸教室を開き、十五時に終わり帰宅、  
十七時十五分より出稽古に京都西陣へ、十九時三十

分帰宅後夕食

火曜日 九時三十分より十五時まで前日に引き続き陶芸教室、

十七時に夕食、十七時三十分より京都北野へ出稽古、

二十時三十分帰宅

水曜日 十時より十一時まで家で稽古、十五時三十分より守

口市京阪百貨店カルチャ教室へ出稽古、二十時に終

了後大阪で夕食を摂って、二十二時帰宅

木曜日 午前入院して居る弟の見舞い、十五時四十分より枚

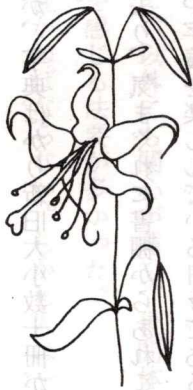
方市と京橋の京阪文化クラブへ出稽古、終了後現地で夕食を摂って二十一時三十分帰宅

金曜日 六時三十分より十六時まで、陶芸の本焼き、十七時

夕食、十七時三十分より京都四条大宮へ出稽古二十時三十分帰宅

土曜日 家事手伝いや、稽古準備

以上が私の或る週のスケジュールでしたが、最も毎週これではたまりません。稽古は一カ所、月三回ですので、稽古の無い日が有りますが、その間に頼まれ事の処理をします。例えば東映撮影所へ時代劇の振り付けや、陶芸の素焼き、粘土、釉薬購入等が有ります。又此の時に丁度同窓会となれば参加して、とにかく元気で毎日働けることを感謝し、ゆっくり同窓の皆さんと会える日を楽しみに頑張って居ります。



## 字典渴望

十一期生文芸学科 小澤 進

若い頃のことであるが、漢和辞典を買ってもらい損なった。入学手続の日に、校門脇の教科書販売と一緒に売っていたそれを買わなかったばかりに、である。その時は、あとで良いものを捜してやるよと言う、父の言葉に従って帰ったのである。

取あえず困るので、掌中だったか袖珍だったかの名のついた小さなものを入手して使っていたが、級友の持つ小柳司気太の「新修漢和大字典」の金箔の背文字が全く羨やましかった。

斯うしているうちに、戦時色は次第に色濃くなり、参考書などは、書店の店頭から少しずつ消えていった。例の「新修」も遂に姿を消してしまった。

さてそれから四十年、会社は停年となったが、退屈まぎれに中国古典に親しみ出した。そこで当然乍ら字典に心が向いていた。老大での三原研田先生の文字講話も、眠っていた私の渴望をやり起こしてくれた。

それからというものが、一寸変わった字典を古書店で見かければ、直に買った。例の「新修」はすぐ手に入ったし、書棚は類書でどんどん埋っていった。名著と云われているものは、今や多く

書棚にあり、乱暴のようだが、字典ばかり新旧大小数十冊が犇めく状態となっていました。

今は渴望はすっかり消え去り、気まぐれに書棚からあれこれとり出し、つれづれに解字や字義を楽しんでいる日々である。

## 生きる喜び

十二期生生活学科 岩本喜美子

一月十七日早朝、突然襲って来た兵庫県南部地震は、直下型地震のため多くの人々に被害を残しました。会員の皆様の身近な、親戚や知人に、被災に会われた方がおられると聞きました。お見舞い申し上げます。一日も早く苦境から立ち直っていただけますよう祈ってやみません。私の大好きな大津市も、断層が通っており、明日はわが身の気持ちで、兵庫県南部地震の教訓を生かしていきたいと考えています。

さて十二期生生活学科は、卒業後年三回、地域ごとの当番制で例会をもっています。毎回当番の人達の趣向でその日が待ち遠しく、連絡が楽しみです。いつまでも続けたく思いますし、サフラン会を大切にしたいとも思います。老人大学とのご縁で、

たくさんのお友達が出来ました。そして今なおその交流が続いておりうれしい限りです。

悲しい、痛ましい出来事の昨今、私自身残る人生を、一日一日悔いなく、健康で明るく生きる決意を新たにしております。

## 傘寿を迎えて

十二期生文芸学科 山本千代子

「人生八十年を生きぬくために」かつて老大在学中の講義に、一番ケ瀬康子先生の講演を聴講いたしました。私も否応なくその年代に這入りました。

誰でも年を取れば先づ身体の機能が衰えて来て、何かと支障が出て参ります。この事についてはその対処の仕方や心構え等も教わりもし自分なりに、気を付けて参りました。

しかし現実には年を取ってみると何だか、人生の節目の様に思われて、複雑なものを感じられます。

年明け早々食欲なくやっと食欲もでて来た矢先に、又風邪を引き老大同窓会の新年会にも欠席して仕舞いました。

その後も腹痛がおこりまして、レントゲンや、CT、などの

検査の結果、胆嚢に大きな石が有り災しているので、今の内に取った方がよいと思う、と云われて今度痛みがくれば思い切つて覚悟しなければと思つています。

人生の区切りかと、堅くならに考えずに自然の成り行きと、軽く受け止めて、与えられたこの時期を乗り越えて、頑張る積りです。

「生ある限り」残された人生を前向きの気持で、何か「生きがい」を見つけて行きたいと念じております。

## 慰霊祭

十二期生園芸学科 小野 次夫

一昨年から昨年にかけて、太平洋戦争による戦死者の五十回忌が、各方面で行われていた。今更の如く、異国の山野に骨を晒している戦友への想いを新たにしている。

しかし、私の参列した中でも、遺族や遺児たちの想いの裡には、私たちの想いとは裏腹に、以外にも関心が薄く、世間体のためという、冷やかなものを感じる法が多かった。人は生まれた限り死んで往かねばならない。しかし人は一体

何のために生を享けたか、その使命を全うして逝けるのだろうか。

若くして散って逝った友たちの面影を追いながら、果して彼らの生は一体何だったんだらうかと思う。

人が死んで、その人の存在を記憶してくれるのは、近親者や、友だちを含めても、精々長くても四、五十年に過ぎないであろう。

自分自身の心の記録、心の内に秘められた過去の記憶を、手指の動く間に、詳細に記録しておかねばならない。ただ自分史のためだけではなく、彼らの分も書き誌さねばならない。これこそ生き永らえた者の義務ではないでしょうか。さもなければ彼らの死は、全く無意味な死になってしまう。

## 再会

十三期生文芸学科 増尾 一雄

戦争の話は余りしたくない。でも、あの頃は誰もが必死に生き戦ったのも事実である。いずれにしる、私の人生にとっても教訓になった事、否定すべきもない、五年前お互い連絡をとり

合って四十五年ぶりの同期同班八名の再会をした。再会以来毎年一回一泊二日の旅行を楽しんでいる。有難い事に友の住所が全国的であり、待ち合わせは開催地のJ.Rの駅前である。お互いの無事を祝い他愛ない話を咲かす、白髪とぐちの増えるのも無理もない。

温泉に浸り、訓練中ひどく棒で叩かれた尻をかくして入浴したお互いの顔を思い浮べ、微笑笑をする。カラオケするでなし、踊るのでもなし、酒を交して雑談に耽ける、翌日は風景を賞で史跡を訪ねる小旅行もあつと云う間に終る。ストレスの解消にもなるし、お互い馬鹿呼ばわりしても腹も立たず不思議なものである。

大正、昭和、平成と生きぬいた誇りを心の糧として、これからもささやかでも高齢社会のお役に立ちたいと思う。

今年病氣回復の青森の戦友を訪ねる晩秋の東北旅行である。私達にとって得がたい出会いのひとつを今から心待ちにしている。

いつまでも生きる、生きられる喜びに感謝を忘れず毎日を通していたいと思っている。

## アメリカのお国柄と

### 親切なアメリカ人

十四期生園芸学科 林 忠勝

孫に呼ばれて夫婦二人だけでアメリカ西海岸のサンディエゴへ行ったときの事です。

成田から十時間ほどでロスアンゼルスに到着し、乗り換えのためアメリカン航空のカウンターへ行きました。

ところが、アメリカン航空では予約してある飛行機は満席で乗れないため三時間余り早いのに乗ってくれとのことでした。予約してあっても満席で乗れないなどということは、日本では考えられないことですが、アメリカではよくあるとのこと、アメリカに到着そうそう国情の違いを知らされました。

一時間ほど待ってやっとサンディエゴ行きの飛行機に搭乗したため夫婦別々に座ろうとしたところ、親切な一人のアメリカ人が、一人で座っている人を移動させ、私達を一番前の操縦席のすぐ後の座席に夫婦一緒に座らせてくれました。

小型機のことなので、私たちの席と操縦席との間はカーテン一枚だけで、そのカーテンも開けたままだったので、まるで操縦席にいるような感じでした。

搭乗後何回か機内放送はありましたがなかなか動かず、ときどきエンジンの音はするが二十分たっても、三十分たっても一向に動きませんでした、しかし珍しいこともあって余り気にならないで外の景色を眺めたり、アメリカの案内書を読んだり、話をしたりしていたところ突然肩をたたかれました。

振り向くと、肩をたたいてくれたのは先程の親切なアメリカ人で、機内はそのアメリカ人一人だけで、たくさん乗っていた乗客は一人もいなくなり、気が付くと操縦士もいなくなっていました。

あわてて親切なアメリカ人について機を下り待合室まで戻りました。言葉は通じないが言ってくれていることはよくわかり、次の飛行機は十一時十五分に出るので、その時言ってあげますという意味は理解できました。

待合室には先程の乗客がみな待っていました、誰一人抗議をする人もありませんでした。

親切なアメリカ人のおかげで次の機に乗り、三十分程の飛行の後サンディエゴに着き、迎えにきた娘に親切なアメリカ人にお礼を言ってもらったところ、日本に行ったとき、日本人に親切してもらったからとのことでした。

言葉は通じなくても心は通じることがよくわかりましたし、私もいつかアメリカ人にお返しをしなければと思っています。

## 生きる喜び

十四期生園芸学科 田井中宗二

老に学んだ大半の人は、文芸・陶芸・園芸などの専門分野を伸ばしたいということが入学のおもな動機となっているだろうが、卒業後の感想では必ずしもそうとは限らない。年齢や境遇など条件の似た者同志が、二年間を楽しく学ぶことができた喜びと満足感の方が、前者よりむしろ大きく感じた人が多いだろうし、また、一般教養の講義を受けてこんなに幅広く知識を吸収し、我が心の豊かさを深められた事に充実感と学んだ意義を再発見された人も多かろうと思う。勿論、小生も園芸の知識・技術を主眼として入学を希望したが、その成果より、むしろ多くの友との出会いが何よりの楽しみであったし、二年間にわたる必修講座が待ち遠しかったことを覚えている。お陰で現在も友との親密な交わりを続けているし、また、一般教養で学んだ政治・経済・宗教から高齢者向き衣食住の知恵までと、日常

生活に活かす努力をしている。例えば浄土教の学習から親鸞や法然の本に興味をもったり、自分史の執筆に取りくんたり、食生活についても自分で材料を集めて調理する事も、時折する気になった事など枚挙にいとまのないこの頃である。生きる事の喜びに、より多くの幅をもたせてくれた老大(先生や級友など)に感謝すると共に、人生は苦の連続だと考えてきた既成概念を改める結果となった事が、何よりの成果とと思っている。

## 老大で得たこと

十四期生生活学科 本郷 富代

数年前ある知人から「老大に行かない?」と誘われた時には、滋賀県に老大があることすら全く知らなかった私でした。しかし「一度挑戦してみたい」という好奇心もわいて、その人のご好意で諸手続きもすませていただき、入学したしだいです。以来二年間、曲がりなりにも授業に出席し、学外での諸行事にも何とか加わることができました。

卒業から早や三年を迎えようとしています、今では授業内容とはほとんどお返ししたものの、多くの学友たちとの人と人

との深いつながりとか触れあいたかがなつかしく思い出されます。同じ教室で学んだ者が別れ別れになるのはつらいことでしたので、みんなの発案から年に何度か集って旧師から手芸や小物作りを教えていただき、また春秋には過去の文化遺産や自然を求めて小旅行をすることに決まり、今日まで続けております。同期生は年齢、経歴、生活環境など一人ひとり違いますが、それらの違いをのり越えてお互いに強く結ばれ、二年間共に学んだことを一生の誇りにしております。

## 気功でリフレッシュ

十四期生文芸学科 久高已紀子

「花の命は短くて、苦しき事のみ多かりき」の林芙美子の言葉も、高度成長と共に、花の命も長引きて、楽しき事も意のままに、と戦中戦後の侘びしさを思えば何と冥加なことか、とそれもこれも健康であればこそこのこと、私も人に勧められるまゝに気功を習うことにした。

これならば、ゆっくりとした動作で身体の負担も少ないのではと思ったからだった。

二十人程のグループで先生は背のスタリとした、美しい足長オバサン

最初は準備体操を兼ねた、太極拳から、先生は長い手足を軽やかに、そして優美に「水すまし」の如く動かされる。

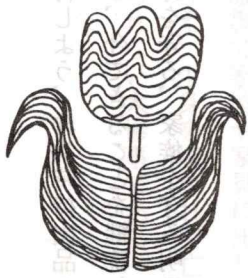
「先生、手を動かせば足が、足を動かせば手がついて、いきませんけど……。」

大丈夫、ソノウチ出来ルヨウニナリマス、ハイ、次は片足で立ツテ足ヲ振りマス。」

身体がぐらぐら安定しない。

「大丈夫、ソノウチ慣レマス、ハイ次ハ、大キク足ヲ開イテアーツ、久高サン、ソナニ開イテハ、危ナイ、気ヲツケテ」頭の先から足先まで、終る頃には快い疲れと眠気を覚える。

結果は半年先か、一年先かを楽しみに、老大で学んだチャレンジ精神で今日一日を元気で楽しく、ゴクローサンと生きたいものです。



## 災害に想うこと

十四期生陶芸学科 平井 頼一

この原稿依頼を承わった時は丁度阪神大震災発生後三週間を経て、最底限の住居、食糧が確保され交通手段も逐次改善の方向に動き、生活の息吹きが見え始めて来た時であった。

無惨な家屋の倒壊、寸断された道路、中天を焦す火災の恐しさはこの世の地獄を想わせるものであった、また昨年夏にはほぼ全国的な干天続きによる渇水の被害が発生し、水量豊富を誇る琵琶湖さえ水位の低下が有史以来に達したことは、記憶に新しいことであった。

「天災は忘れた頃にやってくる、備えあれば憂いなし」と古諺にあるが発生時には災害対策緊急事態対応等がアレコレと論評され私達も避難準備に熱心であるが時を経るに従い次第に熱意が薄れるものである。

地震学者の中には五十年の間に一〜四回大きな地震発生の可能性を予告する人もいる。

異状渇水今後皆無の保障はない。

災害に強い都市造り、防災システムの見直し等々は専門家に委ねるとして、私達日常生活の中で、災害時の心構え、準備を



今一度考え直す時期であろう。

水の大切さを今一度喚起して実行しよう、非常時持出品のチエック、避難経路、場所を確認する、今できることを継続してやる必要があるであろう、それが身を守る、家族を守る明日への備えではなからうか。

## 健康で「生きる」

十四期生陶芸学科 島崎 重夫

新年の行事も一段落した一月十七日早朝に発生した兵庫県南部地震「阪神大震災」連日このニュース、報道が続いている。

火災、倒壊家屋から逃げ出した人、着のみのまゝでの避難生活、不幸にして亡くなられた方々五千有余名、その半数が私達同世代の六十才以上と聞く痛ましい限りである。ご冥福をお祈りする。その反面子供達の可愛くて元気な姿、明るい笑顔が「生きる」喜びを与えてくれている。

幸いにも当地には被害もなく喜ばしいが、天災は何処で起きるかわからない、明日は我が身と各自が心構えと非常時の準備を心掛けねばならないと思う。

さて、私事であるが現在も元気で会社務めに精を出す日々が続いている。毎朝六時に起床し、六時三十分よりラジオ体操、これは其の日の体調を見るバロメーターとしての健康法と思っている。腕の上げ下げ、腰の曲げ伸し、疲れていると体が重いのですぐ解る。又歩く運動も心掛けている、昨年会社の健康保険組合の勧誘で十月十一月（二ヶ月間）で旧東海道五百有余料（万歩計累計）を歩き記念品を頂いた。以後も一日一万歩を目標に毎日万歩計と睨めっこし乍ら、背筋を伸ばし胸張って、気持は若くほがらかに。

目標をもって「生きる」しかも健康であって。

## 大震災に哭く

十四期生文芸学科 保井 秀成

「災害は忘れた頃にやって来る」というフレーズは、災害が起るとよく耳にする言葉である。

しかし、一月十七日午前五時四十六分の兵庫県南部地震は、忘れた頃ではなく、未曾有の大地震であった。

それ迄、関東、東北、北海道に起っている地震に目を奪われ、

関西は、地震が起らないような錯覚と耐震都市の安全神話に眩惑されていたのである。

ところが、「まさか」の地震が起ってみると安全神話は崩れ、都市機能は潰滅してしまった。

それは、科学万能の人間の傲慢さに対して鉄槌が下されたものと謙虚に受取るべきでしょう。

新聞報道では、この大地震で亡くなった人のうち、年齢の判明している五、五〇〇人の年齢構成をまとめ「六十五才以上の高齢者は、全体の四十三・三%、六十才以上に拮げると半数を超え、平均年齢は、五十五、五才震災が社会的弱者のお年寄りを直撃したことが窺える。」と報じていた。

そして、死因は、圧死九〇%、焼死一〇%、悲惨の極みである。

住み馴れた町、住居で平穩に生涯を完うしたいと願っておられたであろうお年寄りが、一瞬の激震で家屋や家具に押し潰されて亡くなったり、下敷になったうえ、生身を焼かれて亡くなられた。災難という一語で片付けられない大惨事である。

## 旧老を卒業してから

十四期生園芸学科 西川 秀雄

「老いとは失なう時代である」とは誠的を得た言葉である。とつくづく思い知らされています今日、この頃です。

その一つに、賀状の数値を元、勤め先と親戚、レイカディア関係等に置き替えますと一目瞭然で、年々悲哀を感じる前者と学校に感謝しなければならぬ喜ばしい傾向の後者とがあります。また、仕事を止めて二年程はなんとか過せるが、以降はゴロゴロして無気力となり、粗大ゴミの扱いにされるとは先輩のアドバイスでした。

よって私は粗大ゴミにならぬよう地域の親交は別として年間を通しては特別の友が出来る、一五〇坪の菜園と花園のほか盆栽作業を主体にジョギングをおこなっています。そうして日記には日々新しい事項が記載できるように心掛けています。

例えば、菜園の作業を説明しますと、夏野菜のときは一月下旬より秋野菜の終った畝から、深さ一米程掘り起し途中の追肥のいらなくらい堆肥等を多量に施して準備します。

その後は定植から野菜毎の日々管理が大切です、収穫期になると、ピーマンでも美味しい品質と多収穫にするため毎日枝の

剪定作業が必要なことをご存知ですか、このように花園等も土作りと日々の管理を大切に、趣味で出来た友も大切にしながら、菜食主義で暮しています。

## ふるさと淡海

十四期生園芸学科 坂下 康雄

私の住んでいるところは、県外から来た人が多いと聞いています、私もそうです、この地に来て早十年が経ちました。

「ふるさとは遠くにあつて思うもの」と云われています。そうですね、生れ育つたところでは、歴史や文化に余り気にしないことが多いですね。私も、もうこの土地を動くこともない、こゝは「ふるさと」です、遠くにあつて思うものでなく、身近かな「ふるさと」を知りたいと思っていましたところ、天津歴史博物館で大津事件の資料等の展示があり見に行き、そこで「大津の伝説」と云う本を見つけ購入し、読んではその地を尋ね歩きました。しかし、まだまだ知りたい、それには情報がないと、考え情報集めに「長寿社会福祉センター、滋賀会館文化サロン」に月二回は訪れ、収集に努めています。文化サロンで「湖

国と文化」と云う本があり、すぐ既発行の分を含め残存する本を購入し、これを読んでは歩いていきます。この「淡海の歴史と文化」を尋ね歩くことを私のところの老人クラブに提案して、グループをつくり、この人達と共に、淡海の歴史と文化を勉強してはどうか、歴史と文化と健康ということからいいな、こんなことが出来たら「老老教育課程の目標」にちかづく、と私なりに思つて、頑張るつもりです。

## 善意について

十五期生陶芸学科 武藤 静一

一瞬にして広範な地域の家屋が倒壊し市民生活に重大なる被害をもたらした阪神大震災の凄まじさはその惨状から今までに類を見ないものであると報じております。

被災直後は情報機能の麻痺から行政の対応が遅れマスコミの激しい批判があつた時期もありました。しかし被害状況が刻々明らかになるにつれ自治体や民間からの食糧・防寒材料等緊急物資の差入れや人的な応援、NHKなど義援金の募金が始まり全国各地からの救援の輪はみるみるうちに大きくなりました。

最近は環境問題と共に社会事業に対する関心も高まり色々な組織を通じてボランティア活動が盛んになって来ておりますが今回の大震災でも全国からいち早く若者を始め特殊技能を有する方々が駆けつけ、あの混乱した避難所での食糧の配付、行政との連繋、連絡など、目覚ましい活躍は、荒み勝ちな雰囲気や軟らげ、家族や、家を失くし不安と憔悴の重なる心を和ませ明日への希望をもたらしている姿が印象的で厳しい現実に対し少し「ホッ」としております。

善意は誰もが出来るものでありますが仲々卒先し難しいものもあり、それなりに勇気のいるものであります。私は参加されているボランティアの皆さんに敬意を表しますと共に一日も早い復興を祈念いたします。

## 好きな事

十五期生生活学科 谷澤 喜子

新年を迎えて間もなくの頃、新聞紙上で或る大学で始った「晩年学フォーラム」への関心が高まっていると云う記事がありました。死と隣り合わせた生を如何に生きるか、を話合うもので

「間違はなく死ぬのだから自分の好きな事をやろう」と言うのが晩学事始めの第一歩とか。何歳になっても好きな事はある筈既成の価値に取らわれず先ず始めてみる事、それで世界が広がり日常を生きるのに前向きになれる。私は此の先生の言葉に深く感じると共に、レイ大で諸先生方の講義を受け学んで来た事に相通ずるものがあると嬉しくなりました。今まで学んだ事を活力に好きな事を続けて行けるなら、これからの人生こんな幸せな事はないでしょう。

私は今何事も健康が一番と痛感しています、老化や成人病やらの症状があつて通院も余儀なく、今まで通り気負いなく過せたらと思うのです。俳句正風、大津史跡会、老人給食、地区老人会、又お付合以上数多くの婦人会に入会しているので此等の会を通して旅行、食事会、観劇等の交流があり、時には娘と吟行に出かけたり又菜園も少し、其の他編物も、レイ大で修得したパッチワークも続け度いと、願望が多くて退屈しません。

ささやかな活し振りを大切に精一杯生き度いと願う此頃です。古希に又一つ重ねて去年今年

## 長寿をめざして

十五期生園芸学科 野々村繁雄

早いもので卒業以来半年が過ぎ、その間我々十五期生園芸学科同窓生では会名を「一五会」とし、昨年秋には京都での大観展見学、又本年早々には新年会を実施し会員相互の親睦を計ると共に、今回の阪神大震災の被災者の冥福を祈り全員で黙禱をし義援金を募り、滋賀母子福祉のぞみ会に託し被災者に送る。

一昨年九月に「長寿社会福祉センター」が発足すると同時に淡海塾が開設されその中に「気功太極拳クラブ」が出来私も八年前から県立体育館で練習している関係で入会を妻と共にし毎週火曜日には午前十時から十二時まで淡海塾の「共に教え、共に学ぶ」を「モットー」に、楽しく実施しております、開設当時は十名足らずで発足しましたが、現在では三十五名余りとなり体育館での練習には狭くなり次回の空席を待つ人も出る程です。

現在高齢者問題が叫ばれている時、我々は自分の体は、自分で守るように互いに助け合い、他人に迷惑を掛けないように心に掛けています。

先日「サンデー十一しが」のテレビ番組で「長寿をめざして」

と題して、老人大学の先輩と共に出演した時、私はレイカディア大学と淡海塾に就いて話す機会を得た、その時高齢者としての、生きて行く心構えを話し合った。

## 建学精神を生かそう!!

十五期生園芸学科 谷本 一夫

レイカディア大学を卒業してはや九ヶ月。学窓での「出合いを大切に」、をモットーとして、私達十五期園芸学科全員が「一五会」、(イチゴカイ)と称するOB会を結成し、卒業後の親睦と交流を図っております。

グループ活動としては、一泊研修旅行、有益な展示会等の見学、総会を実施する事とし、その運営は地域を三ブロックに分割、夫々責任者を配置し、一年交代で事業を計画実施する事とされています。

既に卒業後三月末迄に二回程度の交流会を開催し、旧談に花を咲かせ健康を祝すなど旧交をあたゝめております。

一方、私も地元の老人クラブの会員として入会さしてもらっている事から、会社勤務のかたわら余暇を作りだして、何か協

力もしなければと思いつゝ年末には「正月寄せ植松竹梅」を、老人クラブの希望者の方々に植えて戴き、二月下旬には梅松の植替えなどを行い大変喜ばれております。

片や、自治会でカラオケの愛好者の皆さん方と同好会を作りリフレッシュしております。

何れにしても今こそ老大有で学んだ社会参加の基礎能力や、地域指導者としての資質の研鑽を発揮すべきであり、地域社会に還元してこそ建学精神にもとるものであると考え、己を律しながら頑張りたいと思っている。

## “ 充 互 ”

十五期生文芸学科 長谷川はつえ

レ大を卒業して早や半年が経ちます。街角で見知らぬ人から「老大有卒業」と聞くと、何となく懐かしく「何期生ですか」と思わず言葉をかけてみたくありません。一期一会のご縁を得、高齢になって沢山の友が出来た事、又その輪がどんどん広がって行く事を大変有難く思っています。

それにしても、此度の阪神大震災は凄まじい爪跡を残し、数

千の尊い生命を奪ってしまいました。悲しい現実の中で唯一つボランティアの献身振りに救われる思いがしたのは、私一人でしょうか。殊に若い人達が、被災者の苦しみを共有して、自発的善意で参加した喜びを実感しているその活躍振りは、今日物的豊かさの中で忘れかけていた心と心の繋がりを呼び戻してくれ、久し振りに清々しい気分になりました。これからも社会福祉の一環としてその活躍を願いたいと思いましたが。

私達十五期文芸は卒業の餞けとして、藤本映湖先生より「充互」と云う言葉を戴きました。「お互いがお互いを充たしあう、分ちあう、この喜びが、これからの人生をより深く楽しいものにする」との意で、ボランティアの喜びも正しくこれに通じるものがあると思います。

きょうクラスで一番元気者だった友が不帰の客となりました。阪神大震災によって人の生き死を痛感する今日、不思議なご縁を得た同窓の皆様と共に、充たしあい分ちあいつゝ、一日一日を大切に過して行けたらと念じております。

。寒暁の悪夢神戸は震度六  
。湯水足る寒の厨に合掌する

## 阪神大震災で感じたこと

十五期生陶芸学科 深田 三郎

その日は「神社庁大津支部」恒例の伊勢参宮の日だった。

七時バス出発とのことで、そろそろ起きて準備を!!と思っていた矢先だった。

腹にこたえるような轟音と共に、激しい振動が襲ってきた。

意識して冷静に構え、収まりを待っていたら、格別大きな横揺

れがきた。瞬間!!『家が潰れる』と新ためて思った。だけど幸

いそれ以上のことは起らなかった。家族も無事だった。テレビ

は『阪神方面に大きな地震の発生!!』を伝えていたが、「被害」

の状況を伝えるまでには至っていなかった。

バスは予定どおり定刻に発車した。車内は地震の話しで沸き

立っていたけれど、当然のことながら、現地「神戸」での深刻

で重大な被害の発生は、誰も気が付いていなかった。何故かバ

スも車内テレビのスイッチを入れてくれなかった。

「外宮・内宮」の参拝を終り、昼食をすまし、「見まで足を

のぼして土産物の買物までして、バスが帰路についた時は、午

后三時も過ぎていた。

ここで初めてテレビのスイッチが入られた。雑音が激しく、

画面の乱れが甚だしいおんぼろテレビだったけれど、長田区の

火災現場の空からの映像には驚いた。亡くなられた方も、その

時点で五百人と伝えられていた。想像を絶する現地の状況に、

バスの中は全員声もなく息をのむ思いだった。

以降数日間、テレビの前での釘づけの日が続いた。電気・ガ

ス・水道・電話等ライフラインを断られての、市民の皆さんの避

難所生活の苦難の実情を目のあたりにして、老いの身で手も足

も出ない「もどかしい日々」だった。

日がたつにつれて「民放テレビ」から、政府・行政の対応の

まずさを指摘する声が上がってきた。国会でも村山総理の責任

追及がなされていた。総理の引責辞任?を求める声さえ出てき

たのには、私はいささか驚いた。

結論を急げば「危機管理体制」の不備は指摘されようけれど、

内閣の責任追及で、国会が空転している方が「腹立たしく、い

らだたいい」思いだったのは私だけだろうか?

当日伊勢参宮という特別な行動で、地震発生から約十時間、

衝撃的被災現場の映像から隔絶の状態におかれていた。家に帰

ってテレビの前に座ったとき、「浦島太郎」の心境を味わった。

交通・通信を失ったなかでの、県・市当局の方々の懸命のご

努力は、それぞれ個人の家庭の安否を気遣うなかでの、不眠不

休の日々だった。若い世代の人々の積極的なボランティア活動にも感動した。肉身を亡くし、家を失って、かつ、真冬の寒空の中での避難所生活なのに、総べて冷静に対処してパニックを起させなかった、罹災者市民の皆さんに、心からの敬意を捧げたい。

五十年前「十二歳の子供」と評された日本人も、一部馬鹿な「国会議員」を除いて、立派な大人に成長した思いである。

今はただ復興に向けて、遅しい行動を期待するのみである。

## 私の日常

十五期生生活学科 竹内 初江

庭の紅梅も日増にふくらみ春の足音がしのび寄る気配を感じる此の頃です。

あの痛ましい震災から早や一ヶ月余りたちました、長田区で被災された友に二十名の有志が心許りの品を送りました、半月余りたち電話があり元気な声で、「今自分がこうして元気で生きさせて戴くことに先づ感謝しなくてはならない、帰らぬ多くの知人には本当にすまないが、あの悪夢の様な悲しい思いを早

く忘れる様にただ希望を失わず前向に生きるのみだわ」と淡々とかたられました。

何事もなく平和な生活を送る私達、これで良いのか？・・・

何かのお役にたつことでもと、ふと思いついたのが何年も前から押入の隅にあった孫達の服の編残り毛糸、此の毛糸を利用して五人の友の協力を得て帽子を編みました、色とりどりの帽子が四十個出来た時丁度タイミングよく、京都の病院へ勤めている知人が「明日から二泊三日で東灘へボランティアで行くのよ」との電話、これ幸いと早速ことづけたところ後日喜びの電話があり「皆さん寒い折とても喜んで下さったとの事、私達こんな小さなことでも協力させて戴いた喜びをかみしめていました。いつまでの余生かわかりませんが常に健康を保つことは勿論老いても希望を失わず頭を使いよく動くこと。

昨年十月は視覚障害者八名と共に高野山へ参拝、同じく十一月には同じメンバーで仰木の成安造形大学の折紙国際研究会へと楽しく共に勉強させて戴きました。

また最近では被災地へ届けた帽子が皆さん大そう気に入ったそうで十数名の方々にプレゼントを致しました、このことが契機となり近所の方は勿論今日は草津次は京都と次から次へ帽子が取もつ縁で見知らぬ方達との出会が出来るこの寒さにもめげず



楽しく心はずむ充実した日を送っています。

## 共に生きる社会を目指して

十五期生文学学科 関 武

大自然の摂理とは云え、平成七年一月十七日早朝、五時四十分  
六分に起きた阪神大震災は、兵庫県を中心に五千五百人を超す  
老若男女が瞬時の内、不慮の災難を受けられ、尊い生命が奪わ  
れました。

又生命は助かったものの、住むべき家が倒壊、或いは焼失し  
た多数の人々が、余儀無く避難所生活をされています、テレビ  
新聞で見るそれらの被災者や、被災地のことを考える時、心が  
痛みます。

しかしそんな状況下、全国から救援の為に集り、ボランティア  
アで活動する多数の人々の姿は我々の胸を熱くし、心も打たれ  
ました。

今回の災害は人は一人で生きているに非ず、色々な人々の物  
心両面の支え合い、助け合いの共生社会であることを、深く深  
く気付かされたと言うべきでしょう。

私は、八年に渡る難病の妻の介護経験をする過程の中で、福  
祉・保健・医療のネットワーク造りの必要性を感じ、五年の宇  
余曲折の後、平成六年七月、大津市介護家族・要介護者を支え  
る会を結成、市社会福祉協議会内に事務局を置き、現在三百九  
十五名の会員が、互いに知恵を出し合って、より良い共に生き  
る社会を目指して動き出しています。

レイカ大の同窓生二十二名の諸兄弟姉も会員として参加下さり、  
心強く思うと同時に感謝している次第です。

我が国は、世界一の長寿国となりましたが、国の発表では二  
千二十年には、国民の四人に一人は六十五才以上という超高齢  
社会になると予測されています。

私達は、それを受けて今から医療、保健、福祉、介護問題を  
いつの日か自身に來ることとして、考え、そして行動をせねば  
なりません。

心身ともに健康なシルバーの方々のご賛同とご協力を切望致  
します。よろしく。

宮柱太しく立ちて

神無月

虚子

## 震災に想う

十五期生園芸学科 井上 弘

マニュアルどおりには進行できなかった淡路、阪神大震災。瞬時におきた地割れ、ライフラインの損壊と大火災、どの様な防災の手段があったのか、一瞬の出来事に茫然自失することなく瓦礫の中から困難に立ちむかい頑張っておられる姿は、危急にさいして適切な行動をとり、リーダーシップを発揮して多くの人達を救った人達であろう。

ふだん目だたず、さほど評価されていなかった人々が、危急にさいして適切な行動をとり、リーダーシップを発揮され多くの老弱男女を救われた話が伝ってくる、本人が自覚していないケースもあると言う、こうした非常時の能力、非常の才能と言う活動に目を向ける何かあったもよいのではないか。

リーダーシップとは、なんとなく個人の特性の様に考えてしまふところがあるが、やはりそんな単純な事柄ではなく、その時点に応じたリーダーシップが必要なのであり、世の中いつもいつまでも同じ仕組みや、状況で推移してないと言うことを念頭におくべきではないだろうか。

一月十七日以来被災地で活動するボランティアの人達の行動に感謝と、激励の気持で一ぱいである。

## 春眠暁を覚えず

十五期生陶芸学科 藤井 清志

暗くて長い冬も遠のいて、朝には何処からともなく、花の香りや、若草の萌える香りが漂よい、夜には朧の月がかゝる頃は一層寝むたくなる。特に春の明け方は尚更のこと、「春眠暁を覚えず」そのものずばりである。

年寄は早起きであると言われるが、私などは、春ともなれば寝心地がよいのでなかなか目が覚めない、つい知らず知らず内に朝寝を過してしまふ、又、寢床の中でうつら、うつら夢見ながら微睡んでいるのも、大変気持ちのよいものである。時には女房に叩き起され「春眠」を無残に打ち破られることもあるが、明日もあるさ、気にしない気にしないで「春眠」をむさぼり続けている。

此の「春眠暁を覚えず」は古代中国の有名な詩の一節句を、例えとしてよく使われている。

「春眠不覚曉、処々聞啼鳥、夜来風雨声、花落知多少」

「春眠曉を覚えず、あちこちで啼く鳥の声を聞く、昨夜はひどい風雨であった、庭の花の落つることを知る」と、花に思いを寄せた詩の起句の部分を、引用して使っているのである。

年を取るに従って、血圧は上るし、手足の関節の痛み、腰痛に悩まされ、病院の掛けもちに追われている人も少なくはない。私は私なりの考え方で、血圧や、足腰の痛を癒すことの出来る良薬は、朝寝であると思って、毎日を「春眠曉を覚えず」どころか、「春夏秋冬曉を覚えず」で過していききたいものと思っている。

蠶災の愚

十五箇中園生筆 其五 蠶

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」



春曉詠を覚えず

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

蠶の「春曉詠を覚えず」の末句を以てして一節の「蠶の春曉詠を覚えず」

会員だより

湖南支部

健やかに生きる

十五期生陶芸学科 鷹野 弘

「さわやかに」「しなやかに」「なごやかに」をモットーに楽しく有意義な二年間を老大に学び、卒業することができました。

その学びの中から些かなりとも地域社会の活動に生かせるものは何かと自問し、スポーツを通じて貢献しようとする結論しました。

高齢者に最適のグランドゴルフの同好会を作って若い人の参加も歓迎し、地域住民の親睦も計りました。また、町内老人クラブ結成の動きに積極的に参加し、結成の後は運営にも関わり、やはりグランドゴルフを通じて高齢者の健康維持につくそうと思っています。

これらの活動を続けるためにも自身の体力を維持しなければなりません。毎日三〜四キロ歩き、土に親しみ、週二〜三回はグランドゴルフをして体を動かしています。

老大で専攻した陶芸は趣味として碧水荘に学んでいます。

この外にも趣味は囲碁、彫刻、盆栽と時間がいくらあっても足りない感があります。老大同期の仲間と一、二ヶ月に一度グランドゴルフの集いを持つのも大きな楽しみの一つで多くの友人と共に穏やかに、健やかに、暮しています。

老後を有意義に過ごしたい

十五期生文芸学科 藤岡 宏

人生五十年は昔の事で、今から考えると短命だった事と思われる。

幸にして今迄健康で、過ごせた事に感謝しながら、毎日を暮らしていた時、老大の先輩より勧められて入学。書道、俳句等、学んだ事が今後の生活に潤いをもたせ、四季折々の自然を旅行や散歩の時に感じた事を、句作で楽しんでる。

大学卒業後、数日して、十六期生の人達から、クラブ活動の

一つに、グラウンド・ゴルフを続けたい、と連絡を受けた。

希望者も多く、冬期と云う悪条件でもあるが、二十数名と聞いて何か運動をしたいと云う人達が多いのに感心した。

思い返すと、在学中クラブ活動で他の学科の人達と交流ができたのも大変な収穫であった。

クラブ活動で学んだ事を、それぞれの地域に帰り、グラウンド・ゴルフを通じて、親睦とふれ合いの輪を広げられる事が出来たらと思っています。

## 身近かな医療を

六期生文芸学科 山原 義夫

私が、直面している問題は「老人介護」です。老夫婦二人での生活は、老いが老いを看るとい形になっています。こうした状態の中で、切に望まれるのは、公的な介護制度で、最近発表された「公的介護保険」制度です。これは、厚生省の研究会が発表したもので実現には、山あり谷ありで、導入は九七年程度からしていますが、あくまで希望の域を出ていません。一方、去る三月五日、草津で医療生協が創立されました。こちらは、医療を身近かに据えて、病の相談なり、往診なりを気楽に

お願い出来る制度です。新ゴールドプランを意義あるものにしてほしいものです。

## 老人クラブの

### コーデイネーターをつとめて

十二期生園芸学科 長谷川智昭

草津市老人クラブ連合会のコーデイネーターをしています。

草津市の社会福祉協議会に間借りして仕事を続けています。年仕事量がふえ、現在事務員を置いてもらって仕事の処理をしています。

老人クラブの会員は市全体で六千人を越えました。これはクラブの数が増えていたため、今後は魅力あるクラブ活動がなされないと会員数がへるのではないかと思われます。その第一歩として、他のクラブと交流してそこで行われているアイデアを学んで自分のクラブにとり入れるようにしたいものです。

## 表裏

十五期生陶芸学科 浅井 甚造

三月八日付京都新聞「現代のこぼ」欄に「毛沢東の内と外」とあった。「毛沢東の読書生活」「毛沢東の私生活」の邦訳であるが一方は読書人として、もう一方は権力欲のかたまりの専制君主として描かれている。どちらも本当だろう。このことでは思い出したが、講義でキリスト生誕は中流の家庭であり、当時の宗教を批判した異端児だったという。それが処女懐胎、復活の宗教となる。真宗も三代目の活躍により現在の隆盛の基礎を築いているという。いずれも後世の人がうまく表の方を照して行くことで今日の輝きがある。輝きがあれば陰の部分は永久にこの世に現われないのだろうか。しかし、永く輝いていることは偉大だ。

## 阪神大震災に想う

十四期生文芸学科 久保 治夫

「平成七年一月十七日午前五時四十六分」この刻は生涯忘れ

得ぬ大事件となりました。

震災から一カ月現在で、死者五千三百人、負傷者三万四千人、家屋全半壊が十六万棟に及ぶ未曾有の甚大な被害となりました。在住の草津市に置きかえると、二十人に一人の割で死亡した事になり、エネルギーの巨大さを痛感しております。

神戸方面は昔営業で二年ばかり担当した思い出の多い処、又最近では、昨年十一月身内の病氣見舞で洲本へ行きました。

往路はJR鷹取まで、帰路は高速船で神戸中突堤へ上陸し、六百米にわたり倒壊した阪神高速道路の下を通り、三宮商店街を散策、三宮駅ホームより阪急百貨店のビルを眺めておりました。あれから二カ月ばかりで報道で見る惨状となった訳で、到底考えられぬ痛ましい事で、衷心よりご冥福を祈り、お見舞申しあげる次第です。

我が人生でかかる大地震は初の事であり、反省すると全く防意識なく経過して参りました。今回の災害で死者の九割は圧死であったとか、また犠牲者の半数は六十才以上の方との由、これを機にその対応について、よく研修しておきたいものと考えております。

我々十四期生文芸学科は、卒業後引き続き同志十六名が山村先生から短歌のご指導を受けております。したがって勉強を始

め三年半程続けておりますが、一向に上達できません。

物体写生の方法は、写真、絵画、文章、短歌等いろいろありますが、短歌は僅か三十一文字で感情までも表現できる素晴らしい文学であります。健康に留意して地域社会に微力を尽しつづ短歌に精進したいものと考えております。

## 「惑々」

十一期生園芸学科 高田 達

陽光の中で、盆栽の枝ぶりを考えたり、美しい花をめぐることは楽しい。松の芽や葉をつみすぎて枯らしたり、シクラメンの球根の管理に水がたらずカラカラにしたりと、楽しいなかに失敗つゞき、まだまだ勉強不足、これからも盆栽のこと、花のこと大いに学ばねばと思う。

また世間の動きにも、おくないようにしたい。この三月一日から、住民票から長男、次男、長女等の字が消えて、すべて子となり、嫡出・非嫡出の別がなくなった。また自治省は、住民基本台帳を基にした国民総背番号制を、一九九八年から導入することを検討する方針とか。十年一昔といわれたが、三年一昔、価値観はゆらぎどうし、七十有余にして益々惑々、知識の

不足、勉強の必要を痛感。人の役にたつことがあれば、これでもしたい。何はともあれ、健康が第一、家内ともども、人間ドックに入りたい。

学びたいこと、知りたいこと、やりたいことばかりで、私は生きている。業の深いことである。

## 俳句

七期生文芸学科 大原なつ子

見る人の肩までとどく花の枝

キャラメルを一粒口に花疲れ

安曇川町の雲平を見学して

風鈴や筆一筋に生きる人

明治村にて

「とうきやう」と明治の駅舎紅葉して

雪空に礫の如く小鳥翔ち

春隣り器用に乗る子の一輪車

ポリウムをあげ選挙カー草萌ゆる

靴を持ち子等渡り行く水温む

枝垂梅米粒ほどに紅をさし

俳句

九期生文芸学科 大原 康園

天に伸び地に垂れ下がる紅白梅

三月の旅は噴煙さくら島

喜寿迎え花の心を友として

花菖蒲琴の音似合う風車村

知床の牧場は広く馬肥ゆる

近づけば田鳧飛び立つ朝の道

亡き義兄を偲び数珠玉七回忌

訪ね来て富士の裾野の初時雨

初ミサや子ら集い来て畏まる

糸切れて飛び行く凧や天高く

不出来な新米

十五期生陶芸学科 松居 昭

昨年十月にお仲間入りさせて頂いた出来の悪い新米です。昔からそこそこ怠け者でしたが、毎日が日曜日となってからは冬場になると九時を過ぎるまで寝床から離れることができません。起きてからも一日中座椅子にもたれてウツラウツラとテレビを眺めています。巷では健康長寿の為に運動が持囃されていますが、「何んにもしない」松居式無手勝流で何時までボケずに足腰萎えずにいられるか験してみようと思っています。

今、高齢化と共に地球環境に対する意識が高まっています。そこで思うのですが、何方にもお読み頂けない下手糞な駄文を嫌々書くなんて、貴重な原稿用紙と鉛筆の無駄使いではないでしょうか、私のような役立たずの年寄りには、せめてケチケチと始末を心掛けなければなりません。いくら湖南支部の中村副支部長さんが雪の降る中を度々拙宅までご来駕頂いたご熱意に打たれたとは言え、立派な会報紙に投稿するような大それた不心得は二度としないことを神様にお誓い致します。

何も書かないうちに早や紙数が尽きようとしています。こんなグウタラで、いい加減な私ですが、もう暫くは粘土遊びでも



楽しみながら年金泥棒を続けたいと思っています。

(平成七年乙亥穏やかな建国記念の日に)

## 近況のお知らせに代えて十三句

一期生福祉学科 渡辺

進

- ・あらたまる顔には見えず初鏡
- ・啓蟄の大地踏む試歩許されて
- ・命終のかくあるべしや散る桜
- ・囀りの中に二度寝の夢を追う
- ・仏心のまどいはや撲つ油虫
- ・まなうらに炎立て禱る廣島忌
- ・妻の座を余し月見の腰かくる
- ・何時か逝く天界ならむ今日の月
- ・ひた歩く日課の余生冬の汗
- ・立ち枯るる芒の命われに欲し
- ・除夜の鐘きき追う余命測りつつ

はからずも草津市制四十周年記念功労者(芸術文化)の  
表彰を受く

・功労てふ枷を背負いて年明くる

謹しんでこの度の阪神大震災で亡くなられた方々の御冥

福と被災方々の御見舞いを申し上げます。

・垂り落つ雪に地響く余震かと

## 二十一世紀に向かって

十期生園芸学科 村上 豊

人生は『尽くす、耐える、味わう』ものと聞いたことがある。我々は二十世紀において、国や社会に尽くし、充分耐えて過ごしたことを実感している。これからの時間は人生を味わい、けじめをつけた新しい生活を送りたいと思う。

今後は、自分の楽しみや喜びを膨らませ、思いやりで人々と  
の共生の安らぎを得たいものである。地域社会との繋がりを深  
めることや、趣味など単独でやりたいことも多いので、その調  
整を図りながら力を尽くして生きるつもりだ。

私は、日本人の平均寿命七十六才まで生きれば、丁度二十一  
世紀となるので、新しい世紀の名前を冠したサークル活動にも  
参加し、過去の付き合いやビジネスとは無縁な人々と交流して

いる。

- (1) 二十一世紀の初日を拝む会（元日に同伴で祝賀会を行う）
  - (2) 二十一世紀を見よう会（二十一文字の通信を年間二十一回）
  - (3) おおつ二十一世紀塾（業種を問わず学びあいの理念で活動）
- 二十一世紀を絶対見ると心を決め、必ず生き抜く目標をたて、気持ちに張りをもって暮らすつもりだ。長年苦勞をかけた妻と、健康で幸福に生き、二十一世紀までの変遷をこの目で確かめたい。

肉体の衰えは嘆かず、心の豊かさと円熟に磨きをかけ、社会の先達として明るく積極的に生きていこう。

背筋を伸ばし、前を向いて歩こう。

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

## 阪神大震災被災地を尋ねて

十二期生生活学科 澤井 民枝

私が、尋ねましたのは地震から十日余り過ぎた芦屋市と西宮市です。連日報道されている被災地も自分があるの中に立って見て、余りの様子に一瞬足が止りました。長年見なれた美しい

ったりした感じだった町並みはすっかり壊れてしまっている。

瓦礫の山とは此の様な事を言うのかと、目の前にある景色と見覚えていた風景とが重なり合って、しばらくは信じられない思いでした。お尋ねした方々は幸い少しのお怪我ですみました。家は傾いていました。今は唯お元気で此の災難をのりこえて戴きたいと祈るばかりです。

## マイカーに感謝

十期生園芸学科 浅野 穰

私がドライバーの免許をとったのはもう十七年も昔のこと、丁度サラリーマンにとっては、人生の節目ともなる定年になったときでした。

それ以来マイカーは一日としてなくてはならない大切な分身のようなものとなりました。

私の思う時に、希望する所へ、どんなに遠くても文句一つ言わないでなく、私を運んでくれるのです。寺社参りをはじめ、温泉や趣味の山草・盆栽展めぐり、あるいは石・木の採集に、ゴルフやゲートボールのスポーツに、友人仲間を乗せて遊びま

わる楽しさは格別で、余生が益々伸びて行くような幸せさえ感じます。

ボケ防止と幸せを求めて今日もマイカーに感謝しながら、運転を楽しんで居ります。

## 閑話

十五期生園芸学科 音島 勝

サンシユの蕾が黄色く膨らみはじめ、春の訪れを思わせませす。三月は啓蟄。地中の虫が動き出すと云われるこの季節、園芸を楽しむ者にとっては、気分を引き立たせて呉れます。盆栽を本当に凝り出したのは、老大の皆さんに出会ってからです、其の後も地元の同好会に参加し、実にさまざまな事を学んできました。草木は正直で、心をかけて育てれば、見事に実をむすんで呉れます、多くの仲間と老後の楽しみでできて、励みになつていきます。

。サンシユ（山菜）

中国や朝鮮に分布する、ミズキ科で日本へは江戸時代に中国から薬用植物として伝えられた、現在は花木として植栽され

ている。

## 一九九五年 国連寛容年 宣言

九期生陶芸学科 中村 勝一

国連憲章の前文にも「寛容」の実行が戦争防止 平和維持と  
いうその追求する目標達成のために適用されるべき原則の一つ  
であるとも規定されている。寛容とは他者の認識及び尊重、あ  
るいは他者と共に生活し、他者に耳を傾ける能力：即ち広大な  
心情でその過失をもせめないこと。あらゆる市民社会に於ける  
平和の強固な基盤であることと確信できる。

ユネスコ（国連教育科学文化機関）の国連寛容年における具  
体的な活動は次のような形で行われる。

- A、国連システムを創設した原則に沿い、寛容に関する国際的  
合意を新たに作成すること。
- B、個人・機関・国家の広範な参加をめざす。
- C、教育を通じて寛容の意義を深く理解させる。
- D、コミュニケーション及び表現の自由を強化し、寛容は人間  
の尊厳や市民的自由が尊重されている状況においてのみ存在

するから、メディアに対して差別をなくすよう促す。

E、寛容の文化への移行を促進するため、相互に利益をもたらす多国間の文化的、科学的プロジェクトを強化する。

一九九五年は国連創設五十周年！

人間の尊厳・人権・自由・正義・平等相互の尊重という民主主義の原理そのものを否認した恐るべき大戦争の間に「言語に絶する悲哀を人類に与えた出来事」を以後起こさぬようにしようとする崇高な決意を記念する意味深い年。

寛容は、平和をあらわす新しい名前とならなければならない。

国連総会九三年十二月二十日 総会決議文九五年を国連寛容年と宣言した。 非公式訳ヨリ

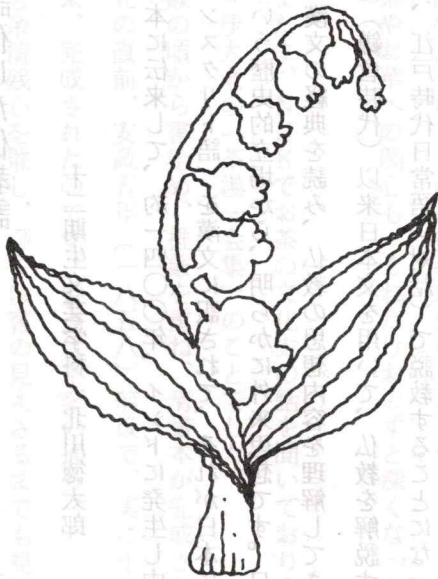
滋賀県老人大学同窓会十五周年！

干支から星座・十二律の納音なっぴんまであまりあてにならぬが表記すると、平成七年西暦一九九五年乙亥五黄土星山頭火井宿となる。

本年は早々より「阪神・淡路大震災」狂信的なオウム真理教・サリン毒ガステロ事件などに、殆んどの人達が未知の驚愕・震感を体験した。その節「私達は丸裸で立上り今日まで頑張ってきました、さあ人間は人の力でガンバリましょう…」公共放送企画なるスポンサーのGMであったと記憶しているが・・・

もっともらしい表現の中に被災者を馬鹿者扱いにしたような軽薄な演者の言動に反発し許せないと思ひスイッチを切った。寛容の深い心が、法を説く者として被災者の方々に訴えるものがあつたかどうか疑問だ！

大正十二年関東大震災の年も本年と同じ乙亥きとひと記事にもあつた。我々も国連寛容年を心して考えつつすごして参りたいと存じます。



## 甲賀支部

### 生きがい

七期生陶芸学科 谷 信一

老を卒業して、十年目を迎えました。楽しかった碧水荘での陶芸教室、今でも余暇があると土とあそんでいます。

平成三年より町の社会協議会の会長を務めることになり、最後の仕事と思ひ毎日を楽しく地域社会との関わりを深め、高齢者の生甲斐や、豊かな生活が出来る福祉の町づくりの推進にと頑張っています。

石部町では、来年から六十才以上の方々を対象に、シルバー人材センターを発足し、長年の経験、知識や技術を生かし、もう一度社会のために役立って頂き、そして自らの人生に生甲斐を感じてもらおうようにする。

私も後何年続くか解からないが、社会のためになることなら一生懸命努めます。

### 日常語化した仏教語

十二期生文芸学科 北川徳太郎

一、仏教が日本に伝来して、約一四〇〇年、インドに発生し中国で変化（サンスクリット語）を漢文に訳されて、それが日本に伝えられたという歴史的立場から、明らかに外来思想です。日本の仏教者は漢文の經典を読み、仏教の思想内容を理解してきた、十三世紀（鎌倉時代）以来日本文を用いて、仏教を解説する事も行われ、江戸時代日常語（対話）で説教することになった。又人々に教える方法として講堂（寺院の七堂伽藍の一つ）の高座にて説教した。仏教用語の漢訳は一定の約束に従って、インドの原語を仏教の教義や信仰内容に漢字の枠の中で理解する様に成りました、但し、インドの言葉では、一つの単語でも多くの意味を持ち、ニュアンスの異なる同意語、類語有りて一定の漢字に写すことは無理です。

二、日本人の信仰心は古代から自然現象を非常に大事にした、農耕定着民として生活する者は豊作を祈るとか病気の治癒や雨乞いの呪術を行う事もあり。江戸幕府の政策に依って、宗門改ためや、死者の戸籍簿を仏教寺院に一任して、仏教と死者との儀礼との不可分の関係を持った、又村より転出入にも檀家寺院

の証明書が必要とされた、仏教が今日の様に定着した原因の一つかと思われまます。

### 三、仏教の根本的教理は四法印

イ、諸行無常 此の世のすべては移り変化する事。

ロ、諸法無我 すべてのものは因縁によって生じ、実体性なし。

ハ、涅槃寂靜 さとりの境地 涅槃（サンスクリット語）「ニ

ルバーナ」人間の煩惱、欲望、怒り、愚痴などの誤った心

のはたらく火を吹き消された状態と云う意味、「有余涅槃」

生き居る事「無余涅槃」は偉大なる完全なさとり、後世の

涅槃は「無余涅槃」を指す、シヤカの涅槃「死」である

### 四、「般若心経」に記す

イ、色不異空 ロ、空不異色 ハ、色即是空 ニ、空即是色

此の四句を通して、人生は苦しみである、その苦しみは欲望という原因から生じたものである、したがって欲望を滅却すれば

おのずから苦しみも消滅、そして欲望を滅却するには、我々は

正しい物の見方をし、正しい生活を送らねばならない

### 五、仏語

講堂、高座、色、空、槃若、六波羅蜜、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧、苦諦、集諦、滅諦、道諦、瓦、鉢、通、印

仏（ブツ） 仏陀↓浄屠↓フトケ↓日本語の仏、

「くもりなき一つの月をもちながら

浮世の雲に迷いぬるかな」

（一休禪師）

参考「仏教成語辞典他二点」

### 一期一会と独座観念

十四期生陶芸学科 徳山 一郎

老大OBの皆様方には、如何お過しでございますか。

さいわい私共の町には陶芸教室があり、老大の大先輩や、茶

華両道の宗匠のような方々の御指導が受けられます。

自然、お茶やお華への関心も、それだけおのずと深くなった

ようです。

先日もたまたま、NHKでお茶の文化史の話を聞いておりま

すと、彦根井伊大老の「茶湯一会集」のことでした。

彼三十一歳の頃から書始め、推敲を重ね、清書本が完成され

たのは、横死の直前、安政五年（一八五八）前後で、実に十五

年の歳月の末、完成されたのです。要点は下記の通り。

「主客とも余情残心を催し、亭主は客の見えざるまでも見送

る也。……今日一期一会済みて、再び帰らざる事を観念し、或いは独服をもいたす事、是れ一会極意の習なり。誠に自得せざればいたりたき境界なり」。

三 (日本の茶書ニ東洋文庫二〇六)

### 老大一期生のその後と懐古

一期生陶芸学科 辻井 美代

七月七日は七夕祭で、年に一度の逢瀬である牽牛と織姫の伝説に因んで、この日を老大一期生(陶一会)のクラス会に当てた。

それから十幾星霜、年々クラスメイトが旅立って現在七人が健在で、その内四人が陶芸である。

そして毎年の七夕祭の日を待ちこがれ、クラス会では心ゆくまで交友を深め合い、名残の尽きぬままに再会を約して別れを惜むのである。

三 限りある余生、来年の約束は?、言葉には出さないがそれぞれの胸の中に切なる思いがあって「さよなら」の握手にも力がこもるのである。

老卒卒業後碧水荘の陶芸部に入り、古谷忠六先生の指導を受け、十幾年あの遠い碧水荘へと通って、今や陶土に根をおろした様に黙々と製作を楽しんでいる。

枝は貧しくとも夢を持ち続け、只一つでもこれほど納得のいく作品を仕上げ、これは世界に只一つの作品としてながめられるのは、陶芸する者の醍醐味とも言えるのではないだろうか。この信念と老後の生き甲斐となった陶芸の道へと育てて下さった大西忠左先生、古谷忠六先生に厚くお礼の意を表したいのである。

今や老卒の規模も大きくなり、同窓会にも立派に活躍されている後輩諸氏のあることを識るにつけても、それ等の諸氏に尚大きく期待致す今日である。

### 加減とは

十四期生陶芸学科 八太 利郎

町老卒の生きがい対策として陶芸教室があり、私も月二回の作陶に生きがいを楽しんで居ります。素焼・本焼も先輩より教えを乞い、ようやく一人歩きの出来る迄になりました。

この頃焼成の火加減が大変な事である事が解って来ました。それは、点火から千二百三十度まで、時間と油送り、送風など火の色を見ての手加減で温度を調整します。約八時間、ひたすら焼上りの無事を祈り乍らの作業です。

今日の日常生活は電気製品の発達のおかげで、風呂一つをとって見ても、蛇口を回せば水が出る、ボタンを押せば追い炊きが出る。湯加減は本人次第になって、昔の「湯加減どうや」「え、湯や」、「そうか一くべしとくわ」とこんな懐かしい会話も聞かれない。もう今の時代、火加減、湯加減の言葉は無用なのでしょうか。ちょっと淋しい気がする。

国語辞典を開くと、加減とは、「加えると、へらすと」「程よく調節する事」と書いてある。

## 合唱と健康

十五期生文学学科 川畑 徳勝

私の町の菩提寺公民館に「くさぶえ」という合唱サークルがある。平均年齢概ね七十歳にて四十五人中約七割が女性である。

一年前からこのサークルの世話係をしている。毎年恒例の町文化祭、公民館まつり、独身老人の集い等で発表しているがなかなか好評である。月二回の練習日には「長い息は、長生きに」通ずると、元気に声を張り上げており、歌うことは健康に大変よいと思っている。人の輪も広がり、交流も生まれ、夢も育っていく。

私も楽しくそして他の人も楽しく、高齢化社会をすごしてゆこうと念願している。

## 陶芸に学ぶ

十四期生文学学科 西河登喜子

老を卒業して早や三年の歳月が流れ去っている。何かと趣味を多く持って、浅くても広く知っておきたいのが私の願望であります。

甲西町陶芸教室に参加させて頂き、粟津先生、真鍋先生、教室の皆様の指導により「ぐい呑」ばかり造り、幼い頃の土遊びを想起し個性ある形が造れ悦に入っておりましたが、阪神大震災。自然の恐ろしさ、人間社会のもろさを実感させられ、豊か



さや繁栄を当り前と思ふ私達に、どう生きるかを考えさせられて  
いるようでもある。

朝の一杯のお茶を静かにすすることが心に泌みる。

被災の方々の御冥福を祈ります。

## ひととき

十一期生文学学科 藤田 俊子

冬の午後、古いアルバムを繰り、卒業写真を見ていると、恩  
師がよく中国の故事を教えて下さったことを思い出した。

言葉巧みな話に聞き入っていた日が懐かしい。「樵が碁の観  
戦に時を忘れ、気付いた時には、斧の柄が腐ってしまった。こ  
れを『欄柯』といふ物事に夢中になり、永く時が流れること  
である。」と言われたことも記憶している。

年月を重ねた今、何に情熱を燃やし、夢中になってきたかと  
振り返ると、むなしくなってくるが、今携わっている事を無理  
をせずに続けていくことが出来たらと、自分にいゝ聞かせた、  
ひとときであった。

## 或随想四季より

四期生陶芸学科 島田寅治郎

機中で機長のサインをお願いし、差出した随想四季、四季に  
は多く綴られ今次旅行の題、ルネサンスの源流を訪ねる旅とタ  
イトルを書き、続きにサインを願う度いと申し、自席に待って  
いたら、女性パーサーが来て、此んな事は珍らしい機長席に遊  
びに来て下さいと、お誘いを受けた。願っても出来無い事、誘  
われる儘機長室へ、総てがメカニズム色々と話合って感激して  
辞した。サインを見ると、

ANCHORAGE 高度 37000 FT (11,300 m) HABURG

JAL 433、速度 880km/H 外気温 -62℃

CAPTAIN A・NAKASHIBA GREEN LAND 上空にて

大自然の脅威のまえで、文明の限界と戦い乍ら……とある。  
今日も世界中の空に飛行し続ける人々に幸多からん事を祈る。

## 記 念 樹

十四期生陶芸学科 徳地 幹夫

去る二月、大津市内のホテルで叙勲受章祝賀の集いを催して

戴き、この日のことを記念して公孫樹の若木をレイカディア大  
学草津校の庭に植えさせてもらいました。

幹が堂々と真っすぐに伸びること、枝の張りがちゃんとして  
いる事、新緑がきれいなこと、秋になると里に彩りを与えてく  
れることなどから、私はこの樹が好きです。何年か後に、銀杏  
の実がなるようになればもっと楽しいと思っています。

私は斯く生きたいと思っていたことを、みんなこの樹に託し  
ているような所があり、成長が楽しみです。

## 故郷

十一期生文芸学科 山中 勝

滋賀県へ来て五十年になる。

故郷が今さらのように懐かしく思われる。波静かな穴道湖に  
影を落す嫁ヶ島の夕日に映える松江の町は、神話と史跡に満ち  
たロマンの地であり、千鳥城とよばれる松江城は、幼き頃の夢  
をかきたてる。

城の近くには、日本の風情にあこがれ、松江を愛した小泉八  
雲（ラファディオハーン）の旧居があり、その近くで生れた私

は、子供の頃その周辺をよく歩いた。

先日松江へ旅行して、城の周りを歩き、緑の木に囲まれた並  
木道を歩きながら、神苑の中にあるような雰囲気、懐かしく  
今も忘れられない。

## 育 緑 愛 花

十二期生園芸学科 藤川 一二三

老大講師島岡先生より、松や藤、石楠花など盆栽や庭木の育  
て方、挿木接木と表題の「育緑愛花」どうりの御指導を頂いた。  
卒業後教わった技術を研鑽し現在、花木常緑樹など大小盆栽  
三百鉢を数えている。

地域の盆栽教室や青葉会（盆栽クラブ）に入会しその仲間  
に教わった技術を披露し更に研修を重ねている。特に青葉会では  
毎年四月下旬「あいの土山石楠花まつり」を実施し町内外から  
の参観者も多く盛況である。

今後も緑を育て花を愛する多くの仲間と共に頑張っ  
て行動し  
てゆきたいと念じている。

## シルバーコーラスのこと

十二期生文芸学科 片淵 保雄

先日町の人コーラス代表の方から「今春からは是非復帰してもらえないか」とご依頼がありました。

三年前、本町には青年や中年ご婦人の合唱団が活躍しておられるし、われらシルバー年代もやりましょうか、と発足。

どうやら人様の前でも歌えるようになった矢先、家内の怪我で大手術と長期入院、退院後も介護と家事の補いで家が空けられず、止むなく一年余も勝手をせざるを得ない破目になりました。

何とかコーラスを続けてほしいと願ってはいましたものの、得てしてこうした自主的サークルは、うたかたの如く消えやすいもの、やがてはこの轍を踏むのではと案じていましたがどうしてどうして。

代わりの講師のお助けやメンバーの方々の結束でよく持ちこたえて下さいました。

お出合いする団員の方から「歌は生き甲斐です。」「是非来て下さい。」「ロングドレスもつくりました。」「

いや、この意気込み、このパワー。」「

いつまでも惜げてはおられない。「ご期待に多少でも応えられれば。」幸い昼間は出られそうになった。「それでは、また一緒に歌いましょうか。」と来る日を心待ちの昨今です。

## 最近の雑感

十五期生園芸学科 田畑 治男

私は、歴史を愛好する人たちの集りである二ツのクラブで年十数回近隣府県の貴重な歴史的遺産を見学して、いつも思うところがある。

それは、国土開発が進み自然が失われて、人間生活にも大きいひずみが生じている中で、貴重な歴史的遺産が公益の名を借りた破壊を実例として多数見聞している。

わが滋賀県においても、湖東三山の一つの西明寺、米原番場の蓮華寺などは代表的な例であろう。国宝や重要文化財に指定されてなくとも、それぞれの地方において住民の貴重な歴史的遺産として今日に伝えられている多くの神社仏閣や史跡が、都市計画の名のもとに、参道をもぎとられ、あるいは神域山林を裸にされている。

行政を担当する人々が、自然や歴史に対してどのような考えをもって国土の開発をしているのか、いささか疑問に思っている。

そもそも都市計画なるものは、人間がより良い生活を営む場所を社会の変化に合わせて計画的につくっていくこうとするものである。都市計画法は確かに人間生活を豊かにすることを目指しているが、この法律を運用し、計画立案している現場では、総合的観点から豊かな人間生活の場を考えて都市計画を推進しているのではなく、経済的な有用性のみを考えて、机上での計画したものを形式的にルートにのせて決定し、ひとたび決ったものは役所のメンツにかけて変更出来ないとして、無理に現地にあってはめていこうというやり方なのが実情ではないのか。

地域住民の心と密接に結びついた計画をした、住民の安らぎの場でなければならぬ。とりわけ長い歴史をもち、尊厳と風致に満ちた宗教的施設や史跡と、それを取り巻く自然は、われわれにとって、特にその地域の住民にとって侵すことの出来ない神域であるとともに、心の安らぎの場所である。それらが公益性を大義名分にして、無残に踏みにじられてよい筈がない。昨年、大分県の国東半島の五百羅漢や富貴寺、熊野磨崖仏、真木大堂等を訪れたが、そのようなところは皆無であった。

歴史の風雪に耐えた神社仏閣のもつ尊厳や風致は、人々が安らぎを得る砦として、絶体に侵すべきでない。

新しい都市の計画は、歴史と自然を保護するなかで計画するものでなければならぬ。日本が世界に誇り得るものは、長い歴史であり、風光明媚な山河大地であって、経済力ではない。歴史を愛する者のひとりとして提言を申し述べ筆を擱く。

## 長命富貴

五期生園芸学科 芥川 徹

人生八十年の長寿社会を迎え、既に齡、傘寿を越えて、高齢者の仲間入りをした。

郷土は山翠人衣を払う・恵まれた大自然の環境、四季折々の移り変り、花鳥風月をめ、自然の妙なる摂理を友として、お陰で身体は至って順調である。我が国の急速な高齢化社会に伴い、これの対策が求められている。

意志あるところに道あり・地域老人クラブの喜寿以上の高

齢者が「老人憩の間」に毎月一日、十五日に集い、どんな些細なことでも、胸襟を開いて、心の底から話し合い、助け合い、励まし合い、友情を深め合う「語ろう会」を結成してから三年が経過した。

高齢者の多くは「押し車」、厳寒、猛暑の中も元気に集って来られる。

今まで歩んできた長い道、山あり、谷あり、喜び、悲しみ、苦労、悩みを共に語り合い、これからの生き方を話し合う。

仲間が習ってきた手芸、紙細工を皆で手がけ、自分の手で作りあげた喜び、グランドゴルフやゲートボールで汗を流し、和気あいあいの中に楽しい一時を過ごす。

長命富貴・我々高齢者は長寿を大切にし、心身の健康管理に努め、稔り豊かな、悔いのない人生を歩みたい。

## 私のボランティア人生

十一期生生活科学科 畑中 千代

「おめでとう、きれいに写ってますね」と逢う人々からお祝いの言葉。それは昨年十月、大津のプリンスホテルで開催され

たレイカディアアホールラムで、シルバー優秀モデル賞を頂き、町公報に掲載された折のことです。

そしてまたこの二月、十一期生OB会に出席して、出逢いを大事にしてきた皆さんに、二年間の成果報告と入賞写真を見て戴き、大いに祝福を受けました。

私は十二年程前から点字を習い、ろうあの方々と共に点字カレンダー作り、また七十才を過ぎてから手話サークルに入り、手話コーラスや料理講習会にも参加しています。このほか、外に出られにくい身障者の方々に、世間話しを仕入れてきては、お話しする等大変楽しんで貰っています。

またガイドヘルパーとして、いろんな会合にも出席しています。

この間屋久島へ旅行した時、一杯で十年長生きする水を三杯も呑んで、何んと欲深いと笑われました。

もう年やと思った事もなく、心身共に元気で、豊かな生涯のため何事にもチャレンジを続けます。

そして最後は、医大の学生さんのお役に立つため、献体してあります。

## 此れからの人生

十三期生陶芸学科 谷口 正夫

感謝して暮せ 今日一日

不平言うても 同じ一日

体力の衰えから不安と自信が無くなり、孤独感が来て自然に不平不満が出る自己本位型に成る。

頑固で柔軟な発想はコミュニケーションでうるおいを、心のゆとり余裕を持った仕事趣味を生かしましょう。

日々先祖に感謝し心豊かな生活は自分が作る以外にない、体力の老化は防げなくても心の老化は防げる、物事には感動し感情豊かな人、ありがとうのほほ笑みは、明るい家庭が出来太陽の如く輝く、自然に感謝の気持が出る、互に健勝で頑張りましょう。

合 掌

## 同窓会と準備

十一期生園芸学科 今井 博

平成二年に老卒業、その十月に第一回目の同窓会を、甲賀、

蒲生地区担当で、信楽において松茸狩りを実施して以来、毎年開催され参加させて頂いております。

平成六年度は草津市において盛会裏に終了しました。その折幹事より「次回は甲賀、蒲生地区で開催します」と挨拶され、驚きました。

年も平成七年となり新しい気持ちで今年も頑張るぞと思って新年を迎えました。

二月二十七日近江八幡市で、七年度春季同窓会が開催され、終了時に又もや「園芸科同窓会」を甲賀、蒲生地区でとの話がありました。

その結果を郡内同期生に通知し、今後如何に計画を実施するか相談し、準備会を開いて計画したいと思っております。

同期生の皆様、参加者が大変少いので、今年こそ多数参加をお願い致します。

各地に参加し一日楽しく過すのは良いけれども、自分達が計画し実施する責任の重さを、つくづく感じている今日この頃です。

戦後五十年を経た終戦の思い出

十一期生園芸学科 佐々木尚一

人間の生涯において思い出と言うものは、素晴らしく感激した喜びや、楽しい思い出があり、また酷しい苦しみや、悲しい思い出など人それぞれに持っているものである。

私にとっても思い出はいろいろあるが、やはり喜寿を迎えた長い人生の過程で、体験をした戦争の思い出が何時までも脳裏から離れないものとなっている。

しかし不思議なもので、あれだけ悲惨な戦場での戦闘の生々しい状況の中で、恐怖や辛苦のことは既に忘れてしまい、その日の激しかった戦闘が終わって今日もまた、ああ生き残っている良かったと思う喜びの方が数倍にもなる思い出として、その感激が終戦後五十年過ぎた今でも忘れないものとして生き続けている。

毎年のように八月十五日が来ると、ビルマで終戦を迎えた、

あの当時の感傷が思い出されてくる。既に戦況もかなり悪化しビルマ全軍が泰国へ転進するとの噂もあった。

私の中隊の戦力も幾多の激戦と転進で減少して、しかも戦傷者と半病人が多くいて、兵器、弾薬も乏しく戦闘能力も充分でない僅か数十人の兵力になっていた。

これがかつての日本軍の精鋭かと思えるほどに成り下がって、次期作戦に備えての再編成が行われようとしていたが、状況は次第に激しくなり玉砕寸前の様相となっていた。

当時雨季の真最中で最後の防衛拠点であった、ビルマ南部のシタン河畔の最前線の守備についていた。終戦日の二三日前から敵機の空襲と砲撃が我隊の前線基地を目標に従来より一段と激しくなり、いよいよ全滅を覚悟していたが、十五日の朝からはその様子が一変して砲撃も、敵機の空襲もなく静寂そのもので、これは変だなあ、何かあったんだなあと思っていた処、翌々日陣地を撤収して連隊本部へ集結を命ぜられ、終戦の大命によって軍旗を焼却して武装を解除され敗戦が確実となった。

思えば、昭和十九年からビルマ戦線に従軍して以来二年余り幾多の戦闘にも参加して、ようやく無事に命を長らえて私は生きていくのだという実感が、数日過ぎても自分のものにならない。まあ、あれほどの悲惨な戦闘にも自分だけが生きている。ま

さか夢ではないだろうかと半信半疑の状態がしばらく続いてきた。生きていることがむしろ奇跡にてこれこそ全く神仏の加護と多くの英霊達の身代りのお陰であると信ずるようになった。

そして何故敗れたかよりむしろ敗けてよかったと思う気持ちの方が強かった。それ程に当時の我々の気持ちは荒んで悲惨な状態であった。それから英軍の管理下に捕虜としての収容所生活が二年間続くことになったが、これからどうなるだろうか、本当に故国へ帰れるだろうか、また心配と不安が敗戦のショック以上に日々高まって行った。

ニッパ―屋根とアンペラ囲いの収容所の土間でゴロ寝の夜毎に、何度も戦車に追いかけてられている夢や、敵機に銃撃されている夢を見ては、うなされて、ハッとすることが幾夜も続いたものであった。

二度と経験することのない我が人生で、一番華やかな二十代の青春を戦争という苛酷な運命に生命を掛けて来たのに、これが敗戦という結果に全く無駄な十年間を過ごした空白の感傷が一生涯思い出として離れない。

悲惨であった所ほど余計に懐かしく、強いていえば第二の故郷でもあるビルマで自分達が戦ってきたあの当時の、ジャングルの深み、雨季の泥沼、セレヤガビーの強烈な匂い、ロンジ―

の色どり等々ビルマ特有の感触が郷愁となって今でも甦って来て、五十年を経た現在の平和な生活とは全く異質な遠い国での様子が強い力で我々を引き付ける。

やっと帰還船が、我々を最後として引き揚げにやって来た。四年間の数々の思い出を残して、ようやくビルマとのお別れとなった。ラングーンを離れる時にシェダゴンパコダの黄金色が夕映えに輝いていた。去り行く船上から、さらばビルマよ永遠に幸あれと、そして各地の戦場で化神となって散華された戦友の英魂の安かれを祈りつつ別れを告げるのであった。当時としては再びこの地を訪れる機会があるだろうかという望みはとても持てなかった。ただ一刻も早く祖国へ帰りたい、故郷が恋しかっただけであったが、やがて数年後ビルマ方面への遺骨収集が開始されることになり、英霊の遺骨もようやく故国へお迎えして鎮魂慰霊の祈願が出来るようになった。またビルマへの戦跡慰霊に懐かしい戦地を訪れることが出来るようになり、長らく大きな忘れ物を思い出してやっと取り戻したような感じで余計に郷愁が甦って来た。あれから半世紀が経過して戦争の話など既に風化して忘れ去られようとしている。

私達にとっては一番華やかな青春をかけた命がけの思い出であり、亡き戦友の追憶の慰霊を続けながら、今まで生かされて



いる喜びを何時までも大切にしていきたい。

## 被災地に思いをよせて

四期生陶芸学科 岡田英多良

月日の経つのは早いもので、阪神淡路大震災発生以来四十八日が経過した。連日テレビ、新聞を通じて被災地の現状を見るにつけ、先づ以て、五千四百余名の死亡された方々に対し衷心よりご冥福をお祈りすると共に、今なお続く被災状況の拡大に胸が痛むのみであるが一日も早い復興を唯々願うばかりである。折しも大阪に於て日米防災会議の開催中とは誠に皮肉なこと、戦後最大級の震災となった。

大正十二年九月一日の関東大震災は私の九才の時であった。遊んでいた寺の縁側から転げ落ちて、這うようにして家に帰ったことを覚えている。たしか激しい横揺れで我が家の石灯籠の擬宝珠が落ちていたが、横揺れと直下型の違いかこんどの地震では落ちなかった。

余震による二次災害の緊張の中自衛隊による懸命の救出作業。燃えさかる炎を前に、水の出ないホースの筒先を持って走り廻

る消防士の姿。危機がさし迫った状況を中国の荘子の故事に「輓鮒の急」と言う、と京都新聞の凡語欄に出ていたが、車のわだちの跡にフナがいて「少しばかりの水を下さい」と請う。「よろしい、後日たくさん運んでやろう」フナがいう、「いま必要な水に困っている、干物屋の店先で私を探すがいい」と、何とも歯痒ゆい限り。

今なお二十万人以上の方々が不自由な避難所生活を余儀なくされているとか、被災者の窮状はテレビ、新聞などの情報によるほかない我々、瓦礫と廃虚の中、そうたやすく元に戻るとは思わないが、一面、永年住みなれたこの街で何んとか腰をすえて立ちあがろうと慨に各方面で活動されつゝある。そのバイタリティーこそが復興を早めることであろう。

何んとか・・・その言葉すら見当らぬまゝ、唯々ご冥福と被災された方々に心からのお見舞と、復興の一日も早からんことを祈らずには居られないのである。

雁行す二機三機五機

へりの轟音 一途に目指す

叫喚の街。

続き 赤 だ す き

五期生文芸学科 小林 章郎

数日後、或る雪の舞う早晩に部隊全員の演習が始まった。軍用自動車といつても民間の貨物自動車と変らない。機能が悪いことはおはなしにならない車で、木板を一五センチ位に切った物を人間の胴位の煙突のような、その上の蓋を開けて投げ入れ、くすぶり燃やしてガスを発生させ車を走らせるのであるから実にお粗末な恐ろしく時代遅れの自動車である。ガソリンは補充的に使う燃料でしかなかった。それでいてガソリンは関東車は一滴もないかという、点々と丘陵地帯のあちこちに洞窟を設けて多量のドラム缶を蓄えていたのである。ソ連軍の望楼から見えないところにある。そんなガタピシ軍用トラックに、中須伍長と小林上等兵、安立一等兵の三名は乗り込んで、先発部隊に連絡の為宮門を出発したのが朝九時二〇分頃であった。右の国境の向こうに一際高く聳るソ連の望楼を遠くに眺め乍ら、なだらから丘陵の裾野に広がる道を北西に向かっていた。雪は降りしきって止まらない暴風雪である。酷寒零下二五度が益々降下するばかりである。満州では風の強さが寒さに比例して秒速一m毎に温度が低下するのである。軍歌にある通り「何処が

道やら道さえしれず」白皚々の一色である。乾燥しきった新雪は風に吹き散って、満州でこのように積もる事は先づ少ない現象である、車輪に鎖を巻いて一望千里の広大な荒野をスリップし乍ら進む車は遅かった。雪煙に薄くかすむ電柱を道標に五キロも行かぬ内に「エンスト」を起こしてしまった。エンジンの音は不調で始動チョークを引っ張ってもガーガーと苦しうである。エンコしてから数分の後には車を盾に左側より叩き付ける雪は、大きな吹き溜まりを作ってしまった。強い風に舞う雪はトラックも兵隊も凍りつけとばかり荒れ狂った。

防寒外套に防寒帽で包まれた、からだはたいして寒さを意識させない位で防寒帽から目と鼻だけが白い息をはいていた。救護隊の出勤要請の連絡も取れない。長時間車内でじっとしている事は、空腹とともに襲う寒さに堪えられなくなってきた。車外に出て見ると胸の高さに積もっていたが、車輪の右側陰になつたところはまだ雪は少なかった。風と共に渦を巻いて散つたのであろう。三人は車の陰で交互に背中を合わせて激しくぶつつけ合い体温の低下するのを防いだ。顔の相はみるみる変わっていった。眉毛が凍ってシャリついている。マユゲはサンタ爺さんのように真っ白に変装して白く太い眉毛になっていた。鼻毛は凍りついて吸い込む息は事のほか冷たく鼻の奥の神経を刺

すように痛い。こんな時一人で離れて行動することは死を招くのである。ポケットにしのばせたキャラメルが帰営するまで頑張ろうという我々を元氣付けた。

## 思いのまゝに

七期生生活学科 辻 喜久枝

終戦の年、夫は四十日の患いで、三才十ヶ月と九ヶ月の幼子を残して病死し、二年後、私は幼子を両親に預け勤めに出ました。今から思えばよく頑張ったと自分ながら感心しています。現在、母子・寡婦家庭の幸せを願って、母子福祉のぞみ会の市の会長を預り、毎日次々と行事や会合にと活動しています。私共の子育て時代は何の恩恵もなく、差別でなく区別こそされてようやく育て、きました。今はのぞみ会の先輩役員の方の大きな努力と福祉行政の暖かい思いやりで、母子・寡婦福祉法も制定され、いろいろの制度に守られ、一例をあげますと罹病の時は無料で医師の手当を受けられ、種々の貸付制度もあり、修学資金の場合は無利子でと手を差し伸べてもらえ、福祉施策の充実が喜ばしい事です。

しかし両親揃って育てられる子供の幸せには到底及びません。しかも母子共に精神的な悩みは救い様もなく、死別の母子家庭となる事は人生の最大の不幸で、身をもって体験した一人です。昨今、若い母子家庭、しかも生別が増加と歎かわしい現状です。子供達の将来、心情を考えます時、とても不安で何とか良い社会環境をと願わずに居られません。

私も会結成より入会、皆様のお世話をして十七年、会長として十年、毎日流れの儘に無我無中で幸せを願ってきた思いですが、力量なく、若い母子のお母さまには通じなく悩み多い毎日です。

## 講演「納棺夫日記」から

七期生園芸学科 中谷 清司

私（講師）は終戦の翌年、母と二人で旧満州から富山へ引揚げた。家は代々庄屋であったが農地開放で田地はなくなり、売り食いの生活で、大学へは仏壇を売った金で入学するありさま。大学三年の時母が亡くなり、商売を始めた、一時期は繁盛したが文化人相手に遂に倒産。明日の暮らしに困る状態となり、

わらをもつかむ思いで棺屋へ就職した、そのうち納棺を手伝うようになり、人に塩をまかれる職業となってしまった。土地の有名人であった叔父が飛んで来た、そこで大喧嘩となり親戚付合いもなくなり、多くの友人も離れてしまった。

その当時私は納棺夫を止めようと思っていた。ある日立派な家から依頼があり出向いた、納棺をしているとき東京に居た当時の恋人に出会い、流れる私の汗を拭いてくれた、私の考えが変った。服装、持ち物も考えて一新した。その頃から納棺の予約がでてきた、盆も正月もなかったただ一生懸命に働いた、そして自分の職業の本質を知る必要を感じた。

叔父が「ガン」になった、見舞うべきか迷ったが病室に入った、叔父は「有難とう」と言ってくれた、この一言で今までの「憎しみ」はなくなっていた。

それまで死人の顔を見ていなかった。蛇の顔もかわいいものである。死人の顔は「やさしい」顔である。〇〇組の組長、事故死の少女もみんなやさしい。その頃から宗教書物を読むようになった。

警察から電話で来てくれと頼まれた、一人暮らしの老人がいつ死んだのかわからない、家の障子は開け放たれ、死人の腹が動いて見える「うじ」がわいていたのである。一匹一匹の「う

じ」が光って見えた。

阿弥陀 いのちとひかり

超日月光と親鸞は言っている

法然、親鸞の一枚起証文は宇宙の真理を説いている。阿弥陀をなぜ信じないのか、科学者は僧侶は科学者を互いに信じていないようである、宗教のない科学はありえない。視点を変えなければ「生」も「死」もみえない。南無、帰命、無我であること、阿弥陀仏に南無する。「有難とう」と言いたくなる。合掌

## 老人介護問題について

八期生文芸学科 安倍 勉

急速な高齢化社会を迎えるに当り、老人介護と云うことがやましくなってきた。

「寝たきりにならないか」「ぼけたらどうしよう」と云うのが老後の二大不安である。

超高齢化社会と進みゆく、少子社会を迎えての、老人介護は如何に対処すればよいのか、「新ゴールドプラン」が策定されたが果して実行可能なりや否や、行政や関係団体や家族共々あ

れこれ悩んでいるのが現状ではなからうか。

現在寝たきりや痴呆になつての要介護老人は、二百万人で二〇二五年には五二一万人に達するといふ厚生省の推計である。

現在の高齢者の家族形態は、夫婦だけが三割独居老人は一割この傾向が更に強くなるであろうと、年をとればとるほど「倒れたら一体だれが面倒をみてくれるのか」と心配が増えるばかりである。心構えだけをして置く必要がある。人口の推計によると六十五才以上の高齢者は総人口に対し一四%（本県は十三、六%）二〇二五年には二五%に達すると推計され、四人に一人が老人であり、行政上一律に六十五才以上を老人としているが加齢だけでくくり老人としていることに問題があるのではなからうか、老人概念の区分を明確化する必要があるといわれている。男七十六才女八十二才の長寿国であることを考えれば当然であろう。超老人の増加の反面出生率は年々減少し現在は一、四六人で老人介護問題に人手の少ない少子社会を迎え誰が面倒をみるのか、少子社会対策と併せて老人介護問題を考えねばならないと痛切に感じるのである。

## 頑張れノレーガンさん

八期生文芸学科 岡田富治郎

アメリカのレーガン元大統領が「私はアルツハイマー性痴呆症の初期段階だと診断された」と発表したとの新聞記事は、世界の人々に大きな反響を呼びました。その勇氣に感動するとともに、このことによつて世界の人々がこの病氣に関心をもつていただけることと期待しています。

アルツハイマー痴呆症は、脳が徐々に萎縮し、神経細胞が脱落するために呆け症状になるもので、その原因は全く不明、従つて根本的な治療法、予防法がない現状です。しかし早ければ進行を食い止めることが出来るそうです。

我が国では痴呆の老人は百万人といわれていますが、六五才以上の人口千七百万人として、十七人に一人ということになります。しかしこの数字ははっきりつかまれたものではありません。アメリカでは癌でも告知されるのが普通ですが、日本では何でも隠しておくのが美風？ 殊に呆けというと、何だか不名誉だと思ふのか、表に出てこないのが相当あると考えられます。家の中に閉じこめて家族だけで悩んでおらずに、行政や社会の支援を受けるようにすべきだと思います。私達も家族の会をつ

くって、話し合いや相談を行っています。

## 責 任

八期生文芸学科 山路正太郎

元気なうちにと地域社会に奉仕、精神一到何事か成らざらん七十余年の生命に感謝しつゝ、人生余生期に五ケ年間、浄土宗総本山知恩院末寺真如山法性寺本堂新築、建設委員長として奮闘する。

当山は寛文六年に長誉貞覚上人が開基されて以来三百二十余年の歳月に耐え老朽化して危険となった。檀徒一同寄り合い本堂新築議題に集中審議、「新築の兆しは十数年以前より持ち上っては纏まらず」逐に平成二年、隗より始めよの一言で重責を負う事となった。

いかに旧本堂の解体をするのか阿弥陀如来さまの仮安置等々、地ならし地鎮祭、上棟式、落慶法要等幾多の行事を念頭に置き、新築請け負い業者等の選定に委員会を開催すること夥しい回数となり心身共に疲れる実には百練千磨である。檀中四十数軒にして新築浄財の捻出には頭が痛い、しかし先祖の安住の地、子孫

の念仏の道場である心配無用檀信徒より多大の浄財を戴き今後五百年は使える立派な本堂を築く事が出来ました。そして無事滞りなく昨年拾月九日落慶法要を盛大に勤め終えました。檀信徒の皆さんに感謝申し上げる次第です。

## 「私にとっての往生」

八期生文芸学科 牧田 登茂

大往生というベストセラーの本が出ているようですが、世間の多くの人々がそういうことに関心を持っておられるという風潮について興味を持っています。私自身決して若い年代ではありませんから、当然この世からの身の引き方を考えずにいられないからです。

不思議と私にとってそれが「死」という直接的な形で迫ってくるという実感はまだありません。天性楽観的なおかげかと思っております。

しかし自分の生き方に一区切りつけるという意味で、私は定年退職というような形が、大往生と似たようなひびきで迫ってきます。

幸か不幸か、私は生涯を勤めくらしをしないで来ました。それで定年退職といっても、亡夫のそれがあまるにすぎません。それも既に十五余年も昔の出来事になってしまいました。それよりも最近自分の息子の世代の人々が迎えておられます。あの校長先生が、あの県の先生がという様に。無事にお勤めおめでとうと申し上げ御功勞をたたえ、祝賀会のようなこともなさいます。毎度乍ら御本人はめでたいと思っていられませんかとお氣にかけます。先にもいいました様に実感として私自身退職したりする時のことはわかりません。ただ最近その人達について今迄より氣にとめるようになりました。これ迄のお仕事を続けたいとか、まとめて置きたいとか、努力なさっている人達、今迄出来なかつた趣味に没頭される方がいられます。最も多い様に思われますのはグループ旅行に出かけられる事です。旅行によってやっと手にいれられた自由時間を楽しみ、それによって失われた生活への寂しさを紛らわせておられるのか、旅行が日常からの脱却、逃避であるという方もいます。しかしいづれ帰っていく所のあつての逃避なのでしょう。私も人にまけない程の逃避ずきです。そして此旅が何れかの時には、帰ってこられない旅になるだろうという漠然とした余感もわいてきます。こういう老境のおもいは、独り静かに自然と面していながら感じ身辺

整理も元氣な内にと思っています。閑居してという心境ではありません。そう思つて見ますとどなた様も忙しい忙しいといつておられます。人それぞれに忙しさに追いかけられて定年迄を駆けぬけ、それから又それぞれにやりたい事や少くとも自分でやらねばならないと思ひ決めた事柄には、ゆっくりと物を思う様な時間を費し、やがて大往生か小往生するのだろうと思つ今日此頃です。

そうはいいいながら、それが何となく他所ごとの様に感じられているのは、往生際がよくないのか、今しばらく先のことなのでしょう。

健康で好い一日を迎えられ、送らせていただき、この幸せを感謝いたしております。

### 他人のふり、自分のふり

八期生文芸学科 小川 常三

しばらくテレビを見ない生活をしてみた。一月余りしたら胃腸の調子がよくなつて、お酒が一層おいしくなつた。

吾惟うに、食事中の家族との会話が増えるなど、ゆっくりと

よく噛んで食べるので、消化器系統に余裕が出来たのではないかと。更に時間も余裕が出て来たから本がたくさん読めて、日頃の「積ん読」の山が大分低くなった。

ではマイナスはなかったか、酒席での駄ジャレが下手になつたぐらいか。テレビで見流しの知識は殆んど身につかない、知識は読書が第一で、単に聴いた事、見た事などは、ノートしない限り頭に残らない。それを更に復習実践し自分で検討を加えたときに、見識が生れてくる。

娯楽番組で心の洗たくをしたい人は別、あれは忘れるために見るものだから。大河ドラマなど見落したら一生の損ぐらいい思つて見つめているが、去年は何やっていたの？とたずねられて即答できる人は少い。

ある文化的？な会の席上で、「僕は遺言で、香典返しはせず、金額を身障の方々の福利施設に寄付してくれ、と書いている」と話したら、「それはスコイ（スゴイではない）自分だけが良い顔する事になるやないか、それなら香典を辞退すべきや」と酷評された。

そういう見方があるとは知らなかった、浅学ですね。しかしスコイかもしれんが僕は遺言を変更するつもりはない。それで

香典を下さつた方々が、仮に何か釈然としないような気分になられたら、香典返しという習慣はもちろん、香典そのものを廃止する事に思いを及ぼされたらよいと思いますが。

二十年ぶりに二十日余り入院した。おかげでシヨロホフの大作「静かなドン」を耽読させてもらった。

吾惟うに、こんな立派な文学や、数々のすばらしい音楽、映画、演劇等々を生んだあの偉大なるロシアは何処へ行ったのだろうか、と

国内戦をやつたり、原子力施設からの放射能のたれ流しをしたり、ご乱業目に余る状態。

学者が惟うには「一度地球をリードするような文明が栄えた地では、その文明が衰亡すると、二度と再び豊かな文明が興隆しない。その地域の人びとは、いつまでも停滞と混乱に苦しむ。」

（栗本慎一郎著『幻想としての文明』）と言う説。

されば我が日本民族は、今その文明とやらの山を、下りかけているのであろうか、まだ登っている途中なのだろうか。

これはオランダのジャーナリストの著書（ウォルフレン著・篠原勝訳）「人間を幸福にしない日本というシステム」に書かれている言葉だが、「日本人は根本的変革が必要だと、たしか



に認めている。にもかゝらずその巾広い合意は実際の変革に結びついていない。これは日本が組織としてきちんと機能していない事を意味している。すなわち日本は組織的な情性におちいつている」のだと言う。

ロシアよりましだと思っていたら、とんでもないことになる。阪神大震災での政府や自治体の対応は全く情性の見本ではなかったか。役人も政治家も規則と縄ばりの中だけでうろうろして、何の創意工夫も、臨機応変も発揮できなかった。天災は規則も縄張りも無視して人間におそいかゝってきているのに。

たゞボランティア活動のみが明日の日本の光であった。

## 此頃

八期生園芸学科 成田 俊二

立春とは名のみ寒さ厳しき今日此頃皆様お元気で暮しの事と存じます。

幼ない頃より日本列島は火の海の上と言う言葉を目の奥深く感じ揺らぐとは故普賢岳噴火、奥尻島、三陸はるか沖地震と相次ぎ関西は大丈夫と聞いていた矢先の出来事、阪神地震の大

災害、テレビで被害状況が報道されるに従って災害の大きさに驚嘆するばかりです。不幸にして亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますと共に未だ行方不明の方々の一日も早く元気な姿を家族の前に見せて下さる様祈ります。

また家屋の倒産焼失された多くの被害者の方々に謹んでお見舞申上げますと共に仮設住宅の速急なる建設を願いつ、地震の恐ろしさに啞然とする此頃、ボランティアで日夜なく懸命に活躍下さる若人達や行政の方々の御苦労と御健勝を祈るのみです。最後に私共高齢者は厄介者にならぬ様足腰を鍛える事を重視し無理なき程度で何か趣味の楽しみを見つけ日々健康管理に十分注意して暮そうと思ふ此頃です。

## 老大OB訪中の旅

九期生文芸学科 鶴房健次郎

秋晴の十月三日特急はるかにて関空着、早速香港に飛ぶ、市内見物した後中国桂林に向う、泊地の桂山大酒店に到着したのは二十時半であった。翌朝漓江下り、芦笛洞等見物をすました我等は雨季末期の雨に充分見物出来ずホテルに引上げる。八九

年に訪問した時は未だ田舎の観光地でのんびりした土地であったが、現在は西洋式の一流ホテルが多く建って昔日より躍進している街々を見ていると中国人は自信持ち国造りに全力をあげている様である。夜半十一時過ぎ中国旅行社の張敏さんが電話して来て五年前の訪問した時のことを話し、子息も七才との事、互いの健康を祝し別れた。今回はゆっくり南画の勉強も出来ず残念であった。広州は丁度昭和三十年代の大阪と同じく工業生産重視する余り公害がひどい状態であった。新聞にも喉や眼の病気が増加しておると報じている、広州の白天鵝賓館は二十八階建ての立派なホテルであった。広州の中山記念館、陳氏書院、鎮海樓等見学する。当市在住の井上源一氏は若さと几帳面で我々の行動日記を正確に記され嬉しい限りであった。香港もあと九百余日で返還される、住民は色々動揺している様子であった。而し腹の太い中国のこと、急激な変化を求めず自然に消化して中国の一市となる事に間違いない。

次に今回の訪中の所感を十七文字に託してみます。

木犀の 薫る街並み 雨静か

秋霖の 瀉江下りや 奇峰濡れ

千峰の低雲垂れて 雨季の明け

雨季明けの 瀉江は満ちて 足速し

何思ふ 孫文の雄姿や 影長し

秋の宵 百万ドルの 灯は静か

香焚きて 祈る老婆や 秋の寺

安庵

最後に同行十七名各位色々御世話になりました。今年も又何処かへ行きましょう。

## 孫の入試

十期生文芸学科 安田 可ね

朝起きると一番水を汲みお十念を唱えつつお茶湯をする孫が高校入試の年で、何処を志望しているか婆が知る由もない尋ねても見ないが心配だけは人一倍しています。広告の裏無地の色紙を切りせつせと鶴を折り神棚にも飛ばしお願いの拍手を打ちお仏壇に舞はせては丁寧に読経しています。お蟬燭の炎が、ゆれば願いが叶うかとも思い隙さえあればせつせと願懸鶴を折っています。赤の紙はあかんなの赤はお芽出たいと因縁をつけつつ去る二月二十六日法要を務めた為福島県より息子が帰っていました処へ入試本人から電話が入りお父様二泊でスキー

に行っても良いと陽気な事お母様にvari二人のやり取り聞くとはなしの振舞見せては居れど心は電話に食込む時は容赦なく刻み今の心配を吹飛す様な朗報を夢に

## 思 いやり

十期生生活学科 富田 政尾

人はどん底の境遇に出会うと真の心がわかる。私は此度の阪神淡路の大震災で人の心のすばらしさに感動した。筆舌に尽し難い悲惨な光影は、テレビを見ても目をおおいたくなるのに、現場ではどんなにかと思う生々しい中で人の心の優しさに、助け合いに強く心を打たれた。罹災者への日本中からのボランティア、外国からの救援活動は迅速で活発であった。また罹災者同士が励まし合いながら、仲よく不自由な生活をされているあたたかい心にも胸を打った。世界中の人の心が集中したこの大震災は、助け合う心で一日一日復旧に前進している。高齢社会の中、お年寄りはどうにか淋しい心細い気持ちになっておられるだろう。

衣食住、子供の教育、健康等、多くの問題があつて、復旧に

苦闘される罹災者の皆様と国民とでこの難関を乗り越えなければならぬ。余震が続く寒さの中、避難所生活は辛い事と思う。でも、一日も早い復興をと行政も大変な努力をされているので、頑張っていたきたいと祈るばかりである。耐震調査をして地震に強い建物の設計が見直されているという。この後復興した震災地は、思いやりの心の強い優しい人と地震に強い立派な大都市となつて、日本中が楽しくなると確信する。

最後に亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りする。

## 日々のよろこび

十期生園芸学科 菊井 元章

「老の身の願いは一つ病なく

枯れ朽つるが如く逝きたし」

この短歌は退公連新聞に東京の女性が投句されたものですが、作者は老人の心情をよく詠んで居られると思います。私達人間は夫々顔かたちがちがうように、心の中も同じと云う人は一人も居ないと思います。けれ共只一つ皆に共通して云えることは、いつまでも健康で倅せて居て最後は安楽なお迎えがあればと願

う思いではないでしょうか。今回の関西大震災では多くの尊い命が奪われました。誠に残念な事であります。マイクに向つた或る女性の方が「家が潰れ家財道具はなくなつたけれど、生命を失なわなかつたのが何より有難いことです」と云われて居たことが大変印象的でした。今私の財布には八千円也のお金がいってあります。八千円とは人の生命のたとえであります。昔は五千円でしたが、今日では人生五十年が八十年に延びました。その八千円も一年一年と消費され、あと千円も残っていないのです。残り少なくなつて心に心細いことです。欲しいもの買うにも胸算用をしたり財布と相談しなければなりません。心配なことです。如何に財布が丈夫であっても、使えばドンドン減つてゆきます。老いとは悲しいものです。残る生命も少いのです。それに病気にでもなればと思うと心配でなりません。どんな栄養を摂つても、どんな頑丈な家に住んでいても、生命は刻々消費されてゆきます。時々刻々減少して行く、生命のなかに現金ではないが、現金同様の価値あるものがありとするならば、心配も不安もなくなり、これさえあればと云う勇氣さえも出てくるものです。その勇氣と希望を与えてくれるものとは何でしょうか。考えてみたいものであります。

「老忘れ命一杯寒椿」 (愚作)

## 水を飲まう

十期生園芸学科 中西 勲

生きるには酸素は最も大切だが次に大切なのは水である。

人はよく飢えは口にしますが渴の方が勝負が早くて怖いのに無関心である。今次震災に於て水は実に大切であることを痛感した。水は人それぞれ体力で多少の差はあるが数日で勝負がつく、人は死に際に水を哀願するが食を呉れとは言わない。そんな大切な水を普段は水位いなんて悔っている悪習慣になつてゐる。注射は殆んどが水であり、薬も水で服用する。しかし水が効いたとは言わず薬が効いたと言ひ水に感謝を全くしない。

体力の弱い老人には肝腎が弱つたら大変なので私はそうならないように次の通り成人一人と一日の水の排出量と摂取量の標準値に自分なりの給水の目安を決めてその量を守つてゐる。

排出量 二、五〇〇 cc

1. 尿 一、五〇〇 cc

2. 呼吸、蒸発 四〇〇 cc

3. 汗大便等 六〇〇 cc

摂取量 二、五〇〇 cc

1. 飲み水 一、三〇〇 cc

2.食物に含む 八五〇cc

3.体組織の分解 三五〇cc

飲み水は概算で1・3ℓ

換算すると約七合余

夏は汗が出るし、冬は大気も乾き室内は暖房で空気が乾燥するので増すように努めている。

どうか皆さん水を十二分に飲んで元気で一日も長く生きつづけましょう。

## 備えあれば憂いなし

十一期生生活学科 高原ふみ子

平成七年一月十七日午前五時四十六分、グラグラグラ・・・

南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏 の数秒間彦根震度5のニュースに誰でも恐怖を感じたと思う。関東大震災発生時は母胎で、22才の結婚時は太平洋戦争で最初に福島県郡山市にB29が襲撃し、海軍士官を夫に持った私は倒れてきた襖を踏み防空壕に駆け込んだ。あの時も航空隊より郡山市は火の海に見えたそうです。終戦50年が経って今度は阪神大震災とは・・・あれからもう

1ヶ月半を過ぎ全国津々浦々より各種団体のボランティアによる衣食住の救援が進められている実態を毎日映像や新聞で知らされ唯々、「ご苦労さま、がんばって下さい」の一語につきるがこの阪神大震災により与えられた教訓を忘れてはならない。「遠い親戚より近くの他人」であった。日常より一人でも多くの良い友達を持ち、話し合い助け合う態度の必要性です。教訓を実行するため近所の親密を計り昼は避難時の道具を整えたり防炎ずきんを手作りしているこの頃です。水の大切さ、電気や瓦斯のありがたさが今更身に覚えた。老大OB皆さんの御健在を希うと共に私達は心から助け合って頑張りましょう。一人では決して生きて行けないのです。天災は又忘れた頃にやってくるから。

## 地震に想う

十一期生陶芸学科 井上 源一

謹んで一瞬の災害に無念の死をなされた、五千余人の犠牲者のご冥福をお祈りし、負傷・家屋倒壊など厳寒期に罹災されました皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

何時の災害時でもいち早く惨状がニュースで克明に報道されます。阪神大震災も連日悲惨な光景を目にいたしました、毎日毎日地獄絵図を見せつけられる思いでした。

世界第一番の耐震構造・免震構造を持つものと信じていた我が国の建築・道路・交通機関・海運までが壊滅的な損傷を受け、完全に倒壊麻痺しました、余りにも酷い惨状に愕然といたしました、また災害後の遅々として進まぬ人命救助・消火活動・救援活動に切歯扼腕し経済大国日本の為政者の無為無策に腹立たしさを感じました、多くの皆さんも同じ思いであつたらうと考えます。

国の災害対策にも鹵莽てなりません、昔は海運次いで鉄道そして自動車の時代となりました、しかし現代は航空輸送の時代ではありませんか、大地震が起こり道路不通橋梁崩壊港湾損壊は小学校の生徒でも判る事です、何故時代に即応した対策が出来ていなかったのでしょうか。日本は島国です大型消防用ヘリコプターなら現場に二十分以内に海水を運ぶ事は可能です、湖沼・貯水ダムも各地にあります被災地に生活用水も直ちに搬入できるはずです。田中長官に冒大な宇宙計画を少し待って貰うなら、各都道府県一機ずつの二十〜三十屯を運ぶ大型ヘリを購入しその基地を設けることは簡単だと思います。消防活動もせず

飛び回るヘリを罹災者の皆さんは国民は憤りを持って見ていたと思います、緊急事態発生と同時に数機の大型ヘリが消火活動をしていたらと考えるのは私だけでないと思います。

日本の技術を持ってすれば三十屯位の消防ヘリの開発は簡単至極だと思います、空中で待空して受水補給・消火もできるでしょう、一時間で二〜三往復する消火ヘリは必ず初期効果を上げるでしょう、現場にも到達すらできず水の出ない消防車より、如何程良いかは疑問の余地もありません。地震に限らず他の災害にも有効でしょう、被災地にも大型ヘリの着陸地は運動場・広場など簡単に指定できるでしょう、勿論色々の問題はありますが、素人の『盲人の巨象を手で知る』ようなとお笑いになるかも知れませんが島国日本の空からの防災対策として一考を願うものです。

武村さん田中さんから話がありましたら是非一番に要求に応じてあげて下さいお国のためですお願いします。

痴呆老人より。



## 関西大震災

十一期生園芸学科 二本 啓三

今年こそよい年でありますようにと思っておりましたのに、早々より各地に大雪が降り、又々関西阪神方面の大地震、今までにない震度七と言う、あのすざましい大地震、一瞬の間にあるすばらしい神戸が灰燼と化しました。今さら乍ら自然の力の恐しさをまざまざ思い知らされました。

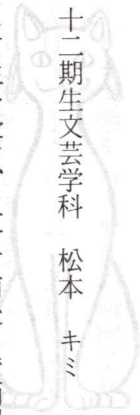
さて、これからの復興が大変です、日本中の人たちが救援にかけつけるのは勿論の事、世界各地からのボランティア、救済物資とぞくぞくと運びこまれ人情の厚さをしみじみ感じられました。

亡くなられた方々ほんとうにお気の毒です。又、町が元どおりになりますのは日数もかゝりませんが、一日も早く立ち直られますよう祈ります。大悪起れば大善来ると申されております。

もう直ぐ春も近づいております。どうか被災されました方々御体を大切に復興にはげんで下さい。二一世紀までもう六年、どうか、すばらしい平和な世界がおとづれますよう祈っております。

## 「幸せ」

十二期生文芸学科 松本 キミ



大正五年、農家の長女として生を受け、二十才前後まで両親の農業を手伝っていた。年頃に成ると縁談が来る。農家へ嫁ぐ気はなく両親の進めで京都の商家に嫁いだ。紙製品と結納の商売。しかし戦争がはげしくなり、幸福もつかの間。商売もむづかしく出来なくなり、主人は軍属として志願し東京の気象観測所へ勤務した。私は長男一才と杉並区のアパートに住居した。空襲の毎日であった。私達の若い時は結婚して芽の出る時に先端を折られたようなものである。しかしもっと不幸な方が沢山おられる。主人の、戦死に逢われた方もいる。でも老後は私も健康で幸福である。俳句、卓球、茶道、「ほがらか会」に入れて頂いて毎日楽しい日を過している。十二期生「大樹の会」の年に二、三度の会合で楽しく話合のが又一つ楽しみです。もう三名の方をお送りました。「一日喜び」の世の中。身体を大切にがんばります。

床の間の万両の白輝けり

大正の顔にうなずき初鏡

コンサート川面にゆらぐ初時雨

さざ波の打ちよす土手に菖蒲の芽

利休忌の表点前杓光る

齢なしと誘はれ入る踊りの輪

心で 舩挿の張りめぐりある湖上かな

## 阪神大震災の教訓

十二期生生活学科 生田 薫

今回の大震災は阪神、淡路地区に大きな災害をもたらしました。全壊家屋四万戸、避難者三十二万人、死者五千余人、負傷者、破壊家屋は数知れず、断水、停電の被害は百万戸に及びました。妹の住んでいる芦屋市も全壊家屋三千戸、死者四百余人断水、停電の被害は市内全戸、八千人が避難生活という惨状で全国各地から毎日沢山のボランティアの人が救援に来ておられるようです。先日、妹から「近江八幡市の腕章をつけて給水活動をしている青年を見て心打たれました、みんな元気で頑張っているから」と電話をして来ました。私達はこの災害を通して多くの深い感銘と尊い教訓を得ました。

○「とても信じられません」が事実です。被災者達は少ない食糧の分配にも整然と列んで決して列を崩すことはありません」是は外人記者から自国への感動的な報道です。

○激しい余震の続く中で何千人もの人が見知らぬ他人に尊い命を倒壊家屋の下から救助されています。

○一つの握り飯を他人同士が仲よく分け合って食べている光景。○内外からの支援者と共に苦難に耐えて頑張る被災地の人々。

此所には国境もなく他人もありません。みんな青い惑星の仲間たちでした。二十一世紀は物や銭ではなく心の時代だといわれます。その大切な心とは何か。尊い命を亡くされた人達が命を代償に遣された教訓を私達は心に刻んで生涯決して忘れることはないでしょう。

## 充たされる時

十二期生生活学科 金子 美紀

卒業後近くのカルチャーセンターで、書道講座を受けて二年余りが経ちました。老大の仲間と同じ様に、この場でも同じ目的で集まった者同志の心のふれあいに変りありません。



又新しい出逢いのはじまりでした。今では週一回の受講日が待遠しく、楽しく仲間入りさせて頂いております。月終りの成績発表を見る緊張の瞬時は、まるで小学生の頃に戻った様な感動を覚えます。これも老大で学んだ事が基礎に、学ぶ姿勢の尊さを再確認でき充実した時をすごさせていただいております。理想を失うとき始めて老い、情熱を失うとき心が萎える。これこそ吾が身への警鐘と受け止め、平凡ながら家族や友人に感謝することを忘れないで、肩を張らずに学習をつづけ、充たされた時を大切に、すごしていくことを念じています。

### 一日も早い復興を願って

十二期生生活学科 石部八重子

阪神大震災の連日放映で崩壊、火災の悲惨な状況が目には焼き付いて被災に遭れた不自由な生活を余儀なくされている方々に心から御見舞い申し上げると共にボランティアの皆さんの行動に感動しました。

私の家族は別居生活で息子達は東京にいます。早朝の震災報道を見て吃驚したのでしょう、夕方安否の電話が入りました。

早速受話器を取ったが不通、混線、混線とやっと今になったとマヒの状況を話しました。そうだ幼い頃から耳にした諺「遠い親戚より近くの他人」と昔から伝わり、広く親しまれている教訓昔の人の知恵に感銘し此の度震災で一層実感を深めました。我が家は新興住宅で回りの方々は年齢が若くつい挨拶程度で過して来ましたが、震災は教えて呉れました。人間のふれ合いの大切さ、人間の助け合いの大切さを地域の交流の大切さを学びました。

高齢化が叫ばれている昨今、最大の犠牲者を出した痛ましい惨事となった。私の目にも写りました。死亡率の中にも60%の高齢者の多い事に胸を痛めました。私もその一員ですが、若い人達には如何受け止められたでしょうか？

与えられた生命を大切に健康に各々留意し余生健やかに楽しい人生を送りたいと思います。

日を追うごとに大震災の被害の大きさに驚くと共に今後の復興に立ちはだかる多くの難問が被災者の方々の気持ちをより暗くさせているのではないのでしょうか、一日も早い復興をお祈願します。

尊い生命を亡くされた皆さんのご冥福をお祈り申し上げます。逆境に立ち向う勇気を罹災者の皆さんに頑張ってノとエール

を送り続ける毎日です。

## 「篠田の遠火」の様子を作詩

### 江州音頭で

十三期生園芸学科 久郷泰次郎

毎年祭り行事として各新聞に報道される。県無形文化財「篠田の煙火」を、上田町老人会文化部の有志が作詩され、江州音頭で踊り大変好評、このような老人会活動もよいと思いい作詩の一例を紹介します。

「篠田の煙火」 作詩者 久郷良三氏

アーさては此の場の皆様エ、サテ今席と申するは、上田老人会の主催にイテ、慰安旅行を催され、数に足らない私も、来いよ来たれのお招きは、身に取りましていかばかり、私未熟じゃあるけれど、松の緑は末永く、七重のひさを八重に折り、『高席ながら厚く御礼申します。』踊り手から掛声（ヨイトヨヤマカドッコイサノセ）この掛声は爾後省略。アー御礼が済んだら皆様へ、こゝに何う演目は、篠田の煙火と題したる、郷土自慢の一席を、これじゃからとて皆様エ、好きで覚えた近江節、事

や細やにや参らねエド、『時間の来る迄公演奉るわいな。（掛

声）アーレンヤ、レレレンレン、レンレンレン、レレレ

ン、レレンヤ、レレレンレレレン、レンレレレンレレンレレ

ン。ヤーそもそもエ、初段の筆始め、処は何処よと調べたら、

さても滋賀県八幡市の、『金田の荘は上田町。（掛声）アー

元をただせば宇多源氏、近江の国の守護職の、佐々木氏の血を

受けし、上田を名乗るコレ久郷が、敬神崇祖の念厚く、寄進な

したお社は、篠田の郷に名も高き、『是れぞ上田大明神。（掛

声）アー二百余年のその昔、大旱魃が相続き、飢えと乾きに

人は泣く、此の時村人相よりて、明神様にと願を掛け、『雨乞

祭りをもようせり。（掛声）アー三七二十と一日の、日出度

い満願其の日には、神徳ここに如実にて、一天俄かにかき曇り、

大夕立の襲来に、ものみな生氣を取り戻し、秋には稲穂も垂れ

下がり、『神に感謝を捧げたり。（掛声）アー此の感激に人

々は、先祖代々伝わりし、硝石火薬を原料に、独特煙火を考案

なし、仕附煙火と命名し、『これを社頭に奉納せり、（掛声）

アー爾来二百と有余年、年々五月はその四日、宵宮祭りの亥の

刻に、観衆固唾を呑むうちに、轟音一発合図にて、綱火は火を

吹き人々の、『頭上駆け抜け突進す。（掛声）アー導火線に

と点火され、雷玉轟音又轟、篠田の森を揺るがせて、舞火は火

を撤き旋回する、乱玉噴射を伴いて、色とりどりに炸裂し、

『宮は暫し火の饗宴。(掛声) アーやがて火の粉も散り失せ

て、煙霧も治まり中空に、是れぞ何にか例うべき、螢火にもさ

も似たる、藤色図柄の大絵巻、ここに文化の花開く、是れぞ我

等が世に誇る、無形文化に名高き、日の本一の大煙火、『唯一

無双の仕付け煙火。(掛声) アー是れを後世に伝うべく、皆

々様の御指導を乞い願ひ、郷土自慢の一曲も、丁度時間となり

ました、『是れにて止めおく次第なり。(掛声)』

## 趣味について

十三期生陶芸学科 中島 英三

七十四才まで会社の経理を担当していたが平成二年六月に退職。それから趣味の世界に入った。現在、陶芸と俳句の講座に入会している。俳句は龍鼻の会に入っている、龍鼻という名称は

「龍は架空の動物で得体が知れない中国では聖なるもののように日本でも虚にして何かにつけて上昇への期待感をもたらす象徴的な動物である。」

俳句初心者には一匹の龍ほどの完成作品を望むべくもないが將來名実ともに一匹の昇天する龍としての成長を期待している。

現在の心情は雲の間から見える「龍の鼻」のような存在意識で

ある。將來が期待できる反面、雲間から霧散してしまふかもしれない、それはまた画家が画いた龍の鼻に一種の滑稽感が漂っ

ているさまに似ている」

日本の豊かな四季の情緒、また旅行で見た感動、人生折々に

感じた事象を十七文字に詠む楽しさを何時までも続けたい。

地蔵さん 拝む仕種の寒雀

早春の街に高らか槌の音

梅林の香りの中に老夫婦

琴の音にのって静かに流し雛

## 心さわやかな若者達

十三期生園芸学科 深尾 源次

一月十七日の阪神大震災は空前の大惨事となった。テレビが写しだす凄惨な状況に思わず息をのみ先ず阪神地区に居住する身内、知人、教え子の安否を気づかった。

災害があつて、はじめて自分のきずなを考えるものだと思つた。

しかし、見舞い電話や義援金の協力にとどまった私達とちがい、若者は全国から続々とボランティアとしてかけつけた。医師や看護婦をはじめとする職業や専門家のボランティアも多い。自治体に登録されているだけでも一万五千人にのぼる。登録しないボランティアは数知れないという。

そして、その活動は手助けなどの応急的なものから、被災者とともに復興にとりくんでいく腰を据えたものになろうとしている。

「じつとしていられなくて、自分が出れることをしにきました。」人を助けることは気分いいですね。来てよかったです。一生忘れられない喜びです。」と、そのさわやかな言動やよしである。

「近頃の若者は……」の言葉はもう死語にしたいと思う。災害は忘れた頃にやってくる。五千余人の犠牲者たちがそうだったように、明日がくることを少しも疑わずにいつものように眠りにつき、翌朝突然命をおとすことになるかもしれない。犠牲者の魂の重みを忘れずに、一日一日を生をうけている喜びに感謝して生きていこうと思う。

## 福祉と行政

十三期生文芸学科 古川 理信

最近では各市町村で福祉計画や〇〇プラン等数多くの計画が発表されているがこの計画を見てもこれでわが国の福祉について安心が出来るとは思えない。福祉政策は一人で出来るものでなく、幼児から高齢者に至るまで広範囲の年齢層を対象にしているし、また生活を形成している家庭や家族構成まで関係してくることは論をまたないと思います。

これ等の複雑多岐にわたる問題を解決するには福祉教育を第一歩として進めなければ基本的な問題に近づけないと考えます。

## 戦後五十年 印度支那に憶う

十四期生園芸学科 小泉雅二良

昭和十九年十一月新京に駐留していた関東軍より暁部隊（陸軍船舶輸送司令部）に転属を命ぜられ、広島島の宇品を経て南方向け赴任の途については年末十二月であった。当時の戦況か

ら緊張の連続であった海路を中国大陸の接岸航行で香港にやっとの思いで着いた。

そこからは輸送機に便乗させて貰ってシンガポールを経て、一転インドシナ（ベトナム）のサイゴン（ホーチミン）へ辿りついたのは翌二十年一月末であったと思う。

しかし任地サイゴンは苛酷な戦況とは裏腹に、空はあくまで青く、熱帯の太陽はさんさんと輝き、敵の空襲とてなく、割合緊迫感のない日々であった。

熱帯の日の恵みをうけて、食物は極めて潤沢で主食を初め諸物資の調達には苦労はなかった。

街は流石に元仏領であったためか、東洋的と云うよりも、華かな欧風ムードを醸し出しているフランス色の豊かな街の空気が感じられる。

亭々とした緑濃い熱帯の大樹が広い芝生の植え込みの間に林立して強い日光を防いでいてくれる。

その中に白い瀟洒な家が、広い道路をへだてて点在して住宅街をかたちづくっている風景は正にフランスの中都市の高級住宅街を彷彿させる一幅の絵である。

公園の通りには花壇があり、原色の色あざやかな花が咲きみだれ、通りのつきあたりの教会では荘厳なミュージックを奏で

ている。

これでは我々の着ている軍服が何かそぐわぬ雰囲気を感じさせられる街であった。

このサイゴンの街つゞきのシヨロンは南印度支那経済の中心地と云える。華僑そのものの街である。南国特有の下駄ばきハウスがずっと続いて賑やかな商店街を形成している。歩く人達も、殆んどが中国系の人達のようなようだった。

われわれも夜の無聊をいやすために、よく私服に着換えて、この街を徘徊したものである。

治安は極めてよく、星ふる南国の夜店をひやかし、ビヤホールでビールをあびるのが誠に楽しい日課となっていた。

だが今にして考えれば、当時の我国の進駐も、その支配力はほんの表面的な現象であって、経済力の大半は華僑の力によっていたと云うのが実感であったと云える。

主食の米は勿論、全ての物資の流通は、仏領以前より、華僑の手に握られていたのではなからうか。

印度支那のどんな田舎の村、少く共二〇〇〜三〇〇人位の村落ならば必ず彼等は商人として、その村に同化して、営業をしているのをみて、少なからず感服したものである。

その隣国カンボジア、悠久の大河メコンの恵みを充分うけて、

人々は生活に何不自由のない「カテ」を得ていた国である。首都プノンペンを訪れたとき、その人々の面影に何かしらゆったりとした風情が感じられ、我々が「祖の地」をたづねているかの如き心の安らぎを感じたものである。

メコンの河添いに建つ寺院風の王宮から、プロムナードを歩くこと十数分に、街の中心をなすマーケットがある。

円形のドーム状のマーケットを中心に放射線状に道が通じているが、中心はやはり華僑風の建物であることに変りは無い。

万事が南国らしくゆったりとしていそぐことがない。

しかしここには「アンコールワットの遺跡」がある。

幾世紀を遡るあの時代に、あれだけの規模で、あれだけの技術を駆使してつくり上げられた壮大な建造物は、まさしく「クメール文明の象徴」でなくてなんなのであろうか。

民族の自尊を端的に表現していたものと思われる。

そしてそれから五十年、あのはげしいイデオロギーの争いがこの半島を襲い、太平洋戦争でも無傷であった平和な土地が抜本から覆す戦乱の巷と化し、幾百万と云はれる人命が奪はれ、幾十万と云はれるポートピアブルをうみ出したことはたゞ痛根の極みと云うより表現の仕様が無い。心より犠牲となられた方方のご冥福を祈るのみである。

日本が戦いに敗れて約一年、失意のうちに本土への引揚げを待つわれわれに、その間も同じ東洋の英雄として接してくれたあの心やさしい心根の人達はどうしても忘れることが出来ぬ。イデオロギーが国を左右する恐しさには冷汗三斗の想いがする。

しかし最近数年間の両国の事情が、報道されるのを聞くにつけ、混乱の時期も、時の流れと云うか、世界の情勢の変化に伴ってと云うか、ベトナムでは「ドイモイ体勢」が軌道にのり、経済自由化の指導も、順調に流れているやに感じられ、カンボジャに於ても、「ポルポト」の抵抗も逐次排除され、充分とは云えないまでも、ムードとしては落着きを取り戻されつゝあるやに感じられる。

幾十年の戦乱の傷はそう思うほどには回復してゆかぬまでも、アジア各国の協力が得られつゝあるやに思われ、少し心安らぐ気持になる。

どうか両国の為政者の人達よ、往年の自尊の民族の精神に立ち戻って、再び心ゆたかな生活の社会が形成されるよう尽力あることを希うものである。

そして私も心軽く再び今度は一私人として、かの地を訪れる日の出来ることを熱望する。

## 歌句会を

十五期生文芸学科 松岡 纂

滋賀県の老人大学校設立の目的は、少々長いのですが引用しますと「高齢者が新しい知識と教養を身につけるための学習機会を提供し、社会参加を促すとともに、地域における高齢者福祉推進のリーダーを養成する目的で……開設しております。

……」  
必修は全学科同時に学習しましたが、選択はそれぞれの学科毎にそれぞれの講師先生より受けました。老人大学の目的にあります、地域における高齢者福祉推進のリーダーが養成されたとしますと、文芸学科としましては、受けました学習をどのようにして地域にお伝えすればよいでしょうか。どのようにしてお返しすればよいのでしょうか。非才は問わないにしましても、その方法はどうかすればよいのでしょうか。迷っております。それぞれの卒業学科は、それぞれの方法で地域への福祉推進ができてますでしょうか、文芸学科としましては果してどのような方法が考えられますでしょうか。

思いつきですが、一つの提案があります。どこかの公民館をお借りして、固定か廻り持ちかで句会をしましたら如何かと考

えます。偶数期生による短歌組と、奇数期生による俳句組とにそうしますと縦の親睦と、横の地域福祉の推進が同時に行えます。そして老大の目的にも沿え、一石三鳥と行かないものでしょうか。一つの提案を試みました。どなたか、どうぞ御賛同下さい。

## レイカ大終えて想うこと

十五期生文芸学科 岩崎 進

私は平成四年十月十五期生として老大に入学、平成六年九月卒業しました。初めの一年間は、老人大学で授業環境も悪く、その日によって教室も変わる間借授業でした。二年目に入り、県立長寿社会福祉センターという立派な施設が完成し、後の一年間は、本当に恵まれた環境で、気持よく勉強ができました。書道については、三原先生に教えて頂きましたが、宿題が多く、又か又かとうんざりしたものでしたが、卒業した現在は、在学時が大変懐かしく思われ、先生に感謝しております。現在も書道と俳句は続けてはおりますが、思いと現実がマッチせず悔しく思う今日此頃です。もう一つの課題は卒業時の紀要に掲載し

ましたテーマ「自分史の必要性」ですが、現在、資料を収集し徐々に進んではおりますが、何んとか完成したく頑張りたいと思います。これだけは人間として生れ、一回切りの生涯の記録として、自分が如何にどう生きてきたかという生涯の総括であり、回顧でもありますのでせめてもの家族、子、孫には是非伝えたいと思います。最後になりましたが今後共先輩諸兄弟のご指導をよろしくお願い致します。

### 俳句を愉しむ

十五期生文学学科 坂本千恵子

美しい響を持った、理想郷レイカディア大学文学学科十五期生して、卒業証書をいたゞき六ヶ月がたちました。

在学中学習する事になった、俳句は、私には初めての事でしたが、二年間の歩みのおかげで、俳句に対する心を知りました。

自然を詠み、生活（人生）を唄い、自然を豊かに拾いあげ深く奥することの愉しみを教えられました。若い頃は自己流にて、

詩人石川啄木に憧憬し、詩を作った思い出があります。

俳句は十七文字の中に、季語を一つ取り入れ、見える世界そ

れは、自然（花鳥風月）、見えない世界人間（喜怒哀楽）季節感、叙情的、人世の哀歓を詩い上げる喜びを知りました。懐しい場所に行き第二の青春を味いながら、俳句に取りくみ趣味の一端として楽しむつもりで御座います。

人生は生涯かけて、自己学習であると思います。

好きな俳句

桜貝海の蓮華と拾ひけり

大橋 敦子

雨を聴き山の音聴き冬の宿

稲畑 汀子

沈む心に鞭うって

十五期生生活学科 岡田 静枝

心臓疾患で入院している夫の介護のため、病院に行くことが多い昨今、何れの病室でも点滴を吊るして伏せる患者さんがいて、ナースは忙がしく廊下を行き交う。また老妻の押す車椅子に、うなだれて座っている姿を見るにつけ、どうして……、と不安や悲しみに沈み勝ちになる。涙を流し悔やんばかりでは



前進がない。光明の一灯を見付けださねばと、愛犬と万歩計を頼りに、己れに鞭打ち励まし続けながら歩む最近である。

幸にも健康に恵まれ、地域友愛クラブの一員に入れて頂いたのを機会に一生を通じ学んだ経験を有意義に生かして、独居老人や、寝たきり生活の方々の家庭訪問を通じて、心待ちに私を迎え喜んで下さる方のお役に少しでも立てればと、自問自答しつつ、奮起したり、またこれで本当に良いのかしらと、挫けそうになる心の動揺を叱咤し続けているところです。

月日の流れは時を待たず、明日は我が身「看とられるより看とる倅」に感謝し、高齢化社会の進むなか、自分なりの趣味を生かしつつ、健康に留意して精一杯頑張って、社会の一員として恥ずることなく、常に心は青春で美しく老いたいと念じています。

レイカディア大学で学んだお蔭で、素晴らしい老後への友を得ることが出来たことに感謝し喜びをかみしめて居ります。



雑感

十二期生園芸学科 図司 恒雄

この一年間に、細川、羽田、村山の三内閣が交替した、いづれの内閣も政官財の癒着に端を発した、汚職、不祥事の再発防止を目的とし、政治・行政・経済改革の断行を公約してまいりました。然し、いづれも改革すべき本旨を外れた誤魔化しに終り、政治改革にあつては公職選挙法の改正のみに終り、行政改革では、その枝葉のことと思われる特殊法人の統廃合さえ緒に就かず、また経済改革においても見るべき成果はなく、早やくも財界の一部では、政治献金の妥当性を公言している状況であります。このような各界の指導者は、一体何を考えているのか、この人達に何を信じてよいのかと、疑わざるを得ない現実は、空しいばかりです。

私ども高齢者にとって、最も関係深い政策のひとつとして、さきに、大蔵・厚生・自治の三大臣合意による、新ゴールドプ

ランなるものが公表されました。ところが前述の改革に対する公約が曖昧な結末となったのと同様に、如何に立派で時機を得た計画であっても、竜頭蛇尾に終るようでは、困るのは我々高齢者であります。

今年には選挙の年と云われています。首長をはじめ地方議員、または国会議員の選挙が行われます。そこでこの人達の口先だけの選挙用公約に惑わされず、誠実に政治公約をしていると信頼できる人、所謂政治屋でなく、真の政治家を選ぶためのよい機会であります。為政者の選択にあたり、新ゴールドプランに勝るとも劣らぬ市民的権利を、高齢者の手に収めるために、お互が悔のない選挙に臨みたいと思います。

人間終生青春なり

十五期生文芸学科 寺田 幸夫

我が国では現在高齢社会に入ったと言はれるけれども、高齢者は自ら「自分は老いた」と思つてはならない。何故ならば、老いたと思えば老化がより一層早く進むからである。

人間は年を取っても花を見れば「綺麗だナ」と思つたり、

異性を見れば「美しい人だナ」と感じれば、精神的に若返り肉体的にも若さが保てる様になるであろうと思う。

精神的に若返れば色々な事を考える事が出来ると思ひ、私は常に新聞の政治面・経済面を熟読し分析する事を楽しみにしている。例えば今回の兵庫県南部地震により色々な事が露呈されたが、これも過去の政治がこれよかつたのかと思うのだ。

日本は経済大国と言はれているが、若し日本が一企業であれば己に倒産している。政府は度々と国債を發行しているがこれを解消しない限り正常な国家とは言えまい。政府は此の負債を消す為に英断を持ち次の事を行しなければならぬと思う。

一、権限を地方に委譲し小さな政府に衣替えをすること。  
一、高級官僚の温床である特殊法人を全廃すること。  
一、自衛隊の組織を縮少し大中に経費を削減すること。  
企業が英知を出し減量経営に努力している現在、政府も国民の生命財産を守る責任がある以上骨肉を削るべきである。

## 寒中の一こま

藤東支稿

九期生文芸学科 田井中元一

毎年秋の取入れが終ると、翌年に使用する育苗土作りの土を運び（近くの畑まで運んで凍らせておく）冬の寒い内の仕事として、天氣の良い日に納屋の軒下で乾かして、土作りをする事になっている。

各家庭の都合で私の様な手間のいる事をせずに、農協とか、肥料屋より育苗土を購入される方もあるが、私は田土を取り入れて、育苗土を作っている。

この土に肥料とか、酸土調整をするため、（サンドセット）を混入して用土を確保、籽種の播種するまでの、諸々の仕事をすることが、体力保持の一助でもあり楽しみでもある。

百姓をすることはとても楽しい。相手が大地であり、喋らない、文句を云はない、何をして怒らない、太陽と水と自然のお陰で作物が生れる、尊いものが授けて下さる。

私一人が百姓をしている訳ではない一部の手助け程度をしている。

天氣の良い日には近所の方に誘われて、ゲートボール、グラウンドゴルフ等に参加して、笑いを求め世間話に交わり見聞を拡める様に心掛けて、日々を送っている。只今の処、忘れものはよくするが呆てもいらないと自分では思っている。忘れともないと心にしていることは、感謝の日暮しだけは、続けたいもので

す。...

### 生き甲斐のある人生

十二期生園芸学科 備前 龍三

六十六才で厳しい産業界を勇退して「ホッ」として気付いたとき、これからの人生を悔いのないように生きよう、「健かであれあいのある人生を」と求めている矢先、老人大学校の入校の機会を与えられました。

二年間の勉学では数々の知識を得ることができましたが、私の最大の喜びは、これからの人生は「社会の為、人の為奉仕を惜しまない」ことを教えてもらったことでした。それからは、「共に健かに生きよう」の友情のもと多くの親しい友人と日常の生活や生涯スポーツの間に「奉仕の精神を忘れず」幸せなふれあいの人生を過しております。

### 分会の動き

十三期生園芸学科 矢嶋 昇治

今まで三十名を越える会員を一人で世話してきて下さっていたが昨年前任者の肝入りで初めて能登川分会の総会が開かれました。

学区毎に世話役が選出されて組織を作り、会費や活動もきまりました。お蔭で本年は何事も役員会で相談ができ、会費の徴収、配布、依頼等も分担し楽に運べました。

今年の総会は物故者の黙禱、同窓会憲章の朗読、事業報告、会計報告、連絡事項等のもと懇親会に入りました、皆さんのご協力で大変楽しい一時が過ぎました。今後は分会で何か新しい方向づけができれば親睦も深まり、生きがいも高まり、更に発展するだろうと考えています。

### 生き甲斐を求めて

十五期生スポレク科 萱原 登

四十年にわたる長い間勤めた職場を退職し更に十年間第二の

職場も卒業しました。

そのころになると隠居気分でのんびりとしてはと思ったが、昨今世の中では高齢化社会とか、生涯学習時代とも云われているのでまだまだ頑張ろうと、第三の職を求め、その上地域の盆栽同好会や菊花クラブに入会し、更に生涯学習をめざして老大に入学し、生き甲斐のある毎日を送って来ました。幸いにも健康にめぐまれ二年間良く学び、ふれ合う中で友情も深まり新しい多くの友を得ることが出来ました。友を多く持つことは長寿の秘訣の一つであると云われております。

これからは老大二年間の学習の成果を今後地域社会のため、ボランティア活動を通じて生き甲斐のある人生を送りたいと日々頑張っております。

## 地域活動の実感

十三期生

板岡久右エ門

憧れのレイカディア大学を卒業して早や二年余りの歳月が流れ地域社会のリーダーとして少しでも役立ちたい思いで私なりに取組んで来ました。老人会、戦没者遺族会、社寺の神主や総

代、各種趣味の会或は今最大の関心事となっている「びわこ空港」問題にも携わりみなさんと真剣に取組んでいるところでもあります。内容はそれぞれ違いますが多勢の人の頂点にあって責任あるリーダーシップを取る事が如何にむつかしいかを実感している。例えば老人会と言っても、二十才位の年齢差がある人の集団でもの考え方や価値観等が自ずと違う中でそれぞれが喜びや楽しみを感じ充実した日々がおくれるかどうか頭を使うところである。

ともあれこれからも皆さんのお力添えを得ながら前向きに取組んでいきたいと願っておりますが、私の希望としては湖東支部としての事業活動の中で、これらの地域活動を更に充実したものにするために、我々の中で先進地の活動状況や町づくり、組織運営等について研修する機会を、年に何回かもってその成果を地域の活動に活かしていきたいと願っております。どうかこれが実現に努力していただくことを切望してむすびとします。

## 陶芸を楽しむ

十四期生陶芸学科 岡田 弥彦

滋賀県レイカディア大学に学び多くの先生方に充実した内容で教えて頂いた事を感謝している。

特に陶芸を学んだお蔭で、今も月に二回碧水荘で作陶を続けているが、今の作品は学校で先生の指導に従って、目的を持って作陶に励んだ頃の、出来栄の方がはるかに良かったことに気がつき最近では茶陶、特に茶碗にしぼり代表的な、茶碗の写真を手本に作陶することにした。形は曲がりなりにも、似た様なものは出来るが、色合いとなるとそうはいかない、今後も手の動く間は試行錯誤を重ねながら、努力していきたいと思っている。

新聞紙上で福田元首相の「もったいない」運動の勧めの中で地球上の資源を今までのように使い荒らし、棄て去ってはならないことを説かれている。

全国的な大量生産による、陶土の不足も心配されている中で世界でたった一つこの思いで、何とか続けたいものである。

## 第三四回全国発明工夫コンクール

に於いて受賞した感想文

八期生文芸学科 小西 康三

戦時中の事ですが、私は徴用と言う令状で呉の海兵団へ入りました。軍需工場で作業をするのだと思って居ましたがそうでは無く、水兵の訓練ばかりであり、私が背が低いので上官より随分苛められ、尚、長い木の棒で頭を沢山殴られました。この時以来私は背が低いだけでこれ程苦勞するのであれば、障害者の人は随分苦勞なさるだろうと、思い続けて暮らしました。何とか私なりに細やかな事で障害者の助けになる物を創りたい一心がやっと少しばかり実りまして、「繰り出しの力が増強出来る車椅子の装置」が受賞の対象となり、此の度の榮譽に浴する事に成りました、感激致して居ります。

お猿が南瓜を抱えて大屋根で遊んで居る有り様の田舎者の私如きが、科学の先駆者らしい方々と同席し、常陸宮正仁親王殿下の御臨席を近くに仰ぎ、科学技術庁長官殿・特許庁長官殿・発明協会会長殿・日本放送協会会長殿・日本商工会議所会頭殿・弁理士会会長殿始め、十数名の地位のある役職の方々がご参列の中に於いて、表彰をお受け出来た事は感慨無量であります。

これを機会に今後においても体の続く限り、何かにお役に沿うことが出来ればと考えております。現在、足の障害者が単独で安全に使用が出来る器具、「車椅子への乗り降り装置・用便装置・入浴装置」の三装置を創りつつありますが、此れも是非障害者に喜んで頂けるよう進めております。

## 古文書に取り組んで

十五期生

大幡 圓融

友人に誇られるままに古文書入門講座に参加しました。

教材は極初歩的なものと言われていましたが、自分にとって初めての出会いで一行中判読出来そうな文字が五字でした。

幸にも隣席の方に「この字は、この字のくずしで、こう読むのですよ」と、教えていただき、どうにか十行程判読出来たものの意味はサッパリわかりからずです。講議を聞いて、文書の背景が理解出来てようやく文意をつかむことが出来ました。

日本の文字が、こんなに多く変体され、その上読み方も変化する、使い方も異なるのに驚きました。

江戸時代の人達の文字の美しさもさることながら、よくもこ

んなに変体仮名を使い、くずし字を自由自在に使用し筆で書いたものだと感心しました。

何か自分の生きがいを求める趣味を身につけてはと進められた古文書も、今のところ生きがいより苦しみの種です。

## 諺

十五期生

塚本 悌一

「人界は七苦八難」「一寸先は闇」諺は具体的で、しかも簡潔に記憶しやすいように口調よくまとめられている。今でも傾聴に値し、必ず役立つと思います。

阪神大震災幾百年に一回とも幾千年に一回とも云われている、地層の変動・・・活断層とは恐ろしいものである。

しかし四季は巡り必ずやってくる、「春」・・・「世は七下がり七上がり」「歌声の聞える町」「心の休まるまち」が復興の槌音と共に訪れることを信じます。

「身を捨ててこそ浮ぶ瀬もあれ」「咽元過ぎれば熱さを忘れる」では困りますが「浮世は心次第」です。「百聞は一見に如かず」でもありませんが、西宮市へ三回、特に芦屋市の被災地に

は町老ク連の会長として民生児童委員の総務さんとミネラルウォーター一千本他を、PTAの若い役員さんの暖かいご配慮で罹災された老人を対象に宅配方式で慰問しました。・・・二階建の豪邸が一瞬にして平屋建に変容している惨状を間のあたりにして地震の恐ろしさを痛感した次第です。「目で見て口で言え」自分の目で見て間違ったことを云うなの、譬でしょう、地震の際も種々の流言飛語が巷に囁かれたようです。

老人大学に入学し、レイカディア大学を最初に卒業した、会員約二千人の町老人クラブ連合会長「瘦せ馬に鞭を打ち」努力しか能の無い人間です、先輩各位のご指導、ご支援ご協力をお願いする次第です。

「我れを非として当う者は吾が師なり」  
「粒々辛苦」を座右の銘として頑張るのみ。

## ふるさとの味。

十四期生園芸学科 青山 太郎

時代とともに大きく変化しました。煙にむせながらご飯を炊いていたのは、そんな遠い昔のことではありません。その頃の

田舎料理はお粗末で煮る料理が殆どでした。最近ではグルメブームとやらで立派な献立になりました。いろいろ問題があります。真剣に食生活を反省しています。

土に生きる私たちは幸福です。自然の恵みをいっぱいけて育った野菜が手近にあってこの野の幸山の幸を上手に活用しているでしょうか。

人生の大半を過ごした今日、

◎我等人生七十から。

◎老大で教わった長寿の心得。

◎ガンにかからないための食生活。

## 私の生きかた

十五期生生活学科 山本 慶子

暖かい春を待ちかねるように、いろんな花が、待ちかまえている。四月八日は積尊の誕生日、七歩あゆまれて「天上天下唯我独尊」と、宣言されたという。独尊とは、独りにして尊し、ということ、自分は偉いのだと威張ることではない。私たちが、頭がよいか、財産があるとか、何か条件をつけなければ、



自分のいのちを喜べないが、いのちそのものは、みんな賜わりたいのちであり、無条件に尊い。いのちは、みな平等で、絶対的ないのちを賜わっている。

今日一日、仏の働きの中に包まれて、不思議にも生かされて生きる因縁を噛みしめたく思う。

### ボランティアに思う

十五期生

桜井 静枝

私は数年前よりボランティアの一員として努めています。

活動としては、二十余名の者が家庭で布や毛糸を使っていろんな物を作り販売して、その代金を身障者の施設や、福祉協会に、寄附してお役に立たせてもらっています。

レिकाディア大学で先生から幅広いボランティア活動の、お話を皆さんの活動の実状をお聞きして、私のボランティアに対する考えも変り今後はもっと積極的にやらねばと、思っていた矢先、阪神地方を襲った大震災で数多く人が犠牲になられ、お気毒な事でした。早速会より義援金を送らせて頂きました。被災地でボランティア活動をして下さる人々の姿をテレビで見せても

らうたび心をうたれ、ボランティアの重要さを一層強く知らされました。

老いた身の上では、活動と云っても現在している仕事位しか出来ません。させてもらえる幸に感謝しつつ、これが私の生き甲斐と、いつまでも続けたいと思っています。

### 生きがいを求めて

小西 實

私は、昭和六十二年三月に、鏡の里保存会を結成し、鏡の里の保存と創生に取り組んできました。

それは、豊かな景観と、史跡、文化財の多い土地柄で、今取り組まねば、消滅散逸の恐れありと、みんな考えたからです。そこで、景観づくりと環境づくりの奉仕活動、それに、鏡の歴史研修、資料収集に、又、義経を尋ねての歴史探訪にと取り組み、少しずつふくらましてきました。

これからも、四十八名は、生涯学習に、社会参加活動に、又、淡海文化の創造に、竜王町の緑と文化のまちづくりに、夢をもちながら頑張っていきたいと思っています。

## 趣味

十四期生生活学科 澤 きみ子

何か新しい事に挑戦してみたくて大津絵教室に入会して一年余りが過ぎました。最初は簡単な運筆練習でしたが、思う様に描けません。自分の力を試すのだと思い一生懸命に練習しました。黒・朱・白・黄土・色々の絵具を使ってユニークに描く大津絵、元禄時代より連綿と描き継がれてきた独自の美しい曲線崩れた顔に魅せられて、一枚の型紙より私の大津絵が生れる、何にも替え難い思いです。あまり上手に描けたとは思えないが鬼の念仏を吾が家の玄関に守り神として掛けました。年齢差のある友と机を並べての練習、心のふれ合う場所でもあり、又楽しく大津絵鑑賞にも出かけるようになりました。最近、市役所や、銀行に展示して頂ける様になり、それを励みとして、続けていきたいと思えます。

## 感動との出会い

十二期生生活学科 野玉 一子

今、わたしは、中国旅行と船の旅に魅せられている。二つとも元は老大OBから参加して好きになったことである。三回めの中国旅行は瀋江下り。水辺で草を食む水牛の群れや奇岩が作る雄大な光景が広がっていく。煙雨にけぶる瀋江は、そのまゝ床の間にかきたい軸のよう。当時受講していた水墨画の通信教育作品に瀋江を描き、満点をいたゞいたのも忘れ得ぬ思い出である。

今一つは、昨年の六月二万トン以上の巨船「にっぽん丸」で太平洋上を旅したこと。船内での水墨画や漢詩のスクーリングは、現在生涯学習に大きくプラスしている。

「今夕の服装はフォーマル」というお知らせでアクセサリーに凝ったり盛装したり。「カジュアル」の時は気楽に夕食に参加。いろいろ着飾るチャンスも楽しい一ときである。時差のため時計の時刻を変えることや、今船がどこを航行しているか表示して下さったり、海外へ出るため下船、乗船時の出入口はどこか等、船内新聞で知らして下さる。細かな気配りで快適な十日間。短かく感じたものだ。



彦根愛犬支部

生き甲斐を求めて

十期生生活学科 中野 久子

老人大学を卒業して以来お蔭様で、健康な日々を送らせて頂いている今日この頃です。生きがい教室が発足と同時に同窓生三人で指導員となり手芸教室が開かれました。始めての事と心配や苦勞もありましたが、皆様の御協力をいただきながら教へ教へられたりとお互いの気持も交流し心の安定感が湧いて来て同一家族の様な構図で、楽しく二年余りを通し世代交代で恙なく終了出来ました。思い返しますと歳月は人を待たず、とお別の御挨拶で申されましたが、全く其の通で過ぎ去る早さと思いを走せ皆様との出逢いをめぐりあいを求めつつ今日一日一日を大切に明日に望みを託し出来得れば更に広き出逢いと生き甲斐に励みたいと思っております、又一つの楽しみにしたいと思います。思っております。

老大必須講座に学ぶ

十一期生園芸学科 西堀 嘉一

私達人間社会は止どなく進展して科学文明のお蔭と思いつらも同時に反面空恐しさを感ずる昨今でもある。

古き教しえに「樂あれば苦ある」と言う通り、私達半世紀以前に経験した者にとっての老婆心で片付けられない問題があるのでは無かるうか。特に先進国日本の現状には種々不安が連想される。その一つに教育と生活レベルの向上に依り大變数字に強くなり為に当然の事だろうけれど經濟面に反映されている、それが經濟大国黒字大国と言われる日本の姿である。この姿はあくまでも表面であり看板であると言っても過言では無かるうなぜなら数字に強いと言う事は得か損か利か不利かで、世に對処し人間本来の心が希薄になり、むしろ失なわれつつあると言える時代継承は世の常であり、親は子へ子は孫へと言われ大切な以所でもある。其の人間資源の青少年が言わずもがな今日の現状である。何故だろうか、答は「因果応報」と言う可きか得か損かに依り行動する結果であり、現実に注目して見るとその一つに興味本意の悪書悪映の氾濫である。兎角マスコミは公器と言われるが其の器の中に在る人間は当然器に左右される。其

れが今後を懸念する所でもある。願わくば良き行動良き方向付けの出来る器であつて欲しいと思うものである。

自由は大切であり尊いものでもあるが、自由の中にも節度制限の必要な事は何人も否定出来ないと思う。悪を願う人は居ないとするれば、自由の中には特に節度制限が在つて不思議では無い。言葉の中に「眼前の事象に捉われて其の大本を逸つするなかれ」と強く戒めている。人類の現状は年を追つて日を追つて懸念される方向では無からうか。一つしか無い大切な地球を喰い物にしているのは人間である事は言う迄でもないが、興味本意、儲け本意、便利本意の以前に人類継続に必要か否か、又其の結果を冷静に判断して頂きたい。

戦後急速に自由化された私達は、自由と言う言葉に酔つては居ないだらうか、今人類反省の時である。

## // 自然の驚異 //

十一期生生活学科 福島 豊子

去る一月十七日早朝突如として兵庫県南部に起きた大地震により五千有余の尊い人命が一瞬にして奪われました。此処につ

つしんでそのご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の方や数え切れない被災者の方々に一日も早く安らかな日の訪れます様に念じるばかりです。宝塚市に住む友人から「お蔭様で家の倒壊は免れました。電気・水道・ガスのない生活の中で主人の入院、手術……二ヶ月振りに戻つた我が家の庭に紅梅・白梅が満開で迎えてくれて嬉しかったです」と便りをもらいました。天災の恐ろしさを目のあたりにした彼女はまた自然のなせる優しさに一人の安らぎを感じた事と思います。

焦土と化した片隅に草は芽ぶき、瓦礫の山の中にも花を咲かせる自然とは何と偉大でしょう。美しい山、川、湖に慈まれた私達は如何程自然の恩を受けていることか、「滋賀県は風水害も少なく有難い所や、感謝して暮そう」と日頃は年寄りの口ぐせの様に言いながら果して本当にそうだらうか。自分は自然にやさしくしているだらうかと深く深く反省しております。明治生れの父母やその又以前の祖父母達は今の私の数倍も厳しい生きざまの中で自然を敬い自然を愛し自然と生活を共にして培つた日本人の情緒と生活の知恵を残してくれました、社会は移り変わり生活様式はどの様に変化しても自然を崇め自然に優しく日本人のこころ根だけは失わないでほしいと子や孫に願う今日この頃です。

## いざの時に備えて

十二期生園芸学科 田中 温

ゴオーの地鳴りと共に襲った激しい震動、一月十七日早朝の阪神大震災は、死者五千八百人、負傷者二万七千人、家屋の倒壊十一万棟、避難した人は実に二十数万人を超える大惨事となりました。

僅か数十秒の一瞬に、M7.2が国際近代都市を破壊しました。

高層ビルを倒し、高速道路の橋桁橋脚を横転させ、「安全神話」の新幹線の鉄路までも寸断させました、水道管の破損で各地に発生した火災現場も放水消火活動が出来ず、五十年前の三月十三日夜の大阪大空襲を思わせる悪夢の再現でした。

私たちの住む湖国も、活断層が走る地震の発生しやすい地帯です。

人を救えるのは人しかない、危険の中で道行く人々の力と、隣人の和が数多くの人々を救いました、この姿こそ人間に与えられた「いざの時」に發揮出来る無限の力だと思います。

忘れた頃にやって来る災難には日頃の家族との防災の話し合いと、地域で取組む防災救援活動と助け合いの大切さを互いに心にきざむことです。

不断の準備と今回の震災で得た数多くの教訓を、老人大学校で学んだ生きがいを高める精神と共に生かして行きたいものです。

## 友愛協力ボランティア

十一期生生活学科 村山 ヒサ

私が住んでいる愛知郡愛知川町に昨年オープンした町福祉総合センター愛の郷は設備も充実した立派な施設です。機能回復訓練室、寝たきり高齢者や身障者のための特別浴場、健康相談室、多目的広場も完備しています。私も友愛協力者のボランティアとしてお手伝いさせて頂いています。一人暮しの老人へ給食サービス、各家に届けるデイサービスや友愛訪問、一人暮しの老人招いて幼稚園児との交流、年末にはおもちつきをいたしました。午後からは映画の観賞も致しました。三月三日はなかよし会開催いたし楽しい一日を過してもらい午後からは映画の観賞会をいたします。

老人クラブ料理教室も月一回料理の先生にきて頂いてカルシウム摂取や老人向の食事を考へて指導して頂いています。わ

らべ歌コーラスグループも、月一回練習をしています。昔の幼  
ない日にもどって楽しい童謡を先生のピアノに合わせて歌います。  
地域老人クラブ連合会の友愛協力者の皆さんと一体となりお  
世話させて頂ける事を倅と感謝しています。

## 社会参加をめざす

十三期生スポレク科 山田 竹蔵

老大を終えて二年有余が過ぎました。卒業以来私達スポレク  
同期生は長浜市サンパレスで月例会を開き「体操」「フォーク  
ダンス」「民踊」等でいい汗を流し、昼食後は近況を話し合い  
旧交を温めている。

今日まで培かってきた知識・技能を聊かでも地域社会のお役  
に立てばと「老人の集い」「老人ホーム」に慰問の際は学習の  
成果を実践、参加者が輪になり、手をつなぎ音楽のリズムに合  
わせ、ゲームに興じる和やかな雰囲気は大変喜ばれ、今後も地  
域で高齢者と交流、ふれあいの輪を一層広げていきたいと思っ  
ています。

人生八十年時代を迎えた今、後半をどうして生きるか、心身

ともに健康で心豊かな日々を過ごすためには「自分の健康は自  
分で守る」身養生、心養生、家養生に心掛け、生涯学習に励み、  
積極的に社会参加して明るい地域福祉の向上に貢献できればと  
願って居ります。

## 同窓意識を支部活動で

盛り上げよう

十一期生園芸学科 磯貝 澄雄

彦根愛犬支部では毎年何人かの会員が退会され、今その対策  
に苦慮しているところである。

退会される人のほとんどが最近の卒業生であり、米原校舎出  
身者であることが少々気懸かりなところで、その原因は那辺に  
あるのか色々考察してみると、支部活動の中で会員として所属  
してもあまり恩恵が得られないということも勿論あるとは思わ  
れるが、一つは米原校舎に対する帰属意識が強く、大津校出  
身者と一体で組織されている現在の同窓会にあまり馴染めない  
という部分もあることは否めないと思う。

それは、米原校舎の第一回卒業生つまり第十一期生から現在

第十五期生までの四百余名の米原校舎出身者が今でも、卒業年次、学科を問わず毎年定期的に合同で総会に替わる懇親会を行っていることに無関係ではないと推察されるからである。

平成四年四月に長浜豊公園の桜の花の下で第十一・十二期卒業生が合同の花見を兼ねた親睦会を行ったのが始まりで、以降卒業生は年々九十名前後つつ増える中でも、すべての卒業生を対象に呼びかけ、希望者が参加して行われているもので、参加者は昨年の第三回には百五十名を超す盛況であった。今年は第四回として会場を彦根に移して盛大に行うべく、今準備が進められていると聞いている。勿論この会には固有の名称も無ければ会則とか規約のようなものも無く、同窓会という組織的なものではないが、会員の中にはこのような親睦会に参加していれば、既成の同窓会に、別に会費を納めてまで入会する必要もないだろうと考える人も無きにしもあらず。

然しこの会（親睦会）は永続するとは考えられず、年々卒業生が増えていく中で総会的な行事をおこなうことは物理的に困難であることは自明のことだ。

私は、卒業後年数のあまり経ていない会員で熱烈な母校愛や同窓意識をもった人達が、吾が同窓会の各地域における支部活動の中でそれらを大いに發揮して、会員相互の親睦を深め、研

修と併せて母校の発展にも寄与することが一番望ましいと思っ  
ている。とかくマンネリ化し易い会の運営にも活を入れ、もっ  
と活力のある支部活動が展開されるよう望んでやまない。

折角会費を納めるのであれば、それを有効につかい、会費以  
上の見返えりが得られるようお互い努力しようではないか。

## お先へどうぞ

十五期生文芸学科 高木 徳本

「相田みつを」という人を私は知らなかった。老大の学友が  
一冊の本を私にくれた。

「雨の日には・・・」という本だった。それは洒落れた装幀  
の本で、表紙いっぱい「雨の日には雨の中を、風の日には風  
の中を」と、太い筆で書いていた。そしてその本の帯には「や  
り直しがきかない人生を勇気づけてくれる、心の書」と謳ってい  
た。どのページを開けても、独特の文字が躍っており、その詩  
からその言葉から強烈ないのちの讃歌といったものが感じられ  
た。

この本の中で、いまでも鮮やかに私の脳裏に焼きついている言



葉を一つ取り出してみよう。

「自未得度先度他」というのである。棒読みすると「じみとくどせんどた」和文にすると「おのれ未だわたらざる先に他を度す」と読む。

いいことは、他人さまを先に、自分のことは後まわしという意味で、仏典にある言葉だそうだがそれ以上のことは知らない。「お先へどうぞ」という暖かい言葉があるが、これはひよっとすると、この仏典の「自未得度」がもとになってできたのかも知れない。

いずれにしろ、他人なんかそっちのけ、自分さえよければという殺伐な心の涵れきった世の中、私は「お先へどうぞ」という潤いの心を忘れたくない。

## 心の芯

十五期生文学学科 野村 静野

レ大十五期文学学科生としての自覚を持って、二年間通学させて頂き愚かな私を価値づけして下さいました。必修教科で自史を纏めるについて、どういう内容をどの様な順序で執筆す

るかを習得致しましたので、心を傾注し実行したく思いました。又他に對し報い無くして奉仕の信念を培うには、心身共に健康でなければならぬ努力と修業を積む事等説いて下さいました。高齢社会に於て傍の病む同僚の支えになる生活は、往生時に現われて来るので、現在に人となりを培かっておく事が如何に大切であるかを悟らして下さいました。

同窓生が励まし合う機会を得ています故、研鑽に精進出来る身に感謝しています。

## 猪突猛進

五期生園芸学科 西沢 正三

一九九五年は乙亥（きのと）で六十年に一回廻って来る最悪の年である。一月十七日は阪神大震災が起きた。今後のことは未知数であるが十分警戒したいものである。さて猪と言えは猪突猛進と言ふ言葉を連想しますが、猪突猛進とは猪突猛進せよと言ふのではなく猪突猛進を諫めた言葉である。例へば相撲の力士が猪突猛進して相手にかわられて土俵の真中で四つばいに倒れることがある。要するに猪突猛進とはよく前後左右四圍の

状勢をよく見ながら石橋をたゝいて渡ることが処生の良法だと人間に教えた言葉である。今年は特に猪突猛進でなく、災転じて福となすよう心掛けたいものである。

## 生きる喜び

七期生文芸学科 寺村 ヨシ

老人大学を卒業して九年が過ぎました。

当時の会場は大津にありました。幸い彦根から同科の加藤恵美さんが入学され彦根―大津間を学生気分で励まし合いながら楽しく通学いたしました。授業内容も学識豊かな先生方に学ぶことが出来十分に心が満されました。

二年間はアツと云う間に過ぎ卒業後は短歌の道へと志をたてた折河村純一先生の訃報に接し全くショックでした。暫くして友人の薦めで俳句に転向、いい先生に生まれ以後「生きる証」と日々苦吟を重ねている今日此頃でございます。七年前に主人を亡くし只今は独り暮しですが何よりの心の支えとなって居ります。

又以前より紙人形作りを続けて居ります。月二回の講習には

同好の志の方々と先生を囲み、美しい千代紙を使って日本人形を作り上げます。顔に目と口を貼って仕上げた時の喜び!!  
飾戸棚には大少の人形が並び一つ一つに思い出が湧いて来ます。訪れる友達に楽しんでいたゞき時には贈物にと喜びの輪を広げています。

この春帰国の息子家族で心賑はい一層健康に気をつけて心の和を広げてゆきたいと念じて居ります。

拙句 芳

亡夫恋うる想果てなし曼珠沙華

京菓子の小箱に並ぶ春の彩

虫干の一枚づつに我が曆

新年を電波にのせて子等の声

珍らしき友の賀状に遠き日を

## 古文書の解読を通して

十五期生文芸学科 川並 稔男

先日、NHKの「小朝が参りました」に百才の女性が出ておられたが、一見七十代にしか見えないお元氣な姿に感服してし

まった。彼女の話によると若い頃より勉強好きで、何にでもトライするのが若さの秘訣だとか。私事で恐縮ながら、平成三年と平成六年に古文書特別講座を受講それぞれ仏大水野先生、夙川女子短大馬場先生のご指導により、古文書解読の極意の一端を伝受されたおかげで、甲良町老ク連に、古文書学習会なるクラブを発足させる事が出来、月一回の勉強会に勤しんでいる所である。甲良町教委も、その成果物（蒐集した甲良の古文書とその釈文解説）を冊子にまとめたらと好意的であり、もっとも之は、口で云う程簡単ではないが、何とかものにしたいと頑張っている。今一つ古文書解読学習の良い点は、勿論知的レベルのアップは当然として、如何に自分が何も知らなかったかを思い知る事になり、傲慢尊大な我を反省し、人間的にも豊かになれるように思えることである。

## 災害に思う

三期生園芸学科 辻 幸夫  
自宅の古い井戸が昨年十月急に多量の水が吹き出した。不吉な予感を感じた。自分なりに準備する寝室には家具を置かない

避難の準備や二階の七戸の窓にはシャッターを取り付け。福井地震を思い出し出来る限り物心共に準備している。幸い屋敷が広く大木樹木が多く地震に強い、避難するには恵まれている。他人事ではない。

日本列島は環太平洋地震帯の中にあり何時何処で地震が起ても不思議ではない、地震予知はまだまだ技術的にも難かしい。心の準備は必要と思う。

## 目標は百歳

三期生文芸学科 北川弥一郎

私の健康長寿三条件

- 一に食事
- 二に血のめぐり
- 三に深呼吸

幸い健康長寿に恵まれ、毎日を報恩感謝の生活を続けていますが、本年から更に、目標は百歳で、努力したいと思っています。

今度わが町秦荘町・発展唱歌を印刷発表しましたところ好評

を得ましたので、これから老クの単位クラブや各種団体の希望を募って、出廻り町の発展ぶりを歌で紹介し団体合唱によって、親睦と健康増進に役立たせて頂けることを確信できます。自分の健康状態や過去数十年町政に、又町の発展計画などにも関与させて頂いた結果が今日の町の発展唱歌となし得たと思いき甲斐を感じます。百歳を目標に努力を続ける決心であります。

## 共に歩み

十四期生文芸学科 清水 はる

老大卒業と同時に地域の老人会、尼講の会にと入会して皆さんと触れ合いながら、何か自分の力で出来ることがあればお役に立ちたいと常に考えていましたので、この様に生き甲斐を感じ謝される人に出会えたことを大変うれしく思いました。

現在、町の公民館活動として老人俳句部が設けられてあり、共に勉強させて頂いています。ごく少人数ではございますが、毎月の会報にも作品が掲載されて、去る一月末には一ケ年の纏めとして作品集が編まれました。頁数も僅かな冊子ではございま

すが、どの句にも素朴な表現の中に実感がこもり、味わい深い俳句集となりました。私自身の励みともなっている次第です。

今や高齢化社会が、高齢社会となり、やがては超高齢社会に入ると言われています折、健康で明るく生き生きと生きてゆく上にも、何か一つ心を燃やせるものを身につけておくことが必要だと思えます。一人でも多くの人と出会い、語り合い、学び合い趣味をもつよろこびの輪を広めてゆきたいと願っています。

「前略……多難な毎日のわたくしにひと筋の光をさして頂いたようで有難うございます。この気持はどう表現すればよいかわかりません。苦渋の日々もありますが俳句をはじめさせて頂いて良かったと感謝しております。」これは或る人から頂いた手紙の内容の一部です。読み終えて私は胸に熱いものを覚えまし

十三期生文芸学科 中村 卯一

会報十三号は老大卒業の十三期生に当りますので一筆啓上す

る事にしました。私の人生で一番肝煎をしたのは、六十年代より七十年代を、町のふれあいと町の運営に力を入れて公望の勤めに励みました。丁度此の時にびわ湖総合開発の基盤である下水道浄化センターが、当町近接の地にアセスメント協議会により建設地として決定しました。当町は元より近接町村約五千人の反対者同盟づくりをして、県職員市職員とミーティングが続きました、私達も大義名分は良く承知していますが一般の反対者のコンセンサスを如何に受け止めるかが一番の課題でした、日が経つにつれ、行政より要望書を創って来れとの発言があり、町内の役員十名と毎晩創案を練りました決果各班より色々な要望が集り、十六項目条件を作り行政に提出しました処、承認を得ましたので一まず反対運動が治りました。まだ筆説は多くありますが、現在では処理場も完全なる操業を続けております。今になって町内の環境は良くなり会館も建ち、排水設備も完了しました。道路も完全なる舗装が終り各家庭の下水道工事も八〇%終りました。今は安堵感が漂う今日です。

過去の教訓に尊いのは頭でなく手でなく、足の裏である、一生きたない処に接し黙々としてその努めを果して行く、足の裏が教えるもの人民よ、足の裏的な仕事をし、足の裏的な人間になれとある。先輩と後輩の玉稿に目を通しつゝ、八十路の無常

観を試みました。



## 最近特に思うこと

三期生文芸学科 森 量海

本年一月末だ日本でなかった直下型大地震阪神地域を中心として起きた災害一瞬にして、大小様々な家屋が倒壊して数多くの方が其の災害に会われ其の中でも多数の人が瓦礫の下敷になり圧死せられ其の中でも即死することなく必死になって助けを求めていられた其の声をきながら山と重なっている瓦礫の下から助け様にも助けられない現状で、猛火につまれば焙られ足を焼かれ手をやかれ遂に生きたえて死んだ方の如何に多い事か悶死せられた方の現状を想像する丈でも身の毛もよだつ思いですがこの様な思いはどなたも思いは同じであろうと思ひます。其他何万人と云う人が怪我をせられ幸にも無きずの人と雖も今尚すでに一ヶ月以上になるにもかゝらずこの寒空の中、外で天幕の下で避難生活を余儀なくしておられる人々の事、悶死せられた方に対しても心より御同情申上げる次第ですがこの事は

災害に会わなかった人すべて思いは同じであると思ひます。テレビで度々報道されていますその道の学者の御意見でも今日これ程までにすべてが発達して居りますが天災地変の予知は例へ五分前と雖も予測出来ないとの事唯々周期的に突然起るであろう事は予測出来ます。研究家の発言によつても日本列島全域は全域に互り地震の起り得る処であるとか我々の現在住んでいる県下に於ても今から丁度八十六年前の八月中旬虎姫大地震が発生したと先人より度々きかされています。約二週間程度昼夜を問わず余震が起り何日も外で敷の中で蚊帳を吊つて夜をすごしたときいて居ります。その当時は衛生設備は悪く夕方になると何十万と数知れぬ蚊の大軍になやまされて余震と共に生きた心地しなかつた由です。この様な事を思う時我々の身边にも何時災害が近づいているとも限りません。

今日我国では国をあげて高齢者優先福祉充実を考え我々老人に対して面倒をみて頂いて居りますが今日の老人が心から有難いと思つて生活しているであろうか、昔と現在とを比較せずこんなものだと思つている老人の如何に多い事か。自分一人の事だけしか考えない人高齢者全部が感謝の気持をもつべきであると思ひます。その中でも我々レイカディア大学卒業生同窓会の会員の方々は、日本中で何百万人の高齢者の中で短かりしとは

言え老人として現在では最高の知恵をうけさせてもらった。その事を思えば高い誇りをもってよいと考えます。同時にこの誇りを一人心中に仕舞込む事なく社会に対し有能な最高の知恵を大学をうけなかったよき友にそれとなく身につけた知恵を分けあたえてほしいと思います。同時に亦自分の子供孫等に教育の本質に則って教える事が本大学を卒業させて頂いた御礼の印でもありその事すべてが最大の務めであり責任でもあると思えてなりません。

平凡に無意味にすごしてもこれから例年無事息災でいられるか一日一日を大切にしてい期一会を考え乍ら如何に長生できても同じ事がこの世に於ては二度とない筈です今日の一瞬が大切である事をつくづくと思う今日です。文句を言ってきらわれる老人より人に愛される老人になりましょう不幸は自分が種をまくものである事を 記しましょう。

## 心若く趣味に生く

六期生文芸学科 藤井 峯子

私は新春を健康で迎えられ神仏御先祖に感謝する。思い返せ

ば好きな毛筆で三百枚の年賀を無造作に懐かしい御顔を浮べ書く楽しみ又喜怒哀楽風物詩を短歌に綴る悦び総てが老卒故と感謝する。私の幼時教育に人は知らねど神仏は胸中迄を御照覚成りと真実一路で八十路歩む。

サルエルウルマン博士曰く。「青春とは人生の或時期では無く心の持ち方を言う年を重ねた丈けでは人は老い無い理想希望を持って居る時即ち青春成り」と。私は誠意と愛情を持ち人と交わり人の悲しみ分かる人にと。心若く美しく老い沈黙考で趣味を生甲斐の幸。

## 日々是れ好日

六期生文芸学科 黒田 英磨

「今朝もまた 醒めて目も見え手も動く あゝありがたき今日のいのちよ」

私は常に思う。人間はいくつになっても明日への希望を失なってはならない。そして加齢と共に日々我が身の老齡たることへの確かめを忘却してはならない。そのことはやがて事故を防

止し、更に慶びや感謝への心を増盛することにつながると云うことを。

過般、私は老くから「長寿の心得十ヶ条」と云うプリントを頂いた。その十ヶ条を暗誦して以来私は日々一条ずつをかみしめて実行するように努めている老人の心の持ち方や食事等について教えているように思う。すべてともである。

老人は常に自己過信、誇大妄想、世知弁才等の弊を除去して素直に謙虚にすべてを受け止めて今日の命を思い切り生きる気力こそ大切だと思う。道を求めて感謝しつつ生きてこそ日々是好日、真に生き甲斐ある人生が展開されると思う。今の時をかく生きさせて頂くことの幸せを必々と思ふ。

この度の大地震による多くの犠牲者に対して心から御冥福をお祈り致しますと共に、義援して寄せられた国民の皆様からの真心に今更の如く泣かされます。過ぐる大戦災から立ち上った祖国の大衆はやがて、きっと再生復興すること、確信します。この度の兵庫県南部大地震に、その目をおおうが如き大災害等そのすべてに対して合掌する者である。

「やがて散る花はそのまゝさわらずに そっとしておく心いたわり」

やさしさ一杯に包まれる私達も、今日の好日におごることな

く更に共生で連帯に誠を捧げて生き抜きたいと祈念するものである。

## 車椅子の生活

七期生園芸学科 真野 秀男

持病の心臓病が再発して、入退院を繰り返しているうちに、膝のリウマチが悪化して二度も手術を受けた。退院後も歩行が出来ないので、ついにベッドと車椅子の日常生活になってしまった。すでに七十才を越した、女房も脚腰の痛みで通院している有様。

二年前、意を決して、今後の療養生活のため、隠居所を建築しました。それには玄関、和室、洋間、廊下、浴室、トイレ、等、全て段差のない設計にし、二階には、階段に電動の斜行機を設置してもらった。一日の殆どは、テレビと新聞読書、それに窓辺の小盆栽を、眺めて暮す日課。幸い息子や娘夫婦も近くに居るので、月に一、二回は、外食に誘ってくれるのが楽しみ。三十年近く、養ってきた盆栽も息子夫婦と女房が、なんとか枯らさないよう、守ってきてくれたが、植替もまゝならず、衰



退するばかり、同好者には一部を差上げたいと思っている。

高齢化が進み、在宅療養が必要となってきたとき、いかにして老後を生きぬくか、同窓の方々への、参考の一部になれば幸いです。

## 亡き友を偲びて

十二期生スポレク科 田部 梢

同期スポレク卒の友人、「田部月枝」さんが亡くなられたことについて、筆を執ることに致しました。

平成五年十月胃癌の全摘出手術を受けられ、一時は快復されましたが、翌年十月頃より「腹がこわる」とか「ご飯が食べられない」と言われるようになりました。

十二月四日長浜勤労福祉会館に於て詩吟の温習会があり、二人で連吟することになっていました。大きな声でしっかりと吟じられました。それから後は日にお茶も喉を通らない日が続いていました。

御主人より、もう歩けんようになって入院したとの御電話をいただいたので、早速お見舞に走りりましたが、一週間の入院で

した。気力だけで生きて身体の芯までもえつきられた感が致しました。

安らかな御冥福をお祈りいたします。

## すこやかに

十二期生スポレク科 上橋 静代

老を卒業して早や数年、光陰矢の如くに過ぎる日の速さに今更乍ら驚きます。戦中戦後の混乱期を学生で送った私は、老大生として学んだあの二年間は学生気分を蘇らせ心身共に爽快で得る事が沢山ありました。中でも多くの友を得て今尚交友が続いているのは掛け替えの無い大きな幸せです。

また学習（スポレク）の中で人と人との触れ合いを大切に教えられ、老いては体を動かし、頭を使い、よい汗を流すことが健康の秘訣と諭されました。これ等の教えを基にして地域の老人会の趣味講座を通して少しでも社会に還元したいと微力乍ら努めています。

そしてこれから登る老いの山道を健やかに報恩感謝の念を忘れず美しく歩みたいと願っています。

## 輪禍にめげず

十二期生文芸学科 天野 美紀

平成元年入学殆ど初対面ばかりでしたがすぐうちとけて、学習日は勿論必修講座も公開講座も全部新鮮で楽しみに通学致しました。誠に意義深い二ヶ年を経て卒業後は老大で学習した短歌と書道も地元で勉強を続けて居りました。幸い健康状態に不安も無く、近くに仕事を持ち平穏な毎日でした。が好事魔多しとか、大きな災難が待ち受けて居たのです。

それは平成五年四月三十日朝、出勤途中農道で私の乗ったバイクと町内の方の軽乗用車と衝突事故です。一瞬私は道路下の水田に撥ね飛ばされ全身泥まみれのまま救急車で入院、不幸中の幸いにも頭部の損傷は免がれたものの右足大腿部骨折、左足膝下の複雑骨折の重傷と診断を受けました。

それから私の六十余年の生涯で初めての入院、左右両足手術に輸血点滴それに続く長いリハビリも止む無く体験する羽目と成ってしまいました。初めの三ヶ月は横臥もかなわぬ寝たきりの生活、主治医もナースも大変良くして下さったのですが私自身思いもかけぬ身の不運と精神的に奈落の底へすっかり落ち込んでしまい泣いて許りでした。

病室の窓から眺める空の雲と五月の風の中を軒にとぶつばめが私の涙を幾度となく覗いていたかも知れません。

鳶が舞いつばくろも来て点滴の吾を和ませる病窓の視野。

青葉道犬と馳け行く夢に覚む怪我のもろ足動かぬものを。

暗き闇に広き病棟包まれて淋しき夜がまた初まりぬ。

其のうち沢山の方々からのお手紙や、見舞に来院して下さる事も増えてまいりました。特に老大の同級生だった方も度々来て頂き、寄せ書の色紙は室の壁に貼って、それを励ましに、きつと此の足で歩けるまで頑張るぞと心に誓いました。

お蔭様で車椅子から松葉杖、歩行訓練と順調に回復し、七ヶ月余の苦しい入院生活にピリオドが打たれました。

今にして思えば此の度の大きな災難に遭遇した事により初めて私は今迄考えて居た以上に世間には大きな不運や病気と闘っておられる人を知りました。

そして誰にも役立たずだった私の様な者に、心から心配して篤い激励を下さった沢山の皆さまの温かい誠をしみじみ感謝の念いっぱいでございます。

交通事故のあやまち責むる刻印かもろあしにするき縫合のあと。

生きのびて光る五月の風に会う去年の輪禍に癒えし此の身は。

広き視野に歌詠むゆとり生れ初めぬ怪我の再起を転機ともして。  
現在は荒仕事は出来ませんが身の廻りの用事と畠の雑草引きまで位は致しております。

そして下手の横好きの趣味であった、江州音頭、書道そして短歌情歌俳句冠句と、以前から研鑽尽きる事ない雅を生甲斐として未熟ながら残り火を燃やし続けて行きたいと心からねがって居ります。

## 私の生きかた

十三期生生活学科 谷内 房子

老を卒業後、早くも三年目。私達は年二回、同期のなつかしい友が親睦を深める期会を持っています。が久しぶりのこととして皆さんの変りないお姿に接する時、とても楽しいことです。今回は幸いにも公開講座の機会をとらえて集ることにし、楽しみは倍増する事を願っております。

人生六十の坂を越えてからの老大時代をふり返れば、よい経験を与えて下さいました、生活学科の諸先生方の、新知識や一般

社会学など巾広く学び、恵まれた日々でした。お蔭でよい友を得、お会いすれば当時のころを思い出します。

現在私は積極的に登録ボランティア活動に従事し、地域の社会活動にも参加し、又多趣味の味わいをも楽しみ、健康を保ちながら頑張っています。

この度の大震災に高齢者の方々が、昔から生まれ育った地域が離れられず、そうかといって立ち上る力も十分で無く、其の心境を思いますと、心傷みます。五十年前、戦災で裸一貫となつた当時を思い出してテレビで報ぜられるたび、ふるえが止まりません、其の過ぎた日々の両親の苦しみが、今さらながら思われます。年を経た今日、私も高齢者となり、健康で、生かさして貰っている現在を感謝し、動ける限り社会に奉仕しよう、これも老ぼけの防止と、忙がしく暮らして居ります。

## 今が青春

十三期生スポレク科 中川志げ子

長浜市老人クラブ連合会は本年創設三十周年を迎え、去る十二月二日記念式典が開催されました。記念講演に引き続きアト

ラクシオンが催され、市街地々区ではフォークダンスと集団演技を演じることになりました。スポレクの卒業生が先頭にたつて十二名が舞台上に上りましたが、日本一を誇る剣舞・懐かしのメロディーを奏でるヴァイオリン・その道三十数年の奇術なども多彩な出し物に混つての出演で随分心配しましたが、間違いもなく無事終了し大喝采をうけてみんな喜んでおりました。

これまでも老人クラブの総会とか、スポーツ大会の折にはダンスや江州音頭・長浜踊りなどを男女会員ともに賑やかに会場いっぱい大きな踊りの輪を練りひろげます。ふだんは踊りに縁遠い人たちも、この時ばかりは頬をほころばせていきいきと若返り、老いの姿はどこかへ消え去っています。

老で学んだことは地元へ還元して欲しいとの先生のご意向でもあり、上手下手関係なく心の連なりを広げるようにと、機会あるごとに踊らせて頂いております。

「青春とはある時期を言うのではなく心の様相を言う」とか……この言葉どおり、いくつになっても「今が青春」と心身ともに爽やかに、楽しい日々を送っている次第でございます。

## 或る本を読んで

十三期生文学学科 中尾 春枝

昨年永六輔氏著の「大往生」がベストセラーになったと知り早速買い求めました。題のイメージとは異って、ふき出したり苦笑したりもして読みました。その中の一節に次のような事が書いてありました。

有名人が癌を公表する。マスコミが寄つてたかつて、その勇気を賞賛し涙を流してニュースを伝える。テレビスタッフやレポーターはヘンだとは思っていない。ヘンだと思つても、画面でそんな様子は見せない。これはヘンである。少なくとも、勇気のある行為と判断するのはヘンである。宇野重吉と賀原夏子。一人は癌を公表し、一人は最後まで癌を隠して、二人とも舞台上で倒れるように亡くなった。どちらが偉いというものではない。少なくともどちらが強い意志だろうと考えれば、隠し通す意志と、公表する意志では、公表しない意志が強いと思う。そこに苦痛がともなえばなおのことだ。

賀原夏子はその苦痛と戦いながら癌を公表しなかった。「老い」と違って「病い」は不運である。老いは平等だが病いはその対応と処置によって、老いとは別の覚悟が必要になってくる。

老いは受けいれればいいが、病いは闘って勝たなければならぬ。負ければ死に直面する。

又、賀原夏子は、死ぬ前に「始めて死ぬのに、この経験が役者として役に立たないのが口惜しい」と言って笑った。ということも書いてありました。

今私も齢を重ね、老いに真向いつつ暮す日々の中で、やはり自分の終焉の時の事については、今から心して飾らなくとも、頭がぼけない限り強い意志をもって、自分に納得の出来る最後でありたいと願って居ります。

## 日々を暖かく

十三期生文芸学科 朝日 貞

老を卒業して早くも三年余、全く夢の様です。昨年傘寿を迎えましたが、余り年齢を意識せず忙しい日々を送って居ります。老で学んだ俳句を基に月一回全員が集り、句会や吟行をつづけて居ります。他にも当長浜でも同志十人余り集まり、先生をお迎えしての俳句の勉強を致して居ります。出来得る限り自然と親しみ日々の生活もうるおいを得て句作出来る事を本当

に喜んで居ります。然しまだまだ名句ならぬ迷句が多くお恥かしい次第です。今後共句作に精進致し健康を保ち心豊かな余生を送り度く念願して居ります。

風ぐ湖に水尾煌めかせ鴨泳ぐ  
夕茜広がる湖や日脚のぶ

## 神戸大震災に思う

十三期生文芸学科 村上 善富

この度の兵庫県南部地震で亡くなられた皆様に謹んで黙禱を捧げます。

楮、此度の大地震は活断層の直下型M7・2という會て私達の経験した事のない未曾有の大地震であった事、地理的に日本の大道脈地帯であった事、火災が発生したこと等が大災害となつた主な原因として挙げられている。(平成七年二月十日現在地震による被害は、死者五二九六六、行方不明四人、負傷者二六八一五人、家屋損壊(棟)一〇九四六四、警察庁調べ)となつておりその被害の甚大さに目を見張るものがある。

然し考えて見れば之は決して人事ではなかった。私達は今、

「近江の活断層」の上に日夜生活していることを忘れ勝ちである。いつあの様な恐しい大地震があっても不思議ではない。私達の命は風前の灯だと言っても過言ではあるまい。それにしても今回の地震で私達は人智を過信し過ぎてはいなかっただろうか。やれコンピュータだ、パソコンだ、さては宇宙探作だなどと見せつけられてはそれも無理からぬ事かも知れないが然し自然の力の偉大さをまざまざと見せつけられた今回の大地震である。他山の石としてしっかり反省すべきであろう。

私は會て「五時間にて命を終ふる蜚蟻よ、百年生きる人のあるを知らずや」という下手な短歌を作ったことを思いだす。

仏智と凡智の隔たりをふと思ひ出す今日此頃である。

## 感謝の日々

十四期生生活学科 松村 敏子

一日一日が、ゆったりと時に輝いて過ぎて行きます。グラウンドゴルフは年毎に仲間が増え、身心が躍動する時です。手芸やちぎり絵のサークル活動は我を忘れる時です。昨年の夏、突然息子夫婦が引越して来ました。しかし住居は別棟となり、主婦

業や野菜作り花作りは、相変わらずですが、三人の孫を迎えて、賑やかな家族の味わいを噛みしめています。老犬の友達と年に何回かお会いするのが楽しみで歴史を訪ねながらの散策や食事と一緒にさせて頂いています。

昭和の激動期を過ぎて今よい時代にめぐり合い、よい環境の中で、よい友達を得て健やかに暮せる日々感謝の他ありません。

## グラウンドゴルフとは

十四期生園芸学科 辻 清治

私は数年前より健康のため、グラウンドゴルフに熱中して居ります。この競技はゴルフをアレンジした、新しい試みの軽スポーツで、誰もが勝てるかも知れないと言う、最大の魅力は運動能力、技術による差は殆んどなく誰れにでもその可能性、チャンスが十分あり、(でも他力本願ではない)自力が重視される高いプレイ行動が特長です。

「神照グラウンド」にて競技は八ホール、50m 25m 15mの目標にしてボールを打って、ホールインワンを狙いますが、なかなか

か入らず二打三打が普通です。よい時には一周20打以内で終りますが、何分にも高齢のためか駄目です。昨年は長浜市秋季大会で五位に入賞したのが最高でした。家内の方は長浜ドーム夏季大会には準優勝の経験もあります。健康維持のために週二回は練習して居りますが、なかなかよい成績が取れないので、苦心し、努力を重ねている現在です。何分にも練習かと思えます。

## 趣味・道楽

十四期生文芸学科 室 邦夫

先ごろ、町の老人クラブから「老人数え歌」を印刷したポスターが配布された。「一つとせ人は誰でも年をとる、豊かな老後を考えよ」から、「十つとせ共にみんなで話し合おう、一人ぼっちはふけるもと」まで、順次十項目の歌がならべてある。いずれも当を得たことがらで、老人としての心得がなかなかよくまとめられている。

しかし、さて自分自身の問題として、日常生活の場でどれだけ実行できるかを考えたとき、甚だ心もとなひ次第。我ながら不甲斐ないことである。

ところで、前に作家の佐野洋氏のエッセイ「趣味は歯磨き」を読んだことがある。ふとしたことから趣味は「ゴルフ、麻雀、それと歯磨き」ということになり、以来歯磨きがだんだん好きになり、物を食べたあとは勿論、外出のときも携帯用の歯ブラシを持って出るくらいになったという話である。このエッセイを読んで、成程これは面白いと思ひ、以後私も歯ブラシを持つたびに、「趣味は歯磨き、趣味は歯磨き」と、自分自身に言い聞かせることにしている。

立派な人生訓や処世訓もさることながら、卑近なことで、例えば食後の歯磨き、毎食の減塩、一日に一万歩等々、何か一つ実行して習慣にしようとするとき、この趣味は歯磨き式に取りかかるのも一つの手ではなからうか。あまり義務感にかられて意気込むよりも、これは私の趣味道楽と考えた方が、かえって長つづきできそうに思えるのである。

さて、こんな呑気なことを考えたり実行したりしているのも、私にとっては趣味道楽のひとつなのである。

## 生涯学習をめざして

十五期生園芸学科 松本 睦美

レ大を卒業させて頂きまして早や六カ月が過ぎようとしています。学校へ行っていました二年間は、毎日の生活に張りがあり登校が待ちどおしい日が多かったのですが卒業後は、なんとなく日が過ぎていく様であります。これではいけないと思いついて、二月からNHK学園生涯学習通信講座の「日常の書」を受講することとし、少しでも見よい字が書けたらと始めました。先日第一回のレポートを提出しましたが、筆づかいがむづかしく、思うように書けず苦労しましたが年内中には決められた課程を終了したいと思えます。

又、昨年末レ大の先輩より教えて頂きまして、滋賀県立農業大学の解放講座に出席しまして「果樹の剪定」について教えて頂きました。今年も五月から開講されると聞きましたので是非参加したいと待っている状況であります。

四月からは公民館の講座も開講されます、盆栽講座をはじめその他の講座にも時間の許す限り受講したいと考えています。

いよいよ今春からは老人クラブの仲間入り、諸行事に積極的に参加させて頂き、人生経験豊かな諸先輩に見習い、心身をき

たえ、地域の皆さんとの友好を大切に、レ大で学んできた事を無にしないように、有意義な楽しい日々となるように努力したいと思えます。

## 阪神大震災

十五期生文芸学科 山脇 リヨ

春には浅く、まだ寒さ身にしみる。阪神大震災、多くの犠牲者を出され、お見舞申上げます。

大きな悲しみの上寒さまたしぐれも降り本当にいとしく思はれました。がれきの下敷でなくなられた方々の早く慰霊祭をお気に掛けられた事でしょう。二十六日合同の慰霊祭が行はれみたまも安らかに眠って頂けると。市長さんも「再生を目指す」と宣言され、子供等も力強く「ふるさと」を合唱され参列した遺族も四千二百人悲しみを越えた復興を誓いに皇太子御夫妻も一人の思いをなされた事とお察し申上げました。

西宮の前の市長辰長さん「九一才」も亡くなられ「奥様の米子さん遺族代表として」立派な街になる様に努力する事が亡くなった方へのはなむけになると弔辞を讀上げられ「小学六年生



の男の友だちを亡くした。なぜ僕たちの街が荒れてしまったのだらうと悲しみを伝えると参列者の中からすゝり泣きの声が聴えた。

参列者の中から泣いていても仕方がない「皆出来る事からしよう。励まし合った。献花する、一般市民の長い列が夕方まで続いた。家のおじいちゃんと遊んだ日が懐かしかったと悲しい思いをかくし切れない様に話をしていた。とても良い御家庭だったらしい。どうか早く立治って昔の様な生活に戻る様に頑張ってください。

もうそろそろと、うどん屋さん等開店して、子供から老人まで働いていらっしやるお宅をテレビで見ました。うれしいです。日本人の美しいお話。きっと美しいきれいな街が作れる様に神かけてお祈り申上げて居ります。お気を落さずどうか頑張ってくださいお祈りして居ります。

阪神大震災の御みたまに

捧ぐ

かえざる面影偲び春寒し

合掌

## 私の健康づくり

十五期生文芸学科 久保田 稔

昨年九月同学科を卒業させて頂いた私は、ボランティアとして地域高齢化社会の方々に何をもって報い、役立てる事があるのだろうかと自問自答の末、GB競技と併せ審判員を選択しました。この競技が全世界に普及している理由の一つとして、高齢者の健康保持と痴呆症の予防に効果ありと信じたからであります。昔から定年退職後は悠々自適とか、晴耕雨読とかが老後生活の理想基盤とされてきたようではありますが、私は更に二文字を加え晴耕◎雨読㊦を座右の銘として晴天であれば農作業GBで汗を流し、雨天には在学中に学び得た俳句水墨画で頭を刺激し、老化を止めるべく努力している昨今であります。

## 生かされて

十五期生文芸学科 杉山 幹三

戦争が終って五十年、それまで軍国主義の日本もそれを境に平和国家へと切替りました。私等六十才代の者はその軍国主義

の中で少年から青春時代を過ごし兵隊にとかりたてられて行き  
ました。

二十才になると全員徴兵検査を受けて兵隊に取られました。

私は戦局のきびしい終戦の前であつたので一年繰りあげて昭和  
十九年十九才の春検査を受けてその年の十二月に召集を受け京  
都伏見の連隊へ入営しました。

召集は家庭の事情など考慮されずに科せられ私も早く父を亡  
くして祖母と母まだ幼い弟等四人をおいて行くことになつたの  
です。やっと私が働いて生計をたてていたのに、私を送る母の  
気持はいかがであつたかと思ひます。

軍事色に塗りこめられていたその時代これは当然の事のよう  
に思われ内に秘めた不安も苦しみも云い出せなかつたのです。  
雪の降る寒い朝母や弟等が駅まで送って来てくれました。

降りしきる雪の朝に征きし日を

思う平和の世に生かされて

一週間程伏見の連隊にいてどこか他へ派遣される事になり夜  
京都の駅前で汽車を待ちました。丁度その時は満月が京都駅の  
屋根の上に出ていた事が今も忘れられません。

いづこへの戦地へ行くか知らぬまま

駅前広場で月仰ぎおり

京都駅から博多の港に着きここで乗船を待ちました。いよいよ  
外地へ行くことをそこで知り生きて又日本へ帰って来られる  
かわからない外地へ行くのにもそのような悲壮感はなくただそ  
の時の流れにしたがつて日本を発つたように思います。

着いた所は中国北支の大同。身を切るような寒い所でした。  
ここで四月まで初年兵の訓練を受け四月にはいよいよ戦線へと  
出て征きました。戦線での体験は又別の機会に。

これは私が兵隊に行った時の思出ですが私等その時代の者は  
皆そのようにして戦争に行き多くの人が戦死されましたがお蔭  
様で私は無事日本へ帰って来られ今このように元気に生かされ  
ています。有難いことだと感謝し少しでも社会のお役にたちた  
いと老木の勉強を生かして町文化団体育成事業の短歌部の世話  
をし又村では観音堂の世話で毎日おとずれる参拝者に当村のす  
ばらしい観音様を拝観して頂いております。

人生六十七はまだ働きざかり八十九十でこの世を楽しみ百  
才になつたらいつお迎えが来ても悔いなく仏様のもとへ参りた  
いものです。

最後にこの度の阪神大震災で亡くなられた人々のご冥福を祈  
り復興の一日も早いことを祈念して終りたいと思います。

## グループ活動

### 老大同窓生の公民館活動

#### への協力について

七期生園芸学科 辰巳 外弥

生涯学習の必要が盛んに叫ばれている現在各町村ではその地域にふさわしい企画でユニークな学習が開かれていると思います。しかし受講生が少なかったり、又は長続きしない面もありますがわが町虎姫で行っております文芸講座をご紹介します。ご参考に供したいと思えます。

湖北地方は長い間雪に閉ざされて野外に出て働くことの出来なかった頃農閑期を利用して俳句、冠句、情歌等句歌を作つてそれを発表する娯楽が以前は盛んに行われて来た所ですが、現在にはほとんどの人が勤めに出てそうしたゆとりもなくなつてゆくように思われます。そんな折誰でも、初心者の方も、気楽に参加できて勤めの人も、家事に忙しい主婦も参加ができる方法として公民館で十数年前から通信講座の形で行っている文芸講座があります。

先ず所定の用紙に各句歌別に五句づゝ各月の十日〆切にて公

民館へ投句する、公民館では各部門別に取りまとめ、各選者へ送る、各選者は各人毎の詠草の中から二句宛選び、清書し公民館へ送る、公民館はそれをフワックスし謄写し製本し、各投吟者に添削された詠草と共に月末までに送付する。こうした方法で毎月句歌集を受講者に送ると共に、次の題と投句用紙を送るこれを年十回発行し、あとの二回は吟行月と句歌発表を兼ねた懇親会を行う、この方法で現在受講者六十名を数えております。こうした事業には老大同窓生は卒先参加し協力しております。こうした方法で手ほどきを受けた各受講者は町俳壇の句歌会にも、県芸術祭にも出句し優秀な成績を得ておられる方も少なくありません。

## 喜びの輪

十一期生生活学科 森 忠子

いろいろな人との出会いから、リフォーム活動をしています。老大のOBや地域の人の参加で月一回、町の中央公民館に集まり、作る喜びと出来上りを見る喜びを味わいながら、和気あいあいの楽しい仲間です。

編物・造花・小布細・押絵などの材料は誰に言うことなく不思議なほどたくさん集ってきます。みんな創作意欲が高いからでしょう、毎年の文化祭には力作の数々が出展されます。中でも押絵は花形で日本の心の糧でもあり伝承手芸として大切にしたいものです。これからも飾っておくだけでなく、使って楽しいもの、リサイクル甲斐のあるもの、可愛いセンスのあるものを、日頃から折に触れ考えながら社会参加しています。

又一方では私たちOBの仲間は地域老人クラブの人を混えて毎水曜日、健康体操をしています、掛声かけての組体操で心地よい汗を流し爽やかです、引込みがちで孤独な高齢者をおき去りにしないよう声をかけて喜びの輪を広げよう。

あれからもう五年お蔭様で足腰も達者で風邪も引きません。老大のOBは地域においていろいろなお世話をする中心的な存在でもありお世話できる我が身の健康を喜びボランティアにも参加しています、一昨年完成した雨森区国際通りのリング並木路に、董・サルビア・マリーゴールドの花植え草刈りなど、経験を生かして手早くできあがり、これも健康が故にと喜び、三軒の道のりも皆んなのペダルは軽い。

#### 国際通りの花時計

四季折おりの花を咲かせて

心よい気持で自宅に帰えれば、余呉川沿岸のゲートボール場は真近、澄み切った青空の下で快音の響きは爽やか、愚知など忘れさせてくれる場所である。

人それぞれの生き方は違えども健康で心豊かでありたいもの常に喜びと感謝の心を忘れず少しでも地域のためお役にたてたらと思っています。

#### 三人寄れば十人寄る

十二期生文芸学科 伊藤 博成

私の水差はこれです、え、それはマヨネーズの入れ物やおえんか、そうです、水はかなりの量が入るし、栓があって水がこぼれる心配はありません。写生会に行っても便利ですよ。

夫々の家には昔からの立派な水差しがありますが、持ち物を自慢する教室ではありません、この教室は「おっさん・おばはん」の寄りで、決して格調の高い事や物を見せびらかすのではないのです。

と墨絵教室で開口一番、口にした言葉でありました、更に平らたく、肩を張らないでお互いが零から出発して、皆んな一年

生とゆうことからやりましょう。

このようなことがお話出来たのは、老大に初めて集って入学式をすませ、学科ごとに分れてオリエンテーションを行ったとき、ほとんどの人は知らない、中にはA型・B型いろんな人々今まで何をしてきた人やら様々、自己紹介が例の如くに・・・まで、さて今が大事、最初が万事を決する、「肩書きは止めましょう」。しばし無言、一人のおばさんの発言でした。

「それはよい事です、何にもかも知らぬ者同志で一年生で出発しましょう」、この一と言がどれだけ大事であったことか、OBになって、今でも仲良く、おっさん、おばさんでお互にお附合出来るのも、そのおかげです、この教訓とも言うべきことを墨絵の教室を開くに当って、そのまゝのタイプで始めたわけです。

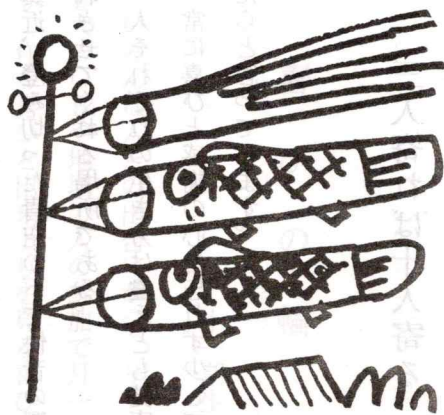
老大で学んだこと、経験したことは、お互の協同生活の中にもあったのです、集いの中で学んだこと、今になって、よかったなあと思うものであります。

墨絵の教室は約三十人、甲良町の公民館で開いています。月二回、絵を書くことよりも、面白い、何が、集った教室の雰囲気。誠に結構なことであり、中にはプロ顔負け、羽織のうら地に粋な専門の絵を画く人、仕事も様々、新年会は全員が

迷歌手そのものであります。

秋の文化祭には墨絵の軸三十点、その他工夫・創作の作品が多く展示されます、年一回の写生を兼ねた遠足は手弁当で湖のほとりや、社寺仏閣等々、車中は話しが途切れず、笑いでガラス窓が外れそう、メンバーの中には老大のOBも居られてありがたい、志を共にした者が又相寄ってレイカディアの一分身を作っているようなものだと言えましょう。

現在時々フリーに参加できる講座等があることは実によい計画であり、十二期の時分に返って友共々六十・七十の手習い続けている今日であります。



藤祭り

十一期生文芸学科 前川 進

見上げる藤の花は「紫の雲」に見立てられ、微風にゆらぐさまは「藤波」と歌われてきました。

安曇川町では町民に、中江藤樹先生の教えを伝えようと、有志が藤の花を育ててきました。藤花一ぱいの美しさに町民は歓声をあげて感動します。商店街の人々も熱心で、町と一体になり、藤を中心とする花一ぱい運動に努めています。

藤祭りは、学校を卒業して都会に就職・進学する青少年たちの心の活力源になればとの願いをも含めているのです。

藤祭りには、藤樹先生の劇の外、習字・音楽など多彩な発表があります。中心となる藤花については、私達の「藤の会」が責任をもって担当します。老人大学の嶋岡先生にも指導して頂いて藤の成育もよく一同感謝しています。

一昨年の緑の日には、私たち老人大学の校長の県知事さん

も「藤祭り会場」に足を運ばれ感動されました。

藤の花と近江聖人中江藤樹先生——私達は藤祭りの行事を通して藤樹先生の徳を仰ぎ相互研修の内容を深めたいと念じています。

安曇川駅前「藤樹先生の銅像」は、常に暖かく町民を見守りつづけておられます。

藤の花、それは安曇川町の花なのです。

老人クラブを生きがい

十一期生文芸学科 鎌田 成治

昭和六一年二月、縁あって県外より安曇川町へ転居して来ました。二年目に、二百十世帯の団地の副区長、翌年は区長という事で、随分苦労をしました。九〇%が京阪神より転居して来られた人達です。

区長二年目に老大へ入学しました。多忙な毎日で欠席する事が多く、卒業は出来ないのではないかとあきらめていました。

そのうちに、心筋梗塞、狭心症ということで、守山市の成人病センターへ入退院を繰り返えし、二年有余、やっと回復致し

元気になりました。

今でも通院していますが、医師と看護婦のみなさんには、感謝の気持は忘れられません。

せっかく元気になったのだから、何か私に出来る仕事はないかと思っていたところ、安曇川町老人クラブ連合会より、事務局と、コーディネーターをやってくれないかと、依頼がありました。早速承諾して、はや二年が経過しました。微力ながら、老人の方々の健康推進と、趣味の活動のお手伝いを、月々金まで行っています。

お蔭様で私自身の健康維持にもよく、やって良かったと喜んでいます。その上当町には、元、老大的講師をしてもらった、平井英太郎先生が、老人クラブの顧問で居られるので、種々ご指導を受けながら頑張っております。

## 老大へのお勤め

十三期生文芸学科 澤田 初子

老大卒業より早や二年数ヶ月の歳月は容赦なく流れて行きました。入校後は老人社会に貢献するのが本意なれどそんな技量も

才能もありませんが一人でも多くの方に入学して戴きよりよき老人社会の向上を願って居ります。老大の充実した内容、交流、

講師、人間関係等お話して微力乍ら四人の方に入学して戴きました。私にすぎた良き友を得、還暦をすぎてこんな素晴らしい人生があったとは、紆余曲折の今迄が嘘の様な気がいたします。良き友は幸せを倍にし、悲しみを半分にする、その人の人生は友達によって決まると聞きました。が過言でないと信じます。折り返し点過ぎてのマラソン人生、背筋を伸ばし一日一日を大切に終点までマイペースで走りたいと念じています。

最後に阪神大震災の修羅場と化した放映を見る時、ほんとうに胸が痛みます。特に老人の方々の仮設住い、一日も早く幸せな日の訪れる事を願って止みません。

合掌

## 地域の皆さんと楽しく歩む人生

十五期生園芸学科 谷口 一雄

平成四年十月より、平成六年九月まで、あっと云う間の二年間、卒業してはじめて迎えるお正月を地域の皆さんと、何か小盆栽でもやってみたいな一と思っていたところ、年末のマキ

ノ町文化協会の役員会が開催され、その席でお正月の寄植も、長らくやっていないので、会員の方達にも喜ばれるのでないやろか、との話になり、一応実施することを前提として、希望者の募集、又それについての物資の斡旋等、についても町教委社会教育課の皆さん方の御協力をいただき是非実施したい。又その席で一人でも多くの方々が受講していただけるよう、依頼した。いよいよ受講者の募集をいたしましたところ、四十数名の受講者が申込まれました。早速予約注文をしておいた守山市の中西農場へ、植木鉢、土、松、梅、植木添の笹竹、南天、福寿草、苔、寒水石、富士石、何かちよっと一鉢作るにしても、これだけの材料が必要なわけです。当初心配しておりましたが受講者の皆さんの御協力のお蔭で、二日間に亘り、開催いたしました講習会、盛会裡に終了いたしました事を、御世話下さいました皆様方と共に大変喜んでいただいたことを思い出しています。寄せ植の講習会を終わったあとからも何やかんやと質問の問合せも二、三件ありました。又いろいろの集会の席で受講生の皆さん方にお会いした時、今までにない話題が出てまいります。ある人は、先だつては種々御世話になり生まれてはじめて植木を鉢に自分の手で植えました。今迄は植木屋さんで買って来て、一年何とか世話できて、二年目は枯れているか、半身

不随でいるのはまだましな方ですなァ、と云う話等、中々笑話の様な苦労話が皆さん持っていらっしやるわけです。お蔭様で私達、二ヶ年御世話になりました辻興左エ門講師、毎時間手とり足とりで教えていただきました。よく先生はこの植木は何を話そうとしているのか、分る様にならなアカン、よく言われました。植木は水をやっていけばよいのでは立派な樹にも花もつかない事を心から教えていただきました。

## レクに魅せられて

十四期生スポレク学科

志連政五郎  
志連紀恵子

老大二ヶ年の成果に加え、出来ることなら更にその上にレク専門の知識と技能を上乗せしたい思いから、今度は身の程もわきまえず日本レクリエーション協会公認「レク・インストラクター」の資格取得に挑戦した。七十才を前にしてのこの試みは、或いはギネスブックものかも知れないなどと苦笑しながら、自宅から遠く離れた県内各地の講習会場へ通うこと一年有余日、時には雨の日もあり風の日もあり、或るいは夜七時からの夜間講習や、ユースホステルを会場とした一泊二日の集中講義も混



じえた延べ五〇時間に及ぶ「レク理論」や「レク実技」の学習と、そして、現場実習や論文の提出等々を終えて、お蔭さまで夫婦そろってこの程めでたく? 『レク・インストラクター』という公認指導者資格を取得することが出来た。思えばこの一年間、幸いにも健康に恵まれたこともあるが、矢張り夫婦揃って取組んだからこそ、途中挫折することもなく続けられたのではなからうかと、惚けではなくそう実感している。

私達夫婦が本格的にレクと対面したのは老大に入学した四年前のことである。それまでの長い人生で、時に踊ったり唄ったりゲームに興じたりしたことも多少はあっただろうけれど、今にして思えばそこには『レクの精神』は生きていなかった。本当のレクリエーション活動は仲間づくりを大切にし、和を尊ぶ。老大の二年間、講師の草川一枝先生は常に「技術の上手下手よりも仲間の和が大切、心の通い合う人間関係をつくろう」と教えられた。今回受講したインストラクター資格取得講習においても全く同様のことが強調され、レクへの魅力が一層高まった。私達夫婦は現在、マキノ町内でスポレククラブの支援活動(指導)を毎週続けており、更に郡内各町村へも指導に出かけているが、矢張りこの考えで臨んでいる。

レクへの魅力が強まる中、お調子者と笑われるだろうけれど

も、今後も健康であり、学習の機会に恵まれば、もう一つ上級の『レク・コーディネーター』の資格取りにチャレンジしてみようかなあと、果てなき夢を追い求めるこの頃である。

## 「癸酉の会」

十四期生文芸学科 小林 鈴子

老大で二年間育んだ短歌の道をつづけて行こうと生れたのが「癸酉の会」である。早いものでもう一年半になる。月一回ではあるがほとんど全員が出席する。山村先生に引き続き指導を受けている。出詠の歌もみんな上達したと思う。先生にうまくなったとおだてられるとみんなその気になって……………

時には吟行にもつれて行ってもらう、春には三井寺、唐崎方面に行き知識の豊富な先生より歴史や、花、鳥の名前、習性など多方面より中広く教えていただく。また友達が持って来て下さったぜんざいを戴きなごやかなひとときを過すこともある。歳と共に感動も感性も乏しくなっていく此の頃ではあるが夢を詠い、社会を詠い、自然を詠い、先生が教えて下さった「物を見る目」をやしなうこと、視点をせばめひとところをみつめ

て作歌する。この教えを元に歌を作って行うと思う。こうして培かった勉強の場を、友情の輪をたやすことなく生ある限り詩の道にいそしみまた短歌を通じ社会へも貢献して行きたいと思う。風に乗り橋こえゆきぬ白鷺の、黄色き脚をふたつ揃えて、土土なかの深きいぶきに触るるごと、夫植えおきし自然薯掘る、

### 戦友会に参加して

十五期生文芸学科 田中 寛  
十五期生文芸学科 角野 豊市

卒業してから早くも五ヶ月が経過した。

若い青春時代は軍隊で学び年老いて老人大学に通い、ついに人生終末の喜寿の年を迎えた。我が人生の今後に残された年月を健康で有益に終らねばならない事をしみじみ実感する今日此頃である。

書を読むこと、字を書く事、奉仕的な活動、趣味に活きる事等皆大切であろうが日常生活に於て人との交りを良くすること

は一番大切ではなからうか、このような事を心しながらの余生の生活もなかなかむづかしい事と思う。先日軍隊当時の第三中隊の戦友大会が長浜で開かれ参加して来た。出席者二十九名であり多くの方ではなく、寒かった関係もあつてかむしろ欠席者の多い年でもあつたが、皆んな元気で若かりし五十年前の今では味わうことの出来ない軍隊生活を語り合つて話はずきなかつた。最後に戦友の歌や、聯隊歌を歌つた時は、皆んな遠い昔大陸の草原に沈む赤い夕陽の美しい景色を思い浮べた事だろう、昔のつらかつた日々が懐しい思い出となつて老いし自分の全身によみがえつたのである。

年老いてレイカディア大学に学び、良き学友との出会にめぐり合い卒業後も古典講座の学習に参加出来たこと等学校当時の交わりは絶えない。終生この交りを大切にして頑張つて今後の老いの時代の良い思い出となることを念じつつその日を大切にしたいものである。出それには先づ体の健康が大切であるが、これも生まれた時からその人の死ぬ日はすでに決つてゐると云われている。せめて短かい人生にこそ悔いの残らぬよう、抑々楽しくて有益な余生を歩みたい。

裏山の坂道登れば膝撫でて  
老い行く年を足に感じて  
食卓に妻の場空きて三年経つ

戦友会に歌う軍歌は青春の  
赤い夕陽がわが心にぞ照る  
再度の挑戦

十五期生文芸学科 田中 寛

今から二年前未だ老大の頃、厚生会館にてワープロ教室がありました。そこで初歩的な勉強を五回程勉強をしました結果、拙い乍らも、簡単な文章は打てる様になりました。つい我が家の機械は機種が異なる為に、満足な操作も出来ず、これは機械が悪い、いや古いからだ、未熟なことを忘れ、年金を叩いて新しいものを買いました。シャープの書院、これは又何もかも新し過ぎて皆目駄目、手のつけ様が無い始末で、その内に二年の歳月が過ぎました。折角習ったことも見事に全部忘れて仕舞ったのです。レ大も卒業の頃、ワープロ教室があるとのこと

再度申込みを致しました処、幸いにも今年の初回にその学習の場を頂き、今は懸命に勉強をして居る最中です。仲間の内にはレ大の同期生が三人も一緒に、互に研鑽し合い楽しく習って居ります。機械は前回と同じで、当時習ったことが少しでも思い出せればとは考えますが、すっかり忘れ全く記憶が蘇りません。愈々頭が老化して来たのだと自覚はして居るもの、歯痒く残念に思います。先生が懇切丁寧に指導して頂いて居りますが、なかなか覚えられません。何回も何回も繰返し練習をしますが、一寸席を立って来ますと、又逆戻りです。もう焦らず時間を掛けて練習することにしました。友達も同じ様なことを言っていますし、これでよいのだとも考えて居ります。

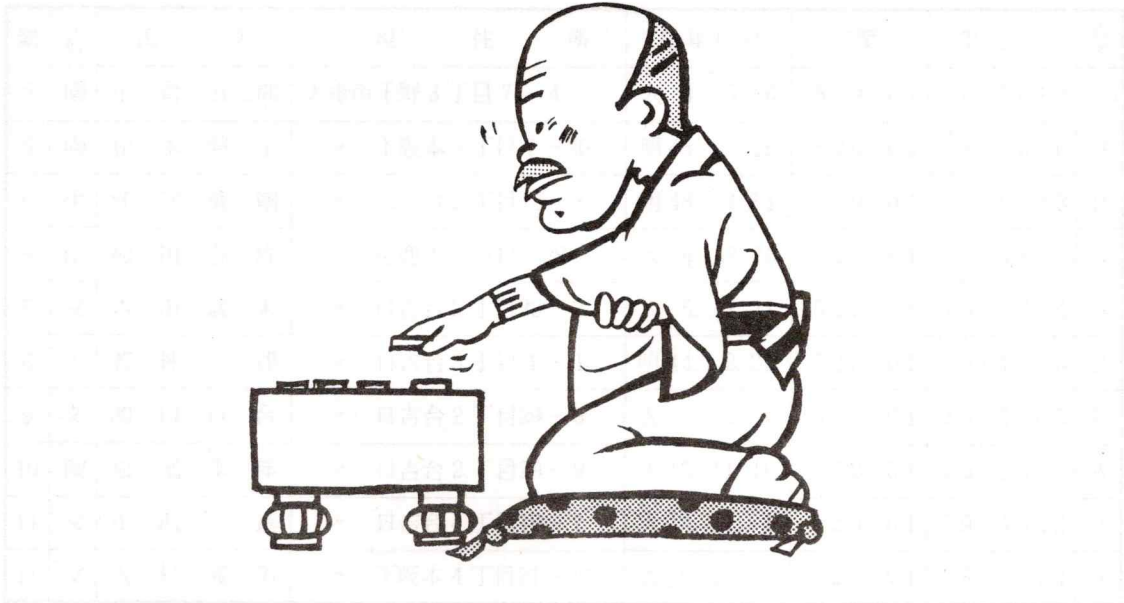
去る一月十七日、あの阪神の大震災では、尊い人命を失った方、五千四百余人その内半数から高齢者でありまして、只管ご冥福をお祈り申し上げます。尚避難生活を余儀無くされている二十万からの方々が、堪えて安住の場を待つて居られます。この様な被災者に想いを致す時、高齢の身であり乍らも習い事が出来る幸せを感謝しつつ、是が非でも、基本的なことは、マスターしたいと願って居ります。たまたま今年には地元老人会のお世話をするこゝとなり、ワープロの必要性は随所に出て来ます。斯様な見地からも必死の想いで頑張ります。そしてレ大の二年

略号プロフィール

略号	氏名	住所	生年月日	〒	性別
1	中村 幸次	大津市平田1-15	明治11. 6	30-02	男
2	小島 幸次	大津市大津21-2	大正5. 7		男
3	佐藤 幸次	大津市大津16-11	大正5. 8		男
4	山田 幸次	大津市大津126-20	大正13. 1		男
5	佐藤 幸次	大津市大津1丁目18-8	明治2. 5		男
6	山田 幸次	大津市大津1丁目30-31	大正15. 10		男
7	山田 幸次	大津市大津1-18	明治3. 10		男
8	山田 幸次	大津市大津町97	大正8. 4		男
9	山田 幸次	大津市大津5丁目11-2	明治5. 6		男
10	山田 幸次	大津市大津1丁目6-9	大正5. 2		男
11	山田 幸次	大津市大津5丁目17-20	明治5. 5		男
12	山田 幸次	大津市大津1丁目4-6	明治3. 5		男

間の成果が何とか生涯活動の場に反映出来ればと考え、そして  
 会員の皆さんに喜んで頂ける様精一杯の努力をしようと念じて  
 居ります。

日吉プロフィール



平成7年度		定期総会次第		年月日	時間	場所	備考
1	開会のことば						
2	国歌斉唱						
3	物故者に対して黙禱						
4	同窓会憲章朗読						
5	会長挨拶						
6	功労者表彰						
7	長寿者慶祝						
8	来賓挨拶						
9	議長選出						
10	議事						
	第1号議案	平成6年度事業報告及び収支決算報告					
	第2号議案	平成7年度事業計画案及び収支予算案					
	第3号議案	会則の改正について					
11	要望事項						
12	閉会のことば						
13	昼食 懇談						
14	解散						

議第一号 平成六年度事業報告及び収支決算報告

四、平成六年度事業報告  
役員会開催

一 会長、副会長辞任に伴い、選衡委員で選衡  
その結果 次の通り選出される。  
会長 安倍 勉(近江八幡支部)  
副会長 森 量海(湖北支部)

二 各支部の概要報告

・定期総会の開催 七月上旬 湖北  
支部担当  
出席者の割り当て及び負担金の額決

被表彰者の具申

三 新年度の事業計画及び予算案策定  
広報部より会報発行の内容説明  
五月中旬の理事会で審議決定する

四 退会の会長、副会長に記念品贈呈決定

五、  
一六

研修部会の開催  
一 研修旅行の具体化  
国内旅行 八月二十六日 三重祭博九四  
費用 九八〇〇円  
国外旅行 九月十九日、二十三日  
旅行先 香港 桂林 広州 香港 費用  
一九八〇〇〇円  
申込料 五万円 (参加人員十五名以上)

総務部会開催  
・理事會に提案する諸案件の審議決定  
役員会の開催

・定期総会に提案する諸案件の審議決定  
(決算、予算、事業計画、被表彰者選定、  
会則一部改正案)  
・總會に出席する人員の割り当てと負担金の  
決定  
・會則十二号最終校正

・定期総会の開催  
・會場 長浜市、浜湖月(担当、湖北支部)

出席人員 一六〇名 來賓(副校長、老連

事務局長)  
講演 長浜市民交流センター

・「演題 三原栄一所長  
人生航路八〇年共に生き共に生か  
されて」  
(参加者七〇名、バス二台分乗)

祭博三重九四  
公開講座受講 (講師 邦光史郎氏  
近江の都について)

・成果展の開催 (前日と最終日に展示品の搬入  
搬出)

・十五期生卒業式 (会長出席)

・十七期生入学式 (会長出席)

・役員会の開催(会場 大津)  
同窓会の運営全般について意見交換

・總會の要望事項のとりまとめ  
總會の要望事項の文面整理検討

・先進地の調査を踏まえて慎重に検討し要望する。  
広報編集部の開催

・研究会編修部の開催  
・研修部は時局柄国外研修は中止する。

・国内旅行は一日予定で秋に実施する。  
公開講座受講 木村武二氏(動物の性、人間の性  
について)

・会報原稿支部集め (特に名簿に誤記のないよう留意  
する)

六 六  
一六 二

七  
(一: 並単)

# 平成6年度収支決算書

(単位：円)

## 収入の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 費	1,163,000	1,410,000	247,000	現年度 1,193名 過年度 51名 15期 166名 計 1,410名
總會 会費	320,000	320,000	0	2,000円×160名
繰 越 金	872,250	872,250	0	
雑 収 入	4,750	16,161	11,411	パッチ15,000円 預金利子1,161円
合 計	2,360,000	2,618,411	258,411	

## 支出の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
報 償 費	150,000	272,300	△122,300	講師謝礼、表彰者記念品、前会長他記念品料等
旅 費	50,000	15,000	35,000	事務局職員連絡旅費
總會 会費	410,000	398,530	11,470	
食糧費	350,000	338,530	11,470	總會賄い及び花束
賃借料	60,000	60,000	0	總會会場借上料
会 議 費	80,000	57,940	22,060	理事会旅費及び賄料
研修活動費	1,200,000	1,183,337	16,663	
助成費	400,000	333,337	66,663	各部会旅費及び賄料他
広 報	800,000	850,000	△50,000	会報12号印刷代
慶 弔 費	30,000	7,037	22,963	弔電他
事 務 費	90,000	82,712	7,288	
通信費	50,000	15,250	34,750	切手及び会報郵送料他
印刷費	10,000	0	10,000	
消耗品費	30,000	67,462	△37,462	会長印、ゴム印、その他事務用品、同窓会章代立替
予 備 費	350,000	0	350,000	
次年度繰越	0	601,555	△601,555	
合 計	2,360,000	2,618,411	258,411	

特別会計 209,040円 ----- 一般会計へ繰り出し

(※ 寄付金及び終身会費並びに利息)

上記の通り報告いたします。

平成7年4月28日

会計 森安 孝子 ㊟

監査結果

平成7年5月1日諸帳簿、証拠書類等監査した結果、いずれも適正に  
処理されているものと認めます。

監事 西沢 正三 ㊟

監事 磯貝 澄雄 ㊟

議第二号 平成七年度事業計画及び収支予算(案)

○平成七年度事業計画(案)

九 下旬  
一〇 上旬  
十六期生卒業式  
十八期生入学式  
会報十四号発刊予定

四 二五  
四 一四

歌舞伎鑑賞教室参加 学生とOB  
総務部の開催  
理事会に提案する諸案件の審議  
(平成六年度歳入歳出及び事業報告、平成七年度予算、事業計画、会則の一部改正案、被表彰者の選衡変更)

五 一

役員会の開催  
定期総会に提案する諸案件の審議決定  
会則の改正、被表彰者の決定  
定期総会の場所、安土町司会、運営は湖東支部担当

五 末

会報十三号校正  
会報発行 支部配布  
先進地調査研究  
定期総会の開催 運営、司会は湖東支部担当  
参加者 一七〇名  
成果展の開催 於本部(在校生とOB)  
前日作品搬入と展示、終了後後始末と搬出  
公開講座(在校生とOB)

八 二八

野外民族博物館(リトルワールド)

九 二九

野外民族博物館(リトルワールド)



# 平成7年度収支予算書(案)

(単位：円)

## 収入の部

区分	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 要
会費	1,300,000	1,163,000	137,000	会員数1,300人
総会費	340,000	320,000	20,000	総会出席者170人×2千円
雑収入	4,405	4,750	△345	寄付金、預金利子
特別会計繰り入れ金	209,040	-	209,040	10周年記念寄付金残
繰越金	601,555	872,250	△270,695	
合計	2,455,000	2,360,000	95,000	

## 支出の部

区分	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 要
会議費	640,000	490,000	150,000	
総会費	490,000	410,000	80,000	出席人員180人×2千円、その他総会経費
役員会費	150,000	80,000	70,000	役員会経費
事務費	330,000	290,000	40,000	
嘱託料	150,000	150,000	0	
旅費	110,000	50,000	60,000	一般旅費及び調査旅費
消耗費	30,000	30,000	0	コピー用紙その他
印刷費	10,000	10,000	0	コピー代
通信費	30,000	50,000	△20,000	郵便料等
業務費	1,272,000	1,200,000	72,000	
総務部費	72,000	100,000	△28,000	部会経費
研修部費	210,000	300,000	△90,000	部会経費、成果展覧入出手当、公開講座開催費
広報部費	990,000	800,000	190,000	編集部会経費及び会報印刷代
慶弔費	140,000	30,000	110,000	
予備費	73,000	350,000	△277,000	
合計	2,455,000	2,360,000	95,000	

特別会計 1,089,330円 ----- 基金として積立

(※ 寄付金及び終身会費並びに利息)

## 議第三号 滋賀県レイカディア大学同窓会

### 会則を次の通り改める

#### 第一条 (名称)

本会は、滋賀県レイカディア大学同窓会と称する。

#### 第二条 (会員)

この会は、滋賀県老人大学校およびレイカディア大学の卒業生をもって組織する。

#### 第三条 (事務所)

この会の事務所は、滋賀県レイカディア大学本部内に置く。

#### 第四条 (目的)

この会は、会員相互が切磋琢磨し併せて親睦を図り母校の発展に寄与することを目的とする。

#### 第五条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

1. 定期総会および臨時総会の開催
2. 母校の活動に対する援助協力
3. 調査、研究に関する事項
4. 成果展及び公開講座に関する事項
5. 会報の発刊に関する事項

#### 6. 功労者の表彰

#### 7. 慶弔の実施

#### 8. その他必要と認めた事業

#### 第六条 (部の設置および分掌事項)

前条の事業を行なうため、次の部を設け所掌事項を定める。部長および部員は会長が委嘱する。

#### 1. 総務部

#### 第七条 (定期総会および臨時総会に関する事項)

この会の予算、決算、事業計画等の策定に関すること

功労者の表彰の具申、慶弔の実施

その他、他の部に属しない事項

#### 2. 研修部

調査、研修事業の策定

成果展および公開講座の共催

#### 3. 広報部

会報の編集、発刊に関すること

名簿の作成

#### 第七条 (支部とその区域)

この会に次の通り支部を設け、その区域は左の通り定める。

支部名	区	域
大津支部	大津市全域	
湖南支部	草津市、栗太郡各全域	
守山・野洲支部	守山市、野洲郡各全域	
甲賀支部	甲賀郡全域	
近江八幡支部	近江八幡市全域	
中部支部	蒲生郡、八日市市、神崎郡各全域	
湖東支部	彦根市、愛知郡、犬上郡各全域	
湖北支部	長浜市、坂田郡、東浅井郡、伊香郡各全域	
湖西支部	高島郡、滋賀郡各全域	

2. 支部は支部規定を自主的に定める。

### 第八条 (役員および役員の選出、任期)

この会に次の役員を置く。

1. 会長一名
  2. 副会長一名
  3. 理事、各支部二名、但し大津支部三名、(支部長および支部選出は大津支部二名、他支部の選出者は一名)
  4. 幹事四名、(事務局兼務、一名会計)
  5. 監事二名
2. 役員の選出は次による。

・会長および副会長は、役員会において互選する

・理事は、各支部から選出する

・監事は、各支部が交替で二名選出する

3. 役員の任務は次による。

・会長はこの会を代表する。

・副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

・理事はこの会の運営に当たる。

・幹事はこの会の事務を処理する。

・監事は会務、会計を監査する。

4. 役員の任期は二年とする。但し再任を妨げない。

任期中に辞任および退会したときの後任者は、前任者の残任期間とする。

### 第九条 (総会および臨時総会)

1. 定期総会は年一回会長が召集する。臨時総会は必要に応じ、役員会の議を得て会長が召集する。
2. 定期総会および臨時総会の議長は、出席会員の中より選出する。
3. 議事は、出席会員の過半数によって決する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

### 第十条 (総会に付議事項)

定期総会に付議する事項は次の通りとする。

1. 会則の制定、改廃
2. 前年度事業報告と決算報告
3. 本年度の事業計画および予算案
4. その他役員会において必要と認められた事項

第十一条 (役員会)

役員会は会長が召集して議長となる。

2. 役員会は総会に付議すべき事項のほか、この会の重要事項を審議する。

3. 役員会の議事は過半数によって決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

4. 総会に付議すべき事項であっても緊急やむを得ないときは、役員会の議を経て執行することができる。

この場合、次の総会に付議し承認を求めなければならない。

第十二条 (顧問)

本会に顧問を置くことができる。

第十三条 (経費)

この会の経費は、年会費および寄付金その他の収入をもって賄う。

1. 年会費は一千円とする。

但し、既に終身会費一万円を納入した者を除く。

2. 寄付金およびその他の収入

第十四条 (会計年度と決算)

この会の会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

2. 年度終了後、収支を明らかにした決算を作成し、監事の監査を受け総会に報告しなければならない。

第十五条 (慶弔)

次の通り慶弔を行なう。

1. 会員が数えて米寿および白寿を迎えた時、予算の範囲内で記念品を贈呈する。

2. 会員死亡の時、弔意を表する。

付則

この会則は、平成七年四月一日から適用する。

但し、第七条(支部設置)は、平成八年四月一日より施行する。

昭和五十五年十月一日公布の会則は、これを廃止する。

高齢化社会を迎えるにあたり、県当局におかれましては、昭和五十三年七月老人大学校を設立されました。

学校開校二年度の昭和五十五年七月に同窓会を設立し、爾来今日まで約一五〇〇余名の同窓会員は大学の建学の精神を体し、本部並びに八支部の事業を通じ、僚友の絆を強め、お互いの交流を深め、自己研鑽、或いは地域の各方面にわたり、或いはグループ毎に研鑽に努め、或いは老人の指導介護に活躍してはいるのであります。

特に同窓会としては年一回の総会を始め各種部会を開催し、事業の策定を図り、会報の編集発行、成果展の開催、また公開講座に参画し、さらに国内外の研究事業を実施し、会員の資質の向上と、指導者としての研鑽に努めている現状であります。幸いかな、県当局及び学校当局のご指導ご支援によりその成果は年々向上充実に感謝に絶えません。

つきましては、左記事項について、さらに施設の充実に共に事業の運営に格段のご高配を賜りたく、総会の決議をもって要望いたします。

記

一 健康生きがい課に今般専任課長を配し充実されたのであります。特に大学本部は、業務の複雑多岐にわたり、業務の速決処理に一層のご協力を願いたい。

二 成果展については、従前通り在校生との共催方取り計り願いたい。  
これに要する経費は学校当局で負担願いたい。  
(除く、搬入、搬出、飾り付け等)

三 会報発行について助成願いたい。  
四 草津校、米原校の不均衡是正に配慮願いたい。

- ① 米原校に陶芸学科の新設と施設の整備。
  - ② 園芸学科の実習地の設置。
  - ③ 米原校にレイカディア淡海塾の開催。
- (古文書講座、淡海の古典講座、ワープロ等)

五 碧水荘の水口町移譲に伴うことについて、尚引き続き陶芸の実習地として利用方配慮願いたい。

滋賀県知事、レイカディア大学長

稲葉 稔 殿

レイカディア大学  
同窓会定例総会

滋賀県レイカディア大学同窓会憲章

1. 互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めよう。
  2. 心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢者会の支柱となって働こう。
  3. 古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。
  4. 会員の研修及び母校の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。
  5. 社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合う輪を内外に広めよう。
- 平成六年七月十一日制定

滋賀県レイカディア大学同窓会

平成7年度 滋賀県レイカディア大学同窓会役員名簿

役職名	氏名	住所	〒	☎	備考	
会長	安倍 勉	近江八幡市馬淵町1738	523	0748-37-7011		
副会長	森 量海	長浜市常喜町281	526	0749-62-3910		
支 部 長 ・ 理 事	大津	下司 清	大津市鷹巣2-4-29	520	0775-25-0714	総務
		伊藤 実三	大津市穴太2-1-10	520-01	0775-78-0717	広報
		高野 喜六	大津市大江3丁目13-31	520-21	0775-45-1657	研修
		藤本 龍三	草津市野露136-48	525	0775-62-4732	総務
	湖南 (守山野洲)	中村 勝一	守山市吉身1丁目10-48	524	0775-82-3471	広報
	甲賀	島田寅次郎	甲賀郡水口町元町8-20	528	0748-62-2435	研修
		真鍋 光徳				広報
	近江八幡中部	小川 常三	近江八幡市長光寺36	523	0748-37-0606	研修
		佐々木尚一	為心町24	523	0748-32-5904	総務
	湖東中部	野沢 政次	菟生郡日野町内池521	529-16	0748-52-2551	広報
		木俣 信一	粟土町豊浦1283	521-13	0748-46-5010	総務
	湖東	野中 正	彦根市平田町67-6	522	0749-23-3387	研修
		西堀 嘉一	愛知郡湖東町勝堂1131	527-01	0749-45-2216	広報
	湖北	秋野 昇	東浅井郡虎姫町本間町1045	529-10	0749-73-2644	総務
松下 保清		坂田郡米原町三吉36	521	0749-54-2395	研修	
湖西	横田三千太郎	高島郡高島町勝野1264	520-11	0740-36-0646	総務	
	志連政五郎	マキノ町新保616	520-18	0740-27-1562	研修	
監事						
幹事	国友 進	米原校				
	阪口 伊織	草津校				
	森安 孝子	草津校				
	中島 桃代	米原校				

## 滋賀県レイカディア大学同窓会表彰規程

第1条 老人大学校およびレイカディア大学卒業生で、地域指導者として老人福祉の増進に寄与した者を顕彰するため会長表彰を行なう。

### 第2条 表彰の区分

1. 地域社会において、指導者として永年活躍し、老人福祉の増進に貢献した者
2. 老人大学校およびレイカディア大学において、学習した成果を生かした創作活動を長年続け、老人福祉に貢献した者
3. 滋賀県レイカディア大学同窓会の運営に多年従事し、同会の発展につくした者
4. 特別表彰 上の各号の他で功労顕著な者

### 第3条 表彰の方法

1. 内申は同窓会各支部から内申のあった者について、会長が本会の役員会に諮って決定する。
2. 表彰は原則として、本会の県定期総会か、記念大会において表彰する。
3. 表彰は表彰状と記念品を贈って顕彰する。

第4条 この規定は平成3年4月1日から施行する。

(改正) 平成6年7月11日から施行する。

## あとがき

広報部長 野沢 政次

われわれは、いや私は実に健忘症だと思う。一年前、一か月前のことすら覚えていないことがある。感動したこと、驚いたこと、悲しんだことが、もう記憶の彼方にかき消されようとしていることが多い。

この一年間の主な出来事を振り返ってみよう。

### ○政局

一九九四年、再編期を迎えた日本の政治は、細川、羽田、村山と総理が三人も交代する激動が続いた。非自民連立政権の乱れを突いて、自民党は社会党、新党さきがけとの連立による村山政権を発足させた。

村山首相は「人にやさしい政治」をキャッチフレーズとして、ハト派色を打ち出した。自社両党間の政策の違いがこの内閣の弱点になるとみられたが、村山首相は七月、自衛隊合憲、日米安保堅持の方針を明らかにした。

一方、臨時国会で政党法人化法とともに、衆議院小選挙区区割り法が成立し、新党結成の動きが加速化され、十二月、新進党が旗揚げした。この大野党の誕生により、わが国の政治は二

大政党制に向け一歩踏み出すことになった。

### ○猛暑

去年の夏は今世紀で最も暑い夏だった。

四月以来、全国的に高温少雨が続き、ピークの七、八月は観測開始以来の記録となり、東京では最高三九・一度、真夏日が五三日、熱帯夜も四四日と最多であった。特にわれわれ西日本では深刻な水不足に悩まされた。

### ○大江健三郎氏ノーベル文学賞受賞

十月十三日、大江さんがノーベル文学賞を受賞した。日本人としては六八年の故川端康成氏以来二人目。

ストックホルムでの授賞式前に「あいまいな日本の私」と題して記念講演を行い、戦争の過ちを招いたものとして日本人の「あいまいさ」を指摘し、戦後を支えた憲法の民主主義と不戦の誓いの意義を強調した。

### ○関西国際空港開港

初の本格的二十四時間空港として、去年九月に開港。第三セクター方式による建設・運営や多様なアクセスなどで注目された。



約一兆五千億円に達した建設費の負担、航空不況で予想ほど伸びない乗り入れ便数など、大きな課題となっている。

○阪神大震災

九五年一月十七日に発生したこの大震災では五四九〇人（三月十六日現在）の死者を出し、関東大震災に次ぐ災害となった。淡路島や神戸の一部などで震度七（激震）と、戦後では福井地震に次ぐ震度を記録した。

千数百年に一回という割合で動いた淡路島付近の活断層がずれて発生したといわれているが、改めて地球の巨大なエネルギーを見せつけるとともに、直下型地震にもろい都市の構造や避難・救援体制のせい弱さを浮き彫りにした。

今回の震災は、バブル景気に酔いしれて足下に迫っているはずの災害の危険を忘れていたのだ。また、自然の恵みを考えず、人知でねじ伏せ、科学万能、技術過信への社会に対する天の戒めであるとする識者もいる。非命に倒れられた方々のご冥福を祈り、被災者の一日も早く立ち直られることを祈る。

○関西国際空港開港

関西国際空港は、新築されたもので、従来の関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

関西国際空港の開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。開港は、関西国際空港の北側に位置する。

発行所

草津市南笠町新池二一〇一

滋賀県レイカディア大学

同窓会事務局

平成七年五月一日発行